２０２３年度
言語聴覚学科
シラバス

■目次

言語聴覚学科　教育課程（カリキュラムマップ） …… 3

言語聴覚学科　カリキュラムツリー …… 4

1年生 年間予定表 …… 6

1年生 シラバス …… 8

開講科目	頁
日本語表現法	8
英語Ⅰ	9
英語Ⅱ	10
歴史と文化	11
現代の社会	12
暮らしの中の法律	13
大学生活論	14
情報処理	15
医学概論	16
病理学	17
解剖学	18
生理学	19
小児科学	20
臨床歯科医学・口腔解剖学	21
呼吸発声発語系の構造・機能・病態	22
聴覚系の構造・機能・病態	23
神経系の構造・機能・病態	24
臨床心理学	25
認知・学習心理学	26

開講科目	頁
言語学	27
音声学	28
音声表記・分析学	29
音響学	30
言語発達学	31
言語聴覚障害学の基礎	32
失語症概論	33
高次脳機能障害概論	34
失語症・高次脳機能障害Ⅰ	35
言語発達障害Ⅰ	36
脳性麻痺・運動発達の障害	37
学習障害・発達障害	38
運動障害性構音障害Ⅰ	39
摂食嚥下障害Ⅰ	40
成人・小児の聴覚障害	41
聴力検査	42
視覚聴覚二重障害・重複障害	43
臨床実習Ⅰ（見学実習）	44
自然科学概論	45

2年生 年間予定表 …… 48

2年生 シラバス …… 50

開講科目	頁
英文抄読	50
統計学	51
健康スポーツ学Ⅰ	52
内科学	53
臨床神経学	54
精神医学	55
リハビリテーション医学	56
耳鼻咽喉科学	57
形成外科学	58
生涯発達心理学	59
心理測定法	60
福祉心理学	61
聴覚心理学	62
社会保障制度・関係法規	63
リハビリテーション論	64

開講科目	頁
言語聴覚障害診断学	65
失語症・高次脳機能障害Ⅱ	66
言語発達障害Ⅱ	68
拡大・代替コミュニケーション	70
音声障害	71
器質性・機能性構音障害	72
運動障害性構音障害Ⅱ	73
吃音概論	75
摂食嚥下障害Ⅱ	76
聴能・発語訓練演習	78
補聴器・人工内耳	79
臨床実習Ⅱ（評価実習）	80
神経の診かた	81
動作分析の基礎	82
口腔衛生論	83
保険診療・介護保険制度	84

3年生 年間予定表 …… 86

3年生 シラバス …… 88

開講科目	頁
基礎英会話	88
健康スポーツ学Ⅱ	89
神経心理学	90
心理学系総論	91
日本語文法学	92
言語聴覚障害学総論	93
言語聴覚障害学臨床応用	94
高次脳機能系総論	95
聴覚障害学総論	96
音と聴力	97
臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	98

開講科目	頁
臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	99
生命科学の基礎	100
口腔顔面の感覚・運動障害総論	101
地域リハビリテーション論	102
認知症のリハビリテーション	103
疾病論	104
リハビリテーション栄養学	105
視覚言語論	106
補綴・補装具論	107
言語聴覚学特別講義Ⅰ	108
言語聴覚学特別講義Ⅱ	110

ナンバリング …… 114

教員一覧、オフィスアワー、成績評価 …… 118

実務経験を有する教員の科目一覧 …… 119

言語聴覚学科　カリキュラムマップ

学修成果（到達目標）

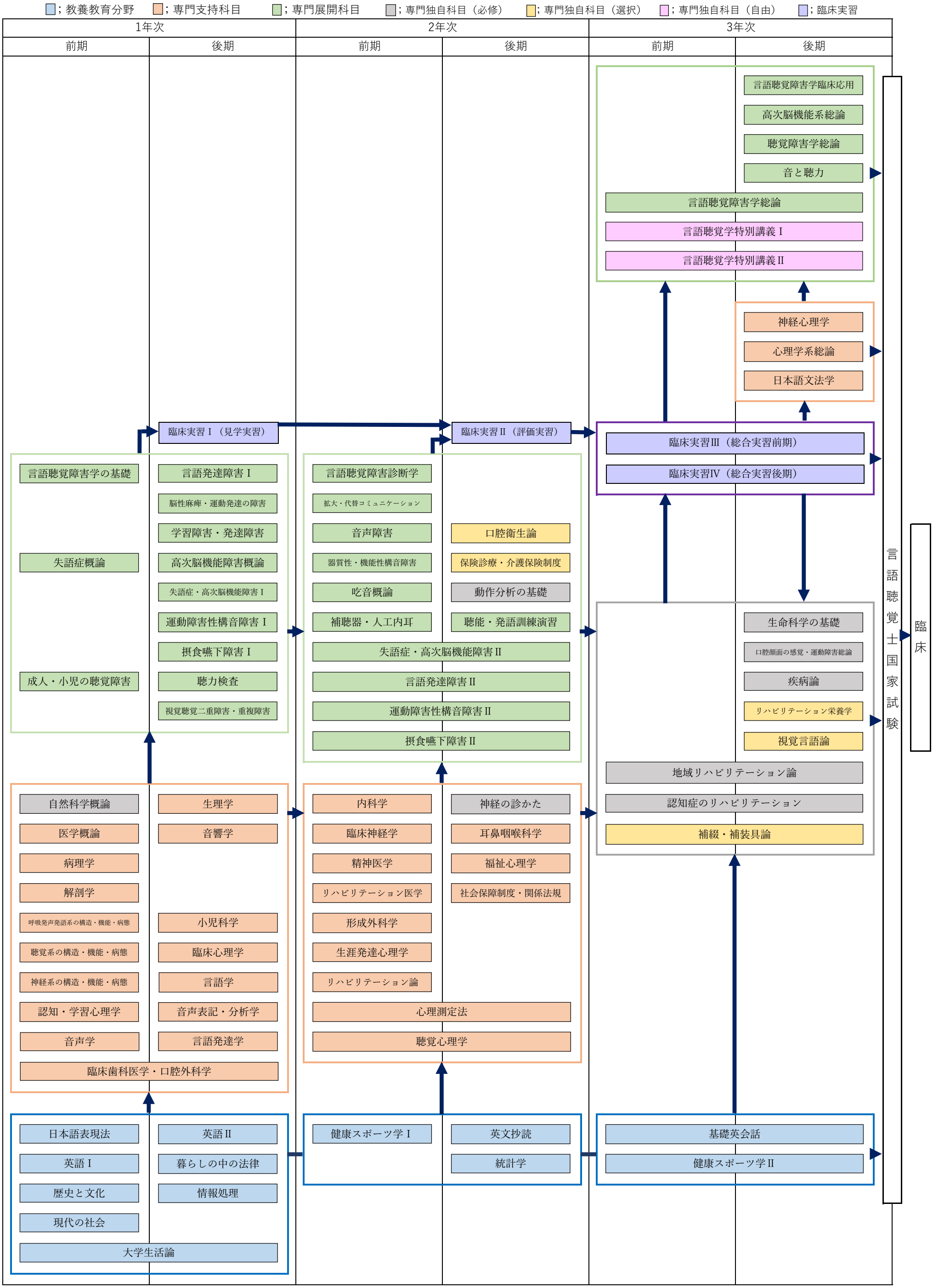
【基礎力】
人間の尊厳について理解し、専門職としての基盤となる知識を身につけている。
①歴史や文化、現代社会についての教養を身につけ、人間としての在り方や、多様な生き方について理解できる。
②言語聴覚士としての基礎的な知識と、専門性を理解し応用できる能力を身につけている。
【実践力】
臨床現場において治療・援助・指導を行うための技術を身につけ、実践することができる。
①臨床現場で活用し得る幅広い知識と高度な技術を身につけている。
②言語聴覚士として、他者の心身の痛みや苦悩への共感を持ち、倫理観に基づいて行動することができる。
【人間関係力】
社会人また言語聴覚士として高いコミュニケーション能力を身につけ、他者と協働することができる。
①高いコミュニケーション能力と豊かな人間性を身につけ、他者の考えや立場を理解することができる。
②多職種連携の重要性を理解し、チーム医療の一員として他者と連携、協働することができる。
【生涯学習力】
多くの学問分野に接して幅広い見識と専門的知識と技術の向上を図ることができる。
①リハビリテーション専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。
②自己の専門領域を生涯にわたって、学術的に探求することができる。
【地域理解力】
地域社会における言語聴覚士の使命と役割を理解し、専門性を活かして地域に貢献することができる。
①地域に貢献する言語聴覚士としての専門性と責任を自覚し、積極的に行動することができる。
②進歩する医療と高齢社会の中で、時代や地域のニーズに応えることができる。

学修成果　：　1 基礎力　2 実践力　3 人間関係力　4 生涯学習力　5 地域理解力

学修成果とは、学生がその授業科目で何ができるようになったかを表すものです。
●は、各授業科目が学修成果の1～5のどれに当てはまるかを表すものです。

科目区分			授業科目の名称	授業回数	履修年次・学修成果																			単位数		
					1年次							2年次							3年次							必修	選択	自由
					前期	後期	学修成果					前期	後期	学修成果					前期	後期	学修成果							
							1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			1	2	3	4	5			
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	15	○		●		●	●																1		
			英語Ⅰ	15	○		●																			1		
			英語Ⅱ	15		○				●																1		
			英文抄読	15									○		●		●									1		
			基礎英会話	10																○	●	●		●		1		
			歴史と文化	10	○		●			●																1		
	人間と社会		現代の社会	10	○		●			●	●															1		
			暮らしの中の法律	10		○	●																			1		
			大学生活論	15		○	●		●	●																1		
	人間と科学		情報処理	15		○				●																1		
			統計学	15									○		●		●									1		
			健康スポーツ学Ⅰ	15								○		●	●											1		
			健康スポーツ学Ⅱ	10																○		●		●		1		
専門教育分野	専門支持科目	基礎医学	医学概論	15	○		●	●		●																1		
			病理学	15	○		●	●		●																1		
			解剖学	15	○		●	●		●																1		
			生理学	15		○	●	●		●																1		
		臨床医学	内科学	15								○			●		●									1		
			臨床神経学	15								○			●		●									1		
			小児科学	15		○	●	●		●																1		
			精神医学	15								○			●		●									1		
			リハビリテーション医学	15								○			●		●									1		
			耳鼻咽喉科学	15									○		●		●									1		
			形成外科学	15								○			●		●									1		
		臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	15		○	●	●		●																1		
		音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	15	○		●	●		●																1		
			聴覚系の構造・機能・病態	15	○		●	●		●																1		
			神経系の構造・機能・病態	15	○		●	●		●																1		
		心理学	臨床心理学	15		○	●	●	●	●																1		
			生涯発達心理学	15								○			●	●	●									1		
			神経心理学	15																○	●	●		●		1		
			心理測定法	15									○		●		●									1		
			福祉心理学	15									○		●	●	●									1		
			認知・学習心理学	15	○		●	●		●																1		
			心理学系総論	15																○		●		●		1		
		言語学	言語学	15		○	●	●		●																1		
			日本語文法学	15																○		●		●		1		
		音声学	音声学	15	○		●	●		●																1		
			音声表記・分析学	15		○	●	●		●																1		
		音響学	音響学	15		○	●	●		●																1		
			聴覚心理学	15									○		●		●									1		
		言語発達学	言語発達学	15		○	●	●		●																1		
		社会福祉・教育	社会保障制度・関係法規	15									○				●	●								1		
			リハビリテーション論	15								○			●		●									1		
専門教育分野	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学の基礎	15	○		●		●																	1		
			言語聴覚障害診断学	15								○			●		●									1		
			言語聴覚障害学総論	15																○		●		●		1		
			言語聴覚障害学臨床応用	15																○		●		●		1		
		失語症・高次脳機能障害学	失語症概論	15	○		●	●		●																1		
			高次脳機能障害概論	15		○	●	●		●																1		
			失語症・高次脳機能障害Ⅰ	15		○		●		●																1		
			失語症・高次脳機能障害Ⅱ	30									○		●	●	●									2		
			高次脳機能系総論	15																○		●		●		1		
		言語発達障害学	言語発達障害Ⅰ	15		○		●		●																1		
			言語発達障害Ⅱ	30									○		●	●	●									2		
			脳性麻痺・運動発達の障害	15		○		●		●																1		
			学習障害・発達障害	15		○		●		●																1		
			拡大・代替コミュニケーション	15								○			●	●	●									1		
		発声発語・嚥下障害学	音声障害	15								○			●		●									1		
			器質性・機能性構音障害	15								○			●		●									1		
			運動障害性構音障害Ⅰ	15		○		●		●																1		
			運動障害性構音障害Ⅱ	30									○		●	●	●									2		
			吃音概論	15								○			●	●										1		
			摂食嚥下障害Ⅰ	15		○		●		●																1		
			摂食嚥下障害Ⅱ	30									○		●	●	●									2		
		聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	15	○			●		●																1		
			聴能・発語訓練演習	15									○		●	●	●									1		
			聴力検査	15		○		●		●																1		
			視覚聴覚二重障害・重複障害	15		○		●		●																1		
			補聴器・人工内耳	15								○			●		●									1		
			聴覚障害学総論	15																○		●		●	●	1		
			音と聴力	15																○		●		●		1		
		臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	5日		○	●	●	●	●																1		
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	15日									○		●	●	●									3		
			臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	20日																○		●	●	●		4		
			臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	20日																○		●	●	●		4		
	専門独自科目		自然科学概論	15	○		●																			1		
			生命科学の基礎	15																○		●	●	●		1		
			口腔顔面の感覚・運動障害総論	15																○		●		●		1		
			地域リハビリテーション論	15																○		●		●	●	1		
			認知症のリハビリテーション	15																○		●		●		1		
			神経の診かた	15									○		●		●									1		
			動作分析の基礎	15									○		●		●									1		
			疾病論	15																○		●		●		1		
			口腔衛生論	15									○		●		●										1	
			リハビリテーション栄養学	15																○		●		●			1	
			保険診療・介護保険制度	15									○		●		●										1	
			視覚言語論	15																○		●		●			1	
			補綴・補装具論	15																○		●		●			1	
			言語聴覚学特別講義Ⅰ	30																○	●	●	●	●	●			2
			言語聴覚学特別講義Ⅱ	30																○		●	●	●	●			2
卒業要件：98単位以上　　必修96単位、選択2単位以上																										96	2	－

言語聴覚学科　カリキュラムツリー



言語聴覚学科
１年生
（２０２３年度入学生）

■　年間予定表
■　シラバス

2023年度　言語聴覚学科1年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月													1	
	2		3		4		5		6	入学式	7	オリエンテーション	8	
	9		10	オリエンテーション/健康診断	11	健康診断	12	健康診断	13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	昭和の日
	30		1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	
5月	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29		30		31		1		2		3	
6月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		1	
7月	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17	海の日	18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	
	30		31		1		2	定期試験	3	定期試験	4	定期試験	5	
8月	6		7	定期試験	8	定期試験	9	追試験	10	追試験	11	山の日	12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23		24		25		26	
	27		28	不合格者発表	29		30		31		1		2	
9月	3		4	再試験	5	再試験	6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	敬老の日	19		20	実習指導	21	実習指導	22	実習指導	23	秋分の日
	24		25	臨床実習Ⅰ	26	臨床実習Ⅰ	27	臨床実習Ⅰ	28	臨床実習Ⅰ	29	臨床実習Ⅰ	30	

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2023年度　言語聴覚学科1年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月	1		2	臨床実習Ⅰ	3	臨床実習Ⅰ	4	臨床実習Ⅰ	5	臨床実習Ⅰ	6	臨床実習Ⅰ	7	
	8		9	体育の日	10	実習指導	11	実習指導	12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	せいよう祭
	29		30		31		1		2		3	文化の日	4	
11月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23	勤労感謝の日	24		25	
	26		27		28		29		30		1		2	
12月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31		1	元日	2	振替休日	3		4		5		6	
1月	7		8	成人の日	9		10		11		12		13	
	14		15	定期試験	16	定期試験	17	定期試験	18	定期試験	19	定期試験	20	
	21		22	追試験	23	追試験	24		25		26		27	
	28		29		30		31		1	不合格者発表	2		3	
2月	4		5		6		7		8	再試験	9	再試験	10	
	11		12	建国記念の日	13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23	天皇誕生日	24	
	25		26		27		28		29		1		2	
3月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18		19	卒業式	20	春分の日	21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31													

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
CO-0-HCU-01

科目名	日本語表現法				単位認定者	吉田　理		評価の方法	試験(筆記)	30　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題(課題文1)	20　%
						授業時間数	30　時間		授業内課題(課題文2)	30　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回		受講態度	20　%

授業の概要	書き言葉と話し言葉における日本語運用の基本を学び、論理的なコミュニケーションの手段である言語表現を効果的に実現する基礎能力を養う。まず日本語の特徴的な知識について学び、日本語運用の基本を身に付ける。その上で、書き言葉・話し言葉等の様々な表現行為に触れ、自らも表現し、相手に伝わる表現について実践的理解を深める。具体的な場面での適切な表現方法を実際に考えることで、大学や社会で必要となる日本語表現の様々なスキルを獲得することを目指す。
到達目標	自分の考えを適切な言葉で表現・伝達できる力を身につけることを目標とする。具体的には、 ・相手が発するメッセージを受け止めながら、場面に応じた意思の表現・伝達ができるようになる。 ・目的に合わせた文章（文書）作成ができるようになる。
学修者への期待等	日本語に興味を持ち、自分の身の回り(周り)で使われている「ことば」に敏感になること。授業をその都度理解し、疑問な点はすぐに解決できるよう、集中して受講のこと。問題演習を通して日本語力(語彙力)を身につけていきましょう。なお、単位認定試験についてはマークシート式による実施を予定している。

回	授業計画	準備学修
1	「日本語表現法」ガイダンス(日本語とは何か)	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
2	日本文の概要１：現代文の成り立ち [テキスト言葉と表現編]	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
3	日本文の概要２：古典文法(漢文、古文) [テキスト言葉と表現編　1.文法(1)古典文法]	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
4	日本文の概要３：現代文法 [テキスト言葉と表現編　1.文法(2)口語文法]	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
5	日本文の概要４：現代文法つづき(品詞分類)	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
6	現代文の修辞：原稿用紙の使い方など **実践１：課題文を書く(400字)…主題は当日指示**	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
7	実践１の添削指導 語彙１：辞書語彙…漢字と対義語・類義語	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
8	現代文の修辞：表記法(句読点、現代仮名遣い、送り仮名)	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
9	文章の作成１：公用文作成の要領[テキスト言葉と表現編　4.表現(3)]	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
10	文章の作成２：実用文の作成 [テキスト言葉と表現編　4.表現(5)]	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
11	敬語１：種類と働き、尊敬語と謙譲語 [テキスト言葉と表現編　4.表現(12)]	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
12	敬語２：謙譲語と丁寧語 [テキスト言葉と表現編　4.表現(12)]	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
13	800字作成要領 **実践２：課題文を書く(800字)…主題は当日指示**	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
14	実践２の添削指導 語彙２：辞書語彙…その他(ことわざ・四字熟語・慣用句)	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)
15	語彙３：新聞語彙 現代文の修辞補足：修辞法と表記法	当日の新聞や雑誌（漫画を除く）に目を通し、印象に残る表現があれば心に留めておくこと。(概ね30分)

教科書	『原色シグマ新国語便覧 ビジュアル資料 増補三訂版（シグマベスト）』 国語教育プロジェクト編著、文英堂
参考文献	『社会人のためのビジュアルカラー国語百科』修館書店編集部、大修館書店（2,200円）
備考	進捗状況や理解度に応じ、順序や内容を変更する場合がある。また適宜テキストの文学史の部分にも触れていく。 授業内課題である課題文（含事後指導）計２種は、単位認定の必須事項として成績に加える(未提出・不参加は認定しない)。受講態度は、出席状況のほか、私語・飲食・電子機器操作・居眠りの禁止等を想定している。なお、受講ノートとして大学ノートを用意すること(試験は持ち込み可とするが、コピー用紙の切り貼りやルーズリーフ等は認めない)。 また、何らかの事情でオンデマンド講義に切り替わった場合には、試験を中止し課題文のみで評価することもあり得るので心得ておくこと。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
CO-0-HCU-02

科目名	英語Ⅰ				単位認定者	近江　貞子		評価の方法	試験(筆記・オーラル)	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	日常会話で頻繁に用いられる基本表現を「話し」・「聞く」ことができる力を養い、基礎的な英語コミュニケーション能力を修得する。また、当該専門職として必要となる語彙や基本表現も身につける。
到達目標	学生は当該専門職として必要となる基礎的な英会話と一般的なトピックについて英語で話すことができるようになる。
学修者への期待等	英語でのコミュニケーションは受け身の学修姿勢では成立しないため、履修生の積極的な参加を期待する。ノート、辞書を持参して授業に臨むこと。また、英語は言葉なので毎日音読練習をする事で使えるレベルにもっていってほしい。

回	授業計画	準備学修
1	Orientation: Basics of English	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
2	Unit 1. General ideas of health	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
3	Unit 2. Polyphenol	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
4	Unit 3. Reducing your smartphone use	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
5	Review of Unit 1, 2 and 3	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
6	Unit 4. AI in healthcare and other topic	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
7	Unit 5. Japan's school lunch and other topic	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
8	Unit 6. Avoiding foods with hidden sugar and other topic	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
9	Unit 7. Periodontal disease and other topic	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
10	Review of Unit 4, 5, 6 and 7	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
11	Unit 8. Creative lifestyle and other topic	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
12	Unit 11. Healthcare Profession and other topic	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
13	Unit 13. *Sleep debt* and other topic	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
14	Unit 15. Vaccination and other topic	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）
15	Review of Unit 8, 11, 13 and 15	単語の予習と音読練習 / Reading Partの予習・復習 / その他指定された課題を行うこと。（1時間程度）

教科書	『*A Healthy Life for Today and Tomorrow*』　英米文化学会編　赤木　大介　他著　朝日出版社
参考文献	
備考	授業の進行状況によってシラバスを変更することがある。定期的に授業中に発音、単語、会話などの小テストを実施する。グループに分かれての会話・要約練習なども行う予定である。 試験の方法は、状況に応じて変更となる場合もある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
				●	

科目ナンバリング
ST-0-HCU-01

科目名	英語Ⅱ				単位認定者	近江　貞子		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	日常で一般的に使われている英語文法に加え、医療の現場で使用される英語表現や基本用語を修得し、言語聴覚療法に関する英文の文献を把握できる基礎読解力を身につける。
到達目標	医療に関する専門用語を理解し、基礎文法を確認しながら読解能力を向上させる。又、会話表現にも目を向け、英語によるコミュニケーション能力の向上を図る。英検２級程度の英語力を培う。
学修者への期待等	授業には、テキスト、辞書、ノート、ファイル(授業で配布されたプリント等を整理できるもの)を必ず持参すること。また、授業前後の予習復習は必ず行って授業に参加すること。

回	授業計画	準備学修
1	Orientation: Review of English grammar, structure and pronunciation	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
2	Unit 1 The Human Body（人間の体）	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習（概ね１時間）
3	Unit 2 Nutrition and Fitnss（高カロリーと健康）	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
4	Unit 3 Communicable Diseases（伝染病）	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
5	Unit 4 Hygiene and Public Health（個人と公衆の衛生管理）	既習のUnitsを復習、疑問点を確認（概ね１時間）
6	Review of Unit 1,2,3,4 and Word Quiz	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
7	Unit 5 Reforming Japanese Healthcare（日本の医療の改善策）	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
8	Unit 6 Needlestick Injuries in Medicine（医療における「針刺し損傷」）	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
9	Unit 11 Physical Therapy（理学療法士とその仕事）	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
10	Unit 12 Working in Occupational Therapy（作業療法士の仕事とは）	既習のUnitsを復習、疑問点を確認（概ね１時間）
11	Review of Unit 5, 6, 11, 12 and Word Quiz	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
12	Unit 13 Speech-Language Therapy as a Vocation (言語聴覚士とその仕事)	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習・復習（概ね１時間）
13	Unit 14 Orthoptics and Visual Science（視覚機能療法）	Reading Part、及びReading Comprehensionを予習（概ね１時間）
14	Unit 15 Why IS Team Medical Treatment Necessary?（チーム医療の必要性 ）	既習のUnitを復習、疑問点を確認（概ね１時間）
15	Review of Unit 13, 14 and 15 and Preparation for the Exam	試験に向けて学修し、疑問点を質問(時間は各自に任せる)

教科書	『THE HOSPITAL TEAM　医療系学生のための総合英語-English for Medical Specialists』 高津　昌宏他著　南雲堂
参考文献	
備考	授業の進行状況によってシラバスを変更することがある。グループに分かれての会話・要約練習なども行う予定である。試験の方法は、状況に応じて変更となる場合もある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	

科目ナンバリング
CO-0-HCU-03

科目名	歴史と文化				単位認定者	丸藤　准二 徳田　幸雄		評価の方法	※詳細は備考欄を参照すること	
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	こんにちの世界を理解するためには、歴史、宗教、思想などの多様な側面の知識が必要となる。特に、近現代を中心とした歴史や世界の諸宗教の理解は重要である。これらの基礎的知識を身に付け、また、世界に大きな影響を与えた思想や書物などにも触れ、こんにちの世界に対する自己の見識を持てるようになることを目的とする。
到達目標	(丸藤)近現代世界を形成する上で重要な歴史事象について、様々な観点から各回主題を設ける。 主題に関する諸問題を学び、近現代の世界に対する知識・理解を深め，歴史に対する関心を育むことを目標とする。 (徳田)世界三大宗教を中心とした諸宗教を広く学ぶことによってグローバル時代に相応しい教養を身につけるとともに、人類の叡智に触れつつより豊かで深い人生観を育むことを目標とする。
学修者への期待等	授業を理解するために，毎回必ず出席してください。歴史的事象を理解するのみならず，その事象が現代の世界にどのような影響を与えているかを考えるよう心がけてください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	ユダヤ教について －律法の遵守－	授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
2	キリスト教について －罪からの救い－	授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
3	イスラームについて －神への服従－	授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
4	インドの宗教について －業と輪廻－	授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
5	仏教について －苦からの解脱－	授業時に配布するチェックテストの復習を宿題とする。(所要時間15～20分)	徳田　幸雄
6	グローバルエコノミーのはじまり ―西欧の拡大により一体化する世界―	レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに，課題を完成させること。(約1時間)	丸藤　准二
7	科学革命と啓蒙 －近代科学の成立と「知」の大転換－	レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに，課題を完成させること。(約1時間)	丸藤　准二
8	産業革命 －工業化による経済・社会の変革－	レジュメをよく読み，今回の授業内容を理解するとともに，課題を完成させること。(約1時間)	丸藤　准二
9	医療の歴史 ―医療・医学の発展と近代社会―	レジュメをよく読み、今回の授業内容を理解するとともに，課題を完成させること。(約1時間)	丸藤　准二
10	現代世界とグローバルヒストリー －現代世界の成立と新しい歴史観－	今回の授業を復習するとともに，これまでの授業全体を理解すること。(約1時間)	丸藤　准二

教科書	教科書は使用せず，授業において適宜資料を配布します。
参考文献	授業において指示します。
備考	(評価方法) (丸藤)　試験(筆記)70%　授業態度30%　課題は授業内に解答してフィードバックします。 (徳田)　授業内課題(全5回)100%　授業終了時に実施するチェックテストで評価します。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●			●	●

科目ナンバリング
CO-0-HSO-03

科目名	現代の社会				単位認定者	吉田　理		評価の方法	試験（筆記）	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		※筆記試験はマークシート（60%）とレポート（20%）を同時間内に実施 ※詳細は備考欄を参照すること。	
						授業時間数	20　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	現代の日本及び世界がどのような構造になっているかについて、経済、政治の視点を主としながら理解する。また、日本社会が抱える諸問題についても考える。現代の社会を生きるために不可欠な基礎知識を身につけ、社会の動向に絶えず関心を持ち続け、社会生活において的確な選択や判断ができるようにする。
到達目標	取り上げるテーマは、いづれも社会人として当然備うるべき常識と考えられる事項である。社会生活自体はもちろんのこと就職活動における面接等でそれらについて問われた際に、概略と自身の考えを述べられるようになることを目標とする。
学修者への期待等	「自立した大人」になるための下地を作ってほしいという観点から、各人の専攻に関わらず社会人として当然知っておくべき事項を取り上げる。一般的な知識を修得し、良き職業人を目指すという意欲をもって受講してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	「現代の社会」導入(現代世界概観-特に文化と思想・宗教、歴史)	私たちを取り巻く現代社会について、その特徴を列挙し考察すること。当日配信する確認テストに備えること。(30分程度)
2	現代社会の誕生(特に大衆社会)	前回の講義内容(「現代の社会」導入)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
3	現代社会の特質(特に生命科学と情報技術)	前回の講義内容(現代社会の誕生)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
4	現代社会と人間の本質(特に自己形成)	前回の講義内容(現代社会の特質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
5	日本国憲法の基本的性格(特に社会権・参政権)	前回の講義内容(現代社会と人間の本質)を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
6	日本の政治機構と政治参加(特に地方自治と政党政治)	前回の講義内容（憲法の基本的性格）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。 (1時間程度)
7	現代の経済社会(特に財政と金融) レポート作成に当たって(説明)	前回の講義内容（日本の政治機構と政治参加）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
8	少子高齢化と国民の福祉(その原因と対策、社会保障の概要について)	前回の講義内容（現代の経済社会）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
9	消費者問題(消費者問題の歴史、消費者を保護するための制度について)	前回の講義内容（少子高齢化）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)
10	労働問題(日本の労働事情や労働関係法規・制度、労働格差について) 附.レポート作成に当たって(再度)	前回の講義内容（消費者問題）を復習し、当日配信する確認テストに備えること。(1時間程度)

教科書	『2023小論文頻出テーマ解説集　現代を知るplus』第一学習社
参考文献	『別冊NHK 100分de名著 読書の学校 特別授業　君たちはどう生きるか』池上彰著（NHK出版 2017） 各項目について報道している日刊新聞(購読していない場合は各社のweb版でも可。ただし不特定者によるまとめ記事はむしろ不可)
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施するが、板書を中心に進めるのでノートを準備すること。なお、理解の妨げとなるので早送りなどしないこと。 試験は、同時間内にマークシート解答（60%）とレポート作成（20%）を実施する。レポート作成の要領については講義内で説明するので集中して聞くこと。なお、持込一切不可である。 受講態度は、確認テスト解答の返信確認で判断するが、白紙など不誠実なものは減点或いは評価しない。 (課題の解説は次回講義の際に講義内で行なう)。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
C0-0-HS0-02

科目名	暮らしの中の法律				単位認定者	鈴木　一樹		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	20　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	10　回			

授業の概要	法律問題の理解に必要な基本法である憲法、民法等の条文に触れ、法律の基礎知識を修得する。憲法では基本的人権や最近議論されている憲法改正等を、民法では日常生活で生じる契約や家族といった学生にとって身近な法律問題を、積極的に取り上げる。さらに、身近な法律問題について、具体的な事例を検討させ、事例から結論に至る論理を理解する。他者の意見を理解するとともに、自己の意見を持つ機会を与え、法的思考力を身につける。
到達目標	法律とは何か、何のために存在するか、そして日常生活でどう生かされているかを理解する。
学修者への期待等	法律の考え方は非常に論理的で社会生活においても有用なので、法律的な思考方法を修得できるよう一つひとつ確実に理解するよう努めること。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス　　法律入門	
2	憲法（1）　　人権	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）
3	憲法（2）　　統治	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）
4	憲法（3）　　憲法総合	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）
5	民法（1）　　総則	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）
6	民法（2）　　物権	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）
7	民法（3）　　債権（債権総論）	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）
8	民法（4）　　債権（債権各論）	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）
9	民法（5）　　親族相続	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）
10	まとめ（重要ポイントの振り返り）	前回の講義内容を復習し、疑問点を明らかにしておくこと（1時間程度）

教科書	特に指定しない。
参考文献	授業内で適宜紹介する。
備考	授業内容は、進度に応じて適宜変更する場合がある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●	●	

科目ナンバリング
CO-0-HSO-01

科目名	大学生活論				単位認定者	櫻庭　ゆかり		評価の方法	授業内課題（レポート）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	通年	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	大学生活を有意義に送るために必要となる姿勢、知識やスキルを身につける。具体的には、本学・各学科の教育方針の理解、大学での学び方（レポートの書き方、図書館の活用法等）、大学生活の基礎知識（ネット社会の危険、消費者トラブル、交通ルールとマナー等）、健康にかかわる知識（睡眠・食生活、ドラッグの危険性、大学生が出会うこころの問題等）を身につける。
到達目標	1.大学生・社会人として基本的なマナーを身につける。 2.大学生活を有意義におくるために知識やスキルを身につける。
学修者への期待等	大学生活が有意義なものになるように計画された科目である。各自の目標を達成するために積極的に学ぶことを期待する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	大学生活について１：建学の精神、本学科の教育方針、入学許可証授与、授業ガイダンス、授業の狙いと方針		櫻庭　ゆかり
2	大学生活について２：教務関係ガイダンス、学業の到達目標について	学生便覧に目を通しておくこと(30分程度)	櫻庭　ゆかり
3	大学での学びについて１：何のために学ぶか。授業の受け方、ノートの取り方	事後）自分なりの勉強の仕方をレポートにして次週提出すること。(40分程度)	櫻庭　ゆかり
4	大学での学びについて２：①レポートのまとめ方 ②図書館の活用方法の講義と演習	事後）学んだことをまとめ、次回提出のこと(40分程度)	櫻庭　ゆかり 図書室司書
5	大学での学びについて３：国家試験合格に向けての勉強の仕方	事後）国家試験についての具体的な計画を考えて次週提出すること(40分程度)	櫻庭　ゆかり
6	大学での学びについて：実習に向けての心構え。実習の概要と目的	事後）実習について理解したことをまとめて次回提出のこと（40分程度）	櫻庭　ゆかり
7	健康にかかわる基礎知識１：体の健康について(睡眠・食生活など)	事後）学んだことをまとめて次回提出のこと(30分程度)	保健室
8	言語聴覚士になるための心構え1.言語聴覚士の仕事内容。何を求められているか。	事前）自分の考えをレポートとしてまとめて提出すること（１時間程度）	櫻庭　ゆかり
9	言語聴覚士になるための心構え２.チームアプローチについて	事後）学んだことをまとめて次回提出のこと(40分程度)	櫻庭　ゆかり
10	健康にかかわる基礎知識２：からだの健康について(ドラッグ)の危険性など	事後）授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)	学生総合支援ｾﾝﾀｰ、ﾀﾞﾙｸ
11	大学生活に関わる基礎知識１：消費者トラブルについて	事後）授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)	SMBCｺﾝｼｭｰﾏｰﾌｧｲﾅﾝｽ
12	大学生活に関わる基礎知識２：ネットの危険性について	事後）授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)	仙台中央警察署
13	大学生活に関わる基礎知識３：大学生のための主権者教育(選挙権)について	事後）授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)	仙台市選管事務局
14	大学生活に関わる基礎知識４：交通ルールとマナーについて	事後）授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)	仙台中央警察署
15	大学生活に関わる基礎知識５：大学で出会うこころの問題	事後）授業内容をレポートとしてまとめ、次回提出のこと(30分程度)	学生総合支援センター

教科書	参考資料を適宜配布するので1冊にファイリングすること。各授業での持ち物：シラバス、学生便覧
参考文献	
備考	授業内容は状況に応じて変更する場合がある。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
				●	

科目ナンバリング
CO-0-HSC-01

科目名	情報処理				単位認定者	佐々　順子		評価の方法	授業内課題	30　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		試験 （レポート）	40　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	30　%
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	現代のコミュニケーションツールとして重要な位置を占めるパソコンを用いて、文書作成やデータ処理など情報伝達・発信方法の基礎を学ぶ。加えて、パソコンをコミュニケーションツール、ビジネスツールとして活用する能力を養う。また、パソコンを使う者のマナー、情報保護の意識等も学修する。
到達目標	コンピュータの基本操作を習得し、一般的な業務に通用するWord・Excel・PowerPointの操作スキルを身につけることを目標とする。 Word：基本的なビジネス文書の作成、表現効果を上げる表や画像を使用した文書の作成。 Excel：数式、グラフを含む表計算ソフトの基本操作と応用的な機能の習得。 PowerPoint：プレゼンテーションソフトの基本操作と一般的なスライドの作成。
学修者への期待等	コンピュータの基本的な操作技術とともに、利用上のマナーや注意点などを含むコンピュータ・リテラシーを身につけることを目標にしていただきたい。コンピュータ操作経験者も基本事項の再確認や、これまで自己流で感覚的に行っていた部分を正確な知識・技能に高準化するための見直しとして意欲的に臨むこと。また、相談や操作がわからない者への助言など、受講者間での協調によるスキルアップも大切にしていただきたい。 欠席や遅刻をせず、１回１回の授業に積極性を持って「参加」すること。

回	授業計画	準備学修
1	コンピュータの基本知識と情報セキュリティ。画面の操作。Word：Wordの立ち上げと基本操作	・各授業で学んだ操作内容を復習し、次回までに確実に操作できるようにしておく。 ・授業時間内に完成しなかった課題は次回授業までに完成させる。 ・マウス操作、タッチパッド操作、キー操作、タイピングに自信がない者は、授業時間以外での自主練習を行う。
2	Word：文書の作成と印刷・ページ設定，ファイルの保存	
3	Word：表の作成	
4	Word：文書の編集	
5	Word：クリップアートの使用による表現力アップ	
6	Word：ワードアートの使用による表現力アップ	
7	PowerPoint：プレゼンテーションの操作と作成	
8	PowerPoint：効果的なプレゼンテーションの作成	
9	Excel：Excelの基本操作と簡単な表作成，ブックの保存	
10	Excel：表作成（関数の使用，罫線や塗りつぶし，セルの書式設定）	
11	Excel：表作成（行や列,セル設定），表の印刷設定	
12	Excel：相対参照と絶対参照の設定，色々な数式の使用	
13	Excel：さまざまな関数の使用	
14	Excel：グラフ作成	
15	Word,Excel,PowerPointの連携操作	

教科書	『30時間アカデミック　Office2019 Windows 10対応』　杉本くみ子／大澤栄子　実教出版
参考文献	授業内容に応じてプリント配付（配布プリントはすべてファイリングすること。）
備考	課題データの保存及び持ち帰りのためUSBメモリ（他の科目と共用で安価なもので良い）を準備すること。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-BAM-01

科目名	医学概論				単位認定者	鈴木　裕一		評価の方法	授業内課題（小テスト）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	医学とは病気の原因や症状の起こるメカニズムを解明する「基礎医学」、病気を診断し治療する「臨床医学」、発病を予防し健康を維持する「予防医学」、さらには医療体系や医療福祉・経済学を骨子とする「社会科学としての医学」、及び「生命・医学倫理」で構成される。本講義では言語聴覚士として医療に従事するにあたり、多職種との協働をかなえるために、基本的な人体の構造・機能と疾病の病理、医療行為の概念を含む臨床医学の基礎、個人ではなく集団を対象とする疫学の用語解説、及び健康状態と社会環境、予防医学、感染症対策、人口・保健統計、医療倫理など医学を総論としてとらえ、その概要を学ぶ。
到達目標	医学・医療に関して具体的に問題にふれることにより、専門を学ぶ学習意欲を高めるとともに、将来の基礎を築く。
学修者への期待等	医学・医療に関する問題に、自分の具体的なイメージを作り理解を深めていくこと。

回	授業計画	準備学修
1	感染症と医学の歴史	小テスト（1）：疾病と医療行為、に対する準備をすること（週１回；１時間程度）
2	がんと疾病・障害統計、人口動態、	
3	生活習慣病、予防医学	
4	医療１：疾病の診断と治療	
5	医療２：チーム医療、リハビリテーション、医療安全	
6	再生医療、生殖医療	小テスト（2）：医の倫理、健康の概念に対する準備をすること（週１回；１時間程度）
7	生命倫理、臨床医学研究と倫理、インフォームドコンセント	
8	食と健康、飢餓	
9	加齢と老化、高齢者医療、緩和ケア	
10	健康の概念・障害の概念（ICF）、QOL、ノーマライゼーション、インクルージョン	
11	疫学、研究デザイン、疫学による因果推論	小テスト（3）：疫学、保健衛生に対する準備をすること（週１回；１時間程度）
12	臨床疫学、根拠に基づく医療	
13	産業保健、環境保健、医薬品などによる健康被害	
14	母子保健、精神保健、障害児教育	
15	医療システム、地域医療	

教科書	特に指定しない。
参考文献	毎回講義資料を渡す。また講義の初めに、前回の講義の復習問題を解いてもらう。
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-BAM-02

科目名	病理学				単位認定者	三木　康宏		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	病理学とは、病気の原因、発生機序の解明や病気の診断を確定することを目的とする分野である。言語聴覚士として、適切なリハビリテーションを提供するためには、患者・利用者の疾病に対する理解が不可欠である。本講義では遺伝疾患、代謝障害、循環障害、炎症、免疫、腫瘍などの疾患や障害を取り上げ、それぞれの発生機序や診断について学んでいく。
到達目標	身体の構図と機能を基本とし、病態におけるその変化について学び、そこから、疾病の成り立ちを病理組織学的な観点から理解できるようになる。
学修者への期待等	「病理学」は「解剖学」や「生理学」などの基礎医学と密接に関係している。毎回の講義内容について、これまでに修得した基礎医学との関連を見いだすことが重要であり、そこから病態における変化について理解する必要がある。授業の最後に予習ポイントを提示するので、上記関連事項を踏まえながら次回の講義に備えてもらいたい。

回	授業計画	準備学修
1	病理学とはなにか。病気の発生要因（病因）について	教科書第1章（病理学とは何か）を読み、具体的な「病因」を考える（概ね1時間）
2	細胞・組織の変化、特に細胞死について	教科書第2章（細胞傷害と細胞増殖）を読む。（概ね1時間30分）
3	組織・細胞の修復について	教科書第3章（組織，細胞の修復と再生）を読む。（概ね1時間30分）
4	萎縮と肥大について	教科書第10章（代謝異常）10-1（細胞傷害に対する細胞の適応）を読む。（概ね30分）
5	急性炎症と炎症細胞について	教科書第5章（炎症）5-1～5-3を読む。（概ね1時間30分）
6	慢性炎症について。感染症について。	教科書第5章（炎症）を復習を含めて全て読む。（概ね2時間）
7	免疫機構について	教科書第7章（免疫機構の異常）7-1～7-3を読む。（概ね1時間）
8	免疫と疾患：アレルギーについて	教科書第7章（免疫機構の異常）7-4を読む。（概ね1時間）
9	免疫と疾患：自己免疫疾患、免疫不全について	教科書第7章（免疫機構の異常）7-5、7-6を読む。（概ね1時間）
10	腫瘍学の基礎、良性と悪性の違いについて	教科書第9章（腫瘍）9-1～9-7を読む。（概ね2時間）
11	腫瘍の発生について	教科書第9章（腫瘍）9-12、9-13を読む。（概ね2時間）
12	局所的循環障害について	教科書第4章（循環障害）4-1を読む。（概ね2時間）
13	全身的循環障害について	教科書第4章（循環障害）4-2を読む。（概ね1時間）
14	遺伝子と疾患について	教科書第8章（遺伝と先天異常）8-1～8-4を読む。（概ね2時間）
15	病理学を再考する	日本人の死因の年次推移に関する資料（７回までに配布）をから、その病因を考える（概ね1時間程度）

教科書	『シンプル病理学』笹野公伸他編、株式会社南江堂
参考文献	『疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学』系統看護学講座-専門基礎分野、大橋健一、医学書院
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-BAM-03

科目名	解剖学				単位認定者	櫻庭　ゆかり 小野寺　健		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内 課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	解剖学は、人体の構造と機能を理解する学問であり医学の基礎となっている。身体内部の臓器は、骨格と密接な位置関係で配置されており、身体を切り開くことなく、体表から臓器の位置を知ることができる。本講義では、人体の構造を理解するために、骨、関節、靭帯、筋、腱、神経、血管等の身体組織臓器や骨・筋の名称、筋の作用や支配神経について学修する。言語聴覚領域である口腔顔面については特に取り上げて学ぶ。
到達目標	人体および顔面部の正常構造について学修する。また、各器官の位置、形態を理解する。
学修者への期待等	日々の授業の中で理解し、そして修得しようとする努力が必要となる。毎回の授業後には必ず復習してほしい。また、カードなどを持ち歩き、記憶を定着させるための習慣をつけることを望む。

回	授業計画	準備学修	担当
1	総論（解剖学の意義・用語）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
2	骨格系①（骨の構造、形態）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
3	骨格系②（各論）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
4	筋と運動①（筋の形状・分類）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
5	筋と運動②（頭部、頸部、背部）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
6	筋と運動③（腹部、上下肢）	次回の授業時、より理解を深めるため骨格系－筋系の小テストを行う。（30分程度）	小野寺　健
7	消化管の構造①（上・下部消化管）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
8	消化管の構造②（肝臓、胆嚢、膵臓）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
9	循環器系①（心臓、動脈系）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
10	循環器系②（静脈系、リンパ系）	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
11	呼吸器系	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
12	泌尿器系、生殖器系	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
13	内分泌器系	以下、事前に配付資料を渡すので、目を通しておくこと。（30分程度）	小野寺　健
14	顔面を動かす筋肉（表情筋）について	事前に配布する資料を読んで授業に臨むこと。（30分程度）	櫻庭　ゆかり
15	噛んでまとめる筋肉（咀嚼筋・舌）について	事前に配布する資料を読んで授業に臨むこと。（30分程度）	櫻庭　ゆかり

教科書	『なるほどなっとく!解剖生理学（改訂2版）』 多久和　典子、多久和　陽著　南山堂
参考文献	適宜、参考資料を配布する。
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-BAM-04

科目名	生理学				単位認定者	鈴木　裕一		評価の方法	授業内課題等（小テスト）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	生理学は、人体の機能を理解する学問である。言語聴覚障害及び摂食嚥下障害にかかわる言語聴覚士には、患者・利用者に現れる症状を生理学的に理解することが求められている。本講義では主に人体の循環器、呼吸器、消化器、泌尿器、生殖器、内分泌、免疫系と血液の生理機能並びに体液・体温の調節について学び、人体を構成する各要素(細胞 - 組織 - 器官)に分解してその個々の機能を理解し、ついでそれら要素間の相互関係や統合関係を学修する。
到達目標	内臓器官系の役割を理解し、それが如何に人体を支えているかを総合的に捉えることができる。
学修者への期待等	単なる記憶でなく、具体的なイメージを作り理解を伴った学びを目指すこと。

回	授業計画	準備学修
1	人体生理学とは	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（１）に対する準備をすること
2	循環器系１：心臓（心電図デモ）	
3	循環器系２：血管とリンパ管	
4	呼吸機能（スパイロメトリーデモ）	
5	血液・免疫系	
6	消化器系１：食物の消化と吸収	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（２）に対する準備をすること
7	消化器系２：栄養と代謝、体温調節	
8	泌尿器系	
9	自律神経系	
10	内分泌系（血糖測定デモ）	
11	生殖器系	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（３）に対する準備をすること
12	神経と骨格筋、反射（含演習）	
13	視覚と平衡覚（含演習）	
14	血圧、心拍（含演習）	
15	口腔機能（含演習）	

教科書	『なるほどなっとく！解剖生理学（改訂2版）』多久和典子、多久和陽著、南山堂
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-CLM-03

科目名	小児科学				単位認定者	峯岸　直子		評価の方法	試験(レポート)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	言語聴覚士が小児の療育に携わるにあたり、必要な基礎知識を疾患ごとに修得する。小児疾患の原因・病態・診断・検査・治療の講義と、受胎から思春期に至る身体、言語、精神の成長発達段階の理解を通じ、小児の特徴及び疾患について学修する。講義終盤で、小児科学と言語聴覚領域との関連を学ぶ。
到達目標	小児の成長・発達の状況，小児特有の疾患，小児保健に関する理解を深め，言語聴覚士として必要な小児科に関連する知識を習得する。
学修者への期待等	言語聴覚士として小児に関わる場面を想像しながら，興味を持って積極的に学習してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	小児の発達・成長 （小児の特徴、小児期の発達・成長、発達評価について）	
2	小児保健（育児、乳幼児健診、事故、予防接種、児童虐待について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
3	小児疾患の診断法（診断法、問診、診察法、臨床検査、主要症状による鑑別診断について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
4	遺伝疾患と先天異常（遺伝子と染色体、単一遺伝子病、多因子遺伝病、染色体の異常、先天異常、先天代謝異常について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
5	新生児疾患（周産期・新生児期、新生児期の疾患・障害について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
6	神経・骨・筋肉疾患（神経系、骨・運動器の主な疾患について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
7	循環器疾患・呼吸器疾患・感染症（小児期の循環器・呼吸器疾患、感染症とその予防について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
8	消化器・内分泌・代謝疾患（小児期の消化器、内分泌・代謝疾患について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
9	免疫・膠原病・腎・泌尿器疾患（免疫とは、膠原病・アレルギー疾患、腎・泌尿器のしくみと主な疾患について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
10	血液疾患・悪性腫瘍、心身症・神経症、眼科・耳鼻科疾患（主な疾患について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
11	障害学①（障害児を取り巻く環境、脳性麻痺、知的障害、言語障害について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
12	障害学②（視覚障害、聴覚障害、重複障害児、重症心身障害児について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
13	発達障害学①（発達障害とは、ADHD,ASD,SLD,チック症などについて）	前回の講義内容の復習（30分程度）
14	発達障害学②（発達障害の評価とその実施法について）	前回の講義内容の復習（30分程度）
15	診療の現場と小児を取り巻く環境（子どもや親とのかかわり方、社会環境、法律について）	前回の講義内容の復習（30分程度）

教科書	『言語聴覚士のための基礎知識　小児科学・発達障害学（第3版）』 宮尾　益知/小沢　浩著　医学書院
参考文献	『標準理学療法学・作業療法学　小児科学（第5版）』　編集　冨田　豊医学書院
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-CLD-01

科目名	臨床歯科医学・口腔外科学				単位認定者	小野寺　健		評価の方法	試験(筆記)	40　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	通年	単位数	1　単位		授業内課題等	30　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	30　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	顎口腔機能障害を惹起する多彩な口腔病変について、病理学・口腔外科学の観点から体系的に明らかにするために、皮膚と粘膜の構造と機能、顔面・口腔の発生について学ぶ。また口腔組織の構造と機能、歯の発育異常・損傷、智歯、口腔病変、さらに顎の問題として、顎関節疾患、顎変形症の診断と治療について学び、全人的健康のための口腔顎顔面の役割を理解する。
到達目標	歯科医学の基礎的知識を習得し、全人的健康における口腔顎顔面の役割を理解し、口腔顎顔面に生ずる病的状態から生ずる構音、咀嚼、摂食障害の機能訓練を行うための基盤を作る。
学修者への期待等	授業、講義に教科書が利用されています。教科書は基本ですが、その教科書も様々存在し、教科書のすべてが絶対ではなく、前進の糸口でしかありません。私が学び、皆さんにお伝えすることは、口腔顎顔面領域の問題と認識についての大きな進化の流れをお示しすることであり、皆さんのこれからの前進にお手伝いできればと考えます。教科書に見えない部分も含め、スライド（プリントを準備します）を通し、口腔顎顔面領域の、直面するであろう、想像を超えるであろう様々な問題について、一緒に考えていきます。

回	授業計画	準備学修	担当
1	全人的健康のための口腔顎顔面の役割：口腔の健康を冒す病気と闘う口腔顎顔面外科学	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	川村　仁
2	全人的健康のための口腔顎顔面の役割：基礎歯科医学＆臨床歯科医学	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	川村　仁
3	口腔粘膜疾患・口腔腫瘍＆嚢胞の臨床	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	川村　仁
4	虫歯・歯周組織炎・智歯を科学する	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	川村　仁
5	歯列不正。顎関節疾患を科学する	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	川村　仁
6	口腔再建とインプラントの臨床	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	川村　仁
7	口腔顎顔面の奇形＆変形の臨床	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	川村　仁
8	皮膚と粘膜、顔面・口腔の発生	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	小野寺　健
9	口腔組織	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	小野寺　健
10	歯の発育異常	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	小野寺　健
11	う蝕、歯周組織	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	小野寺　健
12	口腔粘膜病変	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	小野寺　健
13	口腔嚢胞	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	小野寺　健
14	口腔腫瘍	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	小野寺　健
15	口腔奇形	教科書の該当ページを読んでおくこと（20分程度）	小野寺　健

教科書	『言語聴覚士のための基礎知識　歯科臨床　口腔外科学　（第2版）』　夏目　長門編　医学書院
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-SLH-01

科目名	呼吸発声発語系の構造・機能・病態				単位認定者	朴澤　孝治		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	人間の生命、コミュニケーションに大きくかかわる呼吸器・喉頭・咽頭・口腔・舌・下顎の解剖と機能を学修し、音声言語機能障害をきたす疾患の病態を理解する。さらに、診断に要する検査について、その目的・方法を学び、結果が意味するところを理解する。音声障害や構音障害の発現機序を理解し、検査・評価や訓練方法の理論と手技の基礎を体得する。医師が行う薬物治療、手術治療について学修し、施術後に必要となる言語聴覚士によるリハビリテーションについて理解を深める。
到達目標	音声障害や構音障害の発現機序を理解し、検査・評価や訓練方法の理論と手技の基礎を体得する。
学修者への期待等	講義は、事前に配布するプリントに沿って行うので、授業前にプリントを熟読してくること。授業中に毎回行う小テストは、採点後返却するので、よく復習すること。

回	授業計画	準備学修
1	イントロダクション	本講義の習得目標・学習の進め方（30分程度）
2	呼吸器の構造	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
3	呼吸器の機能	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
4	呼吸器の病態	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
5	喉頭の構造	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
6	喉頭の機能	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
7	喉頭の発達	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
8	喉頭の検査法	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
9	声帯の隆起性病変	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
10	声帯の萎縮性・硬化性病変	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
11	機能性発声障害	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
12	喉頭疾患の治療	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
13	喉頭全摘手術後の代用音声	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
14	嚥下障害、カニューレ	事前に配布したプリントを元に予習すること。（30分程度）
15	まとめ（重要ポイントの振り返り）	指定された国試問題を解き、解説の準備をすること。（30分程度）

教科書	なし、配布するプリントを元に講義する。
参考文献	
備考	小テストは採点した後に返却して、フィードバックを行う。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-SLH-02

科目名	聴覚系の構造・機能・病態				単位認定者	渡邊　弘人		評価の方法	試験(筆記)	90　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	10　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	人の聴覚器官にはさまざまな役割があり、生活する上で欠かすことができない「音」や「平衡感覚」に深くかかわっている。感受する刺激がどのようなものなのかを知り、聴覚器官内部でどう作用されるのかを理解する。さらに、この作用がうまく働かなくなった場合の影響、難聴・めまいを引き起こす原因となる疾患や病態について学ぶ。特に耳の解剖生理、構造をイントロダクションとし、日常よく耳にする疾患の説明から検査、症状という流れで理解を深めていく。
到達目標	言語聴覚士に必要な聴覚系リハビリテーションの基礎となる知識を修得する。
学修者への期待等	聴覚前庭系の解剖と生理は、聴覚系リハビリテーション領域を理解する上で非常に重要な科目であるため、自ら考え学び取る姿勢を期待する。

回	授業計画	準備学修
1	聴覚伝音系の解剖と生理①　外耳と中耳の解剖	テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
2	聴覚伝音系の解剖と生理②　外耳と中耳の機能	テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
3	聴覚感音系の解剖と生理①　内耳の解剖	テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
4	聴覚感音系の解剖と生理②　内耳の機能	テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
5	聴覚後迷路系の解剖と生理　聴覚伝導路の解剖と機能	テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
6	聴覚前庭系の解剖と生理　総合 外耳から後迷路まで解剖と機能	テキスト第3章「2、聴覚器官の解剖・生理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
7	聴覚伝音系の病態①　外耳関連疾患	テキスト第3章「3、聴覚の病理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
8	聴覚伝音系の病態②　中耳関連疾患	テキスト第3章「3、聴覚の病理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
9	聴覚伝音系の検査	テキスト第4章「2、聴覚機能検査」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
10	聴覚感音系の病態①　内耳系疾患	テキスト第3章「3、聴覚の病理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
11	聴覚感音系の病態②　聴覚伝導路系疾患	テキスト第3章「3、聴覚の病理」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
12	聴覚感音系の検査	テキスト第4章「2、聴覚機能検査」を予習（30分）、配布資料の復習（1時間）
13	前庭系の病態	事前に配布された資料を予習・復習（各1時間）
14	前庭系の検査	事前に配布された資料を予習・復習（各1時間）
15	聴覚前庭系疾患・検査　総合	テキスト第3章「3、聴覚の病理」、4章「2、聴覚機能検査」、配布資料を予習・復習（各1時間）

教科書	『標準言語聴覚障害学 聴覚障害学（最新版）』　藤田郁代（編）　医学書院
参考文献	『言語聴覚士テキスト（最新版）』　大森孝一他（編集）　医歯薬出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
講義担当者は、言語聴覚士として高齢者の病院・施設で臨床を行ってきた。専門領域の一つである「聴覚障害」を理解するためには当科目の理解が不可欠である。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-SLM-03

科目名	神経系の構造・機能・病態				単位認定者	鈴木　將太		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内 課題等	10　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	リハビリテーションの対象となる中枢神経、末梢神経の生理的機能、解剖、病態について理解する。特に、外来の刺激を受容し中枢に伝え、中枢から効果器への指令を伝える装置である神経ネットワークの経路を中心に、大脳皮質・大脳辺縁系・小脳・脳幹・脊髄、各神経核の機能と構造を理解し、その損傷による身体への影響をリハビリテーションと関連づける。さらに身体の状態に強く関与する自律神経系について学修する。
到達目標	外来の刺激を受容し中枢に伝え、中枢から効果器への指令を伝える装置である神経ネットワークについて、解剖生理学的そして病態的に理解する。
学修者への期待等	教科書や国家試験問題などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望む。

回	授業計画	準備学修
1	中枢神経系と末梢神経系（適宜グループワーク実施）	教科書　脳・神経　神経系の構造と機能を読んでおくこと（30分程度）
2	大脳の構成①（白質と灰白質、皮質、白質を構成する神経線維など）	前回の講義内容の復習（30分程度）
3	大脳の構成②（前頭葉、頭頂葉、側頭葉、後頭葉など）	前回の講義内容の復習（30分程度）
4	大脳の構成③（間脳、視床、視床下部のしくみと働き）	前回の講義内容の復習（30分程度）
5	大脳の構成④（大脳基底核のしくみと働き）	前回の講義内容の復習（30分程度）
6	大脳の構成⑤（大脳辺縁系のしくみと働き）（適宜グループワーク実施）	前回の講義内容の復習（30分程度）
7	小脳の役割と運動	前回の講義内容の復習（30分程度）
8	脳幹と脳神経（Ⅰ～Ⅵ神経）	教科書　脳・神経　脳神経とその障害（脳神経の全体像～外転神経Ⅵ、三叉神経Ⅴ）を読んでおくこと（30分程度）
9	脳神経（Ⅶ～Ⅻ）（適宜グループワーク実施）	教科書　脳・神経　脳神経とその障害（顔面神経Ⅶ～脳神経まとめ）を読んでおくこと（30分程度）
10	脳血管（血管走行と灌流領域）	教科書　脳動脈と脳血管障害を読んでおくこと（30分程度）
11	脊髄と脊髄神経の機能と構造	教科書　脳・神経　脊髄とその障害を読んでおくこと（30分程度）
12	脳脊髄液循環のしくみと構造及び障害（適宜グループワーク実施）	教科書　脳・神経　脳静脈・髄液循環を読んでおくこと（30分程度）
13	障害のメカニズム①（意識障害）	教科書　脳・神経　リハビリテーション、高次脳機能障害を読んでおくこと（30分程度）
14	障害のメカニズム②（運動障害）	教科書　脳・神経　運動・感覚・自律神経を読んでおくこと（30分程度）
15	障害のメカニズム③（知覚障害）（適宜グループワーク実施）	教科書　脳・神経　運動・感覚・自律神経を読んでおくこと（30分程度）

教科書	『病気がみえるvol.7　脳と神経（最新版）』　医療情報科学研究所 編　メディックメディア
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-01

科目名	臨床心理学				単位認定者	真覚　健		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	臨床心理学とは、心理学の知識と技術を用いて心の不適応な状態、あるいは病的状態について支援を行うための学問である。本講義では、臨床心理学の基礎として臨床心理学の概略、心理的問題の分類、心理療法、カウンセリング、心理検査などについて学び、理解を深める。言語聴覚士として利用者とかかわる中で、利用者の心理を理解し、リハビリテーションの一環として、心理的適応援助につながる知識を身につける。
到達目標	代表的な心理療法やカウンセリングについて、手続きや背景となる考え方について説明できるようになる。心理検査法について説明できるようになる。 代表的な心理的問題について、症状の特徴や原因、対応について説明できるようになる。
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 理解できなかったこと、疑問に思ったことがあれば授業中に質問すること。 授業内容について、復習を行い、理解できなった点を明らかにして次回に質問すること。

回	授業計画	準備学修
1	臨床心理学とは（臨床心理学の対象、関連領域）	精神医学について事前に調べておいてください。（1時間程度）
2	欲求・動機と適応（欲求・動機づけ、欲求不満、自我防衛機制）	自我防衛機制について事前に調べておいてください。（1時間程度）
3	パーソナリティ（パーソナリティの形成、類型論、特性論）	パーソナリティについて事前に調べておいてください。（1時間程度）
4	心理検査法Ⅰ（パーソナリティの測定法、質問紙法、投影法、作業検査法）	心理検査について事前に調べておいてください。（1時間程度）
5	心理検査法Ⅱ（心理検査の種類、代表的な心理検査法）	代表的な心理検査について調べておいてください。（1時間程度）
6	ストレス（ストレスとは、ストレスコーピング）	ストレスについて事前に調べておいてください。（1時間程度）
7	カウンセリングの基礎Ⅰ（カウンセリングの対象、カウンセリングの考え方）	カウンセリングについて事前に調べておいてください。（1時間程度）
8	カウンセリングの基礎Ⅱ（指示的カウンセリング、来談者中心カウンセリング）	指示やアドバイスの仕方について事前に調べておいてください。（1時間程度）
9	交流分析の基礎（自我状態、構造分析、交流パタン分析）	交流分析について事前に調べておいてください。（1時間程度）
10	行動療法（学習理論と臨床、系統的脱感作、オペラント条件づけ法、モデリング法）	古典的条件づけ、道具的条件づけについて「認知・学修心理学」で学んだことを確認しておいてください。（1時間程度）
11	認知行動療法（論理療法、認知療法、認知行動療法、自動思考とスキーマ）	認知の歪みについて事前に調べておいてください。（1時間程度）
12	その他の心理療法（精神分析、遊戯療法、ブリーフセラピー、家族療法）	遊戯療法について事前に調べておいてください。（1時間程度）
13	発達障害Ⅰ（ADHD、学習障害）	ADHDや学習障害について事前に調べておいてください。（1時間程度）
14	発達障害Ⅱ（自閉症スペクトラム障害）	自閉症スペクトラム障害について事前に調べておいてください。（1時間程度）
15	その他の心理的問題（強迫神経症、対人恐怖症、摂食障害）	強迫神経症について事前に調べておいてください。（1時間程度）
教科書	指定なし。	
参考文献	授業内で指示する。	
備考		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-06

科目名	認知・学習心理学				単位認定者	真覚　健		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	認知心理学とは、知覚、記憶、思考、理解など対象を認識する作用や、学修によって得られた知識に基づく行動のコントロールを含めた認知の過程、生体の情報処理過程を明らかにしようとする学問であり、学習心理学とは経験を通して行動を変容させていく過程を研究する心理学の一領域である。本講義では、学習・記憶・認知について基礎的現象を学び、現象の背後にある原理を学修し、さらには言語聴覚領域との深い関連を学ぶ。
到達目標	「学習」「記憶」について基礎的知見を理解し、説明できるようになる。 「感覚・知覚・認知」について基礎的知見を理解し、説明できるようになる。 認知心理学のトピックスについて、日常生活と関連づけて説明できるようになる。
学修者への期待等	資料をあらかじめ配布するので事前に熟読すること。 理解できなかったこと、疑問に思ったことがあれば授業中に質問すること。 授業内容について、復習を行い、理解できなった点を明らかにして次回に質問すること。

回	授業計画	準備学修
1	心理学と認知心理学（心理学の研究対象、認知心理学の成立背景）	認知心理学について事前に調べておいてください。（1時間程度）
2	学習（古典的条件づけ、強化と消去、連続強化と部分強化）	古典的条件づけ（オペラント条件づけ）について事前に調べておいてください。（１時間程度）
3	学習（道具的条件づけ、強化と弱化、強化プログラム）	道具的条件づけ（レスポンデント条件づけ）について事前に調べておいてください。（1時間程度）
4	技能学習（運動技能学習、認知技能学習、学習曲線）	運動技能学修について事前に調べておいてください。（1時間程度）
5	記憶Ⅰ（記憶過程、記憶の測定法、二重貯蔵モデル、短期記憶）	記憶過程と記憶の種類について事前に調べておいてください。（1時間程度）
6	記憶Ⅱ（長期記憶、処理水準、意味記憶）	長期記憶の特徴について事前に調べておいてください。（１時間程度）
7	記憶Ⅲ（プライミング、日常記憶）	日常記憶について事前に調べておいてください。（1時間程度）
8	感覚・知覚・認知（感覚・知覚・認知の区別、感覚の種類、感覚順応、視感覚の仕組み）	感覚順応について事前に調べ、日常生活で見られる感覚順応現象について発表する準備をしてきてください。（1時間程度）
9	視知覚Ⅰ（恒常性、対比、形の知覚、特徴抽出、図地分離、群化、錯視）	恒常性について事前に調べ、日常生活で見られる恒常性現象について発表する準備をしてきてください。（1時間程度）
10	視知覚Ⅱ（奥行き知覚、両眼視差、絵画遠近法、運動知覚、実運動、誘導運動、仮現運動）	奥行き知覚と運動知覚について事前に調べておいてください。（1時間程度）
11	パタン認知（遮蔽と補完、鋳型照合モデル、特徴分析モデル、視点非依存アプローチ、視点依存アプローチ）	パタン認知について事前に調べておいてください。（1時間程度）
12	注意（選択的注意、処理容量、前注意的過程、注意の特徴）	注意の機能について事前に調べておいてください。（1時間程度）
13	心的イメージ（心的イメージの個人差、心的イメージと知覚、心的イメージと心理臨床）	日常生活で見られる心的イメージ現象について事前に調べておいてください。（1時間程度）
14	感情・情動Ⅰ（情動の種類、情動の理論）	感情の機能について事前に調べておいてください。（1時間程度）
15	感情・情動Ⅱ（表情の表出、表情の認知）	表情について事前に調べておいてください。（1時間程度）

教科書	指定なし。
参考文献	『学習心理学への招待』　篠原彰一（著）　サイエンス社 『新・知性と感性の心理』　行場次朗・箱田裕司（編著）　福村出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-LGS-01

科目名	言語学			単位認定者	小泉　政利		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位	試験 （レポート）	20　%
						授業時間数	30　時間	授業内課題等	20　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回		

授業の概要	言語学・言語心理学の基礎知識を学ぶ。言語の一般的な特徴の概観から、言語の音、単語、文、意味の分析へと進み、音韻論としての音素、モーラ、音節、アクセント、音韻過程を概観する。形態論では形態素と形態過程、活用、日本語の特徴を学び、統語論では文の構成要素、受身と使役、意味論では単語の意味と文の意味、語用論で話者の意味を学ぶ。さらには世界の言語として言語の系統、言語数、話者数、危機言語を学び、音韻・単語・統語解析及び談話理解を通してコミュニケーションの運用を考察する。
到達目標	言語聴覚士（になるため）に必要な、言語学、日本語学、言語心理学の基礎知識を身につける。また、その基礎知識を使って身近な言語現象を自分なりに分析できるようになる（=> メタ言語能力・メタ認知能力の涵養）。
学修者への期待等	事前にテキストを熟読して予習し、授業終了後はすぐに復習して、毎回の授業内容をその日のうちに確実に身につけるようにしましょう。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス・言語と言語学	教科書第１講～第３講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
2	音声学	問題集セクション１で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
3	音韻論１：音素	教科書第４講～第６講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
4	音韻論２：音節	教科書第７講～第９講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
5	音韻論３：韻律	問題集セクション２で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
6	形態論１：形態素	教科書第１０講～第１２講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
7	形態論２：接辞	教科書第１３講～第１５講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
8	形態論３：語形成	問題集セクション３で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
9	統語論１：統語構造	教科書第１６講～第１８講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
10	統語論２：統語分析	問題集セクション４で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
11	統語論３：統語類型	教科書第１９講～第２１講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
12	意味論１：命題、モダリティー、ヴォイス	問題集セクション５で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
13	意味論２：テンス、アスペクト	教科書第２２講～第２４講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
14	意味論３：論理関係	問題集セクション６で予習し（問題を全て解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。
15	語用論	教科書第２５講～第２６講で予習し（各講末の問題も解く）、授業終了後は復習すること（概ね１時間程度）。

教科書	教科書：　『言語学入門』佐久間淳一他著　研究社 問題集：　『言語学基本問題集』佐久間淳一（編）　研究社
参考文献	『ここから始める言語学プラス統計分析』　小泉政利（編著）　共立出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-PNT-01

科目名	音声学			単位認定者	後藤　斉		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位	授業内課題等	30　%
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間		
						授業回数	15　回		

授業の概要	本講義では、主に調音音声学の原理及び国際音声字母とそれが表す音とを学んだ上で、音声言語の客観的な観察に習熟することがテーマである。音声学概論・各論について講義形式で学んでいくが、併せて国際音声字母の各単音の発音の訓練をする部分も大きな比重を占める。まず音声学の概論として、言語における音声の位置づけ、音声器官の構造とはたらき、国際音声字母と音声記述の原理について概観する。次に、国際音声字母の体系における記述の原理を学び、かつ、個々の音の調音と聴取の訓練を行う。扱う順序は、〇母音（第一次基本母音、第二次基本母音、その他の母音）〇肺臓気流子音（破裂音、鼻音、摩擦音、その他の子音）〇非肺臓気流子音〇超分節音である。最後に、音韻論及び音響音声学との関連について概観する。
到達目標	調音音声学の原理についての理論的な理解および国際音声記号の実際的な技能と知識を得ることによって、音声言語（特に日本語）の客観的な観察と記述ができるようになる。
学修者への期待等	授業中の発音練習に倣って自分でも練習する、主要な音声記号を間違わずに書けるように練習する、など授業時間外の学修を強く要望する。　２回目以降は手鏡を持参すること。

回	授業計画	準備学修
1	授業ガイダンス、言語における音声の位置づけ	【事後】教科書に沿って復習すること（1時間程度）
2	音声器官の構造と働き	【事後】授業内容を自分の体で確認すること（1時間程度）
3	音声記述の原理と国際音声記号	【事後】教科書に沿って復習すること（1時間程度）
4	母音の調音、母音体系	【事後】教科書に沿って復習すること（1時間程度）
5	第一次基本母音	【事後】授業内容に従って自分で確認・発音練習すること（1時間程度）
6	第二次基本母音	【事後】授業内容に従って自分で確認・発音練習すること（1時間程度）
7	その他の母音	【事後】授業内容に従って自分で確認・発音練習すること（1時間程度）
8	子音体系、破裂音、鼻音	【事後】授業内容に従って自分で確認・発音練習すること（1時間程度）
9	摩擦音・その他の肺臓気流子音	【事後】授業内容に従って自分で確認・発音練習すること（1時間程度）
10	日本語の音声現象１　（無声化など）	【事後】授業内容に従って自分で確認・発音練習すること（1時間程度）
11	日本語の音声現象２　（硬口蓋化など）	【事後】授業内容に従って自分で確認・発音練習すること（1時間程度）
12	音素	【事後】授業内容に従って自分で確認すること（1時間程度）
13	アクセント	【事後】授業内容に従って自分で確認すること（1時間程度）
14	イントネーション・強調	【事後】授業内容に従って自分で確認すること（1時間程度）
15	まとめ（重要ポイントの振り返り）	【事後】授業内容に従って自分で確認すること（1時間程度）

教科書	『たのしい音声学』　竹内京子・木村琢也著　くろしお出版
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-PNT-02

科目名	音声表記・分析学				単位認定者	櫻庭 ゆかり 木村 有希　後藤 斉		評価の方法	試験(筆記)	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		レポート	30 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	20 %
				授業形態	演習	授業回数	15 回			

授業の概要	国際音声記号を用いて〇母国語としての日本語話者〇日本語学習者〇器質性構音障害〇機能性構音障害症例の発音を記述するトレーニングを通し、臨床現場で活用できる速さと正確さを身につける。また、音声を視覚的にとらえ分析する手段のひとつに、スペクトログラムがある。本演習では、各々がパソコンソフトを用いてスペクトログラムを作成、観察し、自身の音声の特徴を分析する。
到達目標	①国際音声記号を使用して文章レベルの構音を書き取る能力を身につける。 ②言語音の音響的分析の手法と分析結果の読みとり方を身につけ、調音的な特徴と音響的な特徴の関係を理解する。
学修者への期待等	音声記号を迷いなく使用できるようになるためには、聞き取る能力が必須である。繰り返し音源を聞き、構音点や構音方法が判断できるよう日々トレーニングしてほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	日本語話者の正常構音①　日本語で用いられる単音節	【事前】国際音声記号を復習しておくこと(40分程度)	櫻庭　ゆかり
2	日本語話者の正常構音②　複数音節～単語の書き取り	【事後】音源を聞きながら単語まで書き取りの練習をしておくこと(40分程度)	櫻庭　ゆかり
3	日本語話者の正常構音③　短文の書き取り	【事後】文章レベルでの書き取りの練習をしておくこと(40分程度)	櫻庭　ゆかり
4	異常構音について① 器質性構音障害にみられる発話とは	【事後】配布資料を確認すること(30分程度)	木村　有希
5	異常構音について② 機能性構音障害にみられる発話とは	【事後】配布資料を確認すること(30分程度)	木村　有希
6	聞き取り練習①　音節から単語の異常構音の聞き取り	【事前】それぞれの構音の特徴を確認しておくこと(30分程度)	木村　有希
7	聞き取り練習②　文章の異常構音の聞き取り	【事前】それぞれの構音の特徴を確認しておくこと(30分程度)	木村　有希
8	音声表記について　音声表記の復習	【事後】配布資料を確認すること(30分程度)	木村　有希
9	書き取り練習①　　音節から単語の書き取り	【事前】音声表記を復習しておくこと(30分程度)	木村　有希
10	書き取り練習②　文章の書き取り	【事前】音声表記を復習しておくこと(30分程度)	木村　有希
11	音声分析概説　ソフトウェアの基本的な操作	【事前】指定のソフトウェアをダウンロード、インストールしておくこと(1時間程度)	後藤　斉
12	音響音声学の基礎	【事前】音声学および音響学の知識を確認しておくこと(1時間程度)	後藤　斉
13	各母音のフォルマント、調音的特徴との関係	【事後】自分の発音を分析して、授業内容を確認すること(1時間程度)	後藤　斉
14	各子音の音響的特徴と調音方法・調音位置との関係	【事後】自分の発音を分析して、授業内容を確認すること(1時間程度)	後藤　斉
15	連続音声中の各単音の変異	【事後】自分の発音を分析して、授業内容を確認すること(1時間程度)	後藤　斉

教科書	『口蓋裂の構音障害（Audio CD）』企画・監修：日本音声言語医学会　インテルナ出版 『たのしい音声学』　竹内京子・木村琢也著　くろしお出版
参考文献	
備考	11回から15回はパソコンを使用する。各自ノートパソコンを持参すること。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-ACS-01

科目名	音響学				単位認定者	本田　俊夫 矢入　聡		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	音響学とは、音に関する学問であり、音声や聴覚を専門とする言語聴覚士はその学修が必須である。音響学の入門は音を物理的な視点から波として考察することで、基本的な運動法則とエネルギーの保存原理に基づいて理解することが必要である。本講義では、基本的な音波の性質、音の強さの尺度（デシベルの定義）、音のスペクトル、閉管の共鳴を理解する。音響学は聴覚を通して人間そのものと密接に結びつく。聴覚フィルタ、マスキング、臨界帯域などの聴覚特性、音の大きさ・高さの知覚としての感曲線、ラウドネス、補充現象、心理的尺度、場所説と時間説、空間知覚についても併せて学んでいく。
到達目標	波の基本的な特性を理解し、デシベルやスペクトルなど、音響関連の用語が説明できる。音声の特性やサウンドスペクトログラムの基礎を理解した上で、音声を分析する実践的なスキルを得る。
学修者への期待等	物理、対数を履修していなかった人、理数系が苦手な人にとって音響学は難しいと感じる科目ですが、音は生活の中に溢れています。事前に「準備学修」で指定された箇所を熟読するとともに、関連する身近な例を意識しながら授業に臨んでください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	波の基本的性質	教科書 第1章1節「波の基本的性質」で予習・復習すること（概ね１時間）	本田　俊夫
2	定常波と共鳴	教科書 第1章2節「定常波と共鳴」で予習・復習すること（概ね１時間）。	本田　俊夫
3	倍音と階音、うなり、ドップラー効果	教科書 第1章3節「倍音と階音」で予習・復習すること（概ね１時間）。	本田　俊夫
4	回折・反射・屈折	教科書 第1章6節「回折」，7節「反射と屈折」で予習・復習すること（概ね１時間）。	本田　俊夫
5	音圧と音の強さ	教科書 第2章1節「音圧と音の強さ」で予習・復習すること（概ね１時間）。	本田　俊夫
6	デシベルとその計算	教科書 第2章2節「デシベル」，第3節「デシベルの計算」で予習・復習すること（概ね１時間）。	本田　俊夫
7	デシベルの基準値	教科書 第2章4節「デシベルの基準値」，5節「デシベルに関する補足事項」で予習・復習すること（概ね１時間）。	本田　俊夫
8	【遠隔（オンデマンド）】純音の式と音の種類	教科書 第3章1節「純音の式」，2節「音の種類」で予習・復習すること（概ね１時間）。	矢入　聡
9	【遠隔（オンデマンド）】色々な音のスペクトル	教科書 第3章3節「スペクトルの意味と実例」で予習・復習すること（概ね１時間）。	矢入　聡
10	【遠隔（オンデマンド）】サウンドスペクトログラム	教科書 第3章4節「スペクトル分解の原理」，6節「サウンドスペクトログラム」で予習・復習すること(概ね1時間)。	矢入　聡
11	【遠隔（オンデマンド）】音のデジタル化	教科書 第3章7節「音のデジタル化」で予習・復習すること（概ね１時間）。	矢入　聡
12	【遠隔（オンデマンド）】音の大きさと高さの知覚	教科書 第4章1節「音の大きさの知覚」，2節「音の高さの知覚」で予習・復習すること(概ね1時間)。	矢入　聡
13	【遠隔（オンデマンド）】マスキングと両耳聴	教科書 第4章3節「マスキング」，4節「両耳聴」で予習・復習すること（概ね１時間）。	矢入　聡
14	【遠隔（オンデマンド）】母音とフォルマント	教科書 第5章1節「母音の生成の仕組み」，2節「母音とフォルマント」で予習・復習すること（概ね１時間）。	矢入　聡
15	【遠隔（オンデマンド）】音響分析	教科書 第5章6節「総合分析」，7節「構音障害と音響分析」で予習・復習すること（概ね１時間）。	矢入　聡

教科書	『言語聴覚士の音響学入門（2訂版）』吉田友敬著、海文堂
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-LDS-01

科目名	言語発達学				単位認定者	越中　康治		評価の方法	試験（レポート）	50　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	30　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	言語聴覚士には正常の言語発達の理解が必須であり、臨床場面において対象者の症状を分析する上で重要な知識となる。言語は生得的な要因と環境・経験的要因が相互に影響し合って発達していくものと考えられている。本講義は、発達とは何かの問いからはじめ、言語発達の理論、言語発達の概観、言語発達の生物学的・認知的基礎、社会性の発達、子育てと言葉、幼児期の言葉の実際、小学校における言葉の問題、言語発達支援についての知識・理解を深める。
到達目標	言語発達の基礎的事項について説明できるようになる。
学修者への期待等	授業の中で自分の考えを書いたり，他の学生と話し合ったりする機会を設けますので，これらの活動に積極的に取り組んでください。

回	授業計画	準備学修
1	発達とは何か？	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
2	発達心理学の基礎的な理論	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
3	言語発達の理論	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
4	言語発達の概観Ⅰ（胎生期・新生児期の発達）	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
5	言語発達の概観Ⅱ（乳児期の発達）	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
6	言語発達の概観Ⅲ（幼児期前期の発達）	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
7	言語発達の概観Ⅳ（幼児期後期の発達）	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
8	言語発達の概観Ⅴ（児童期以降の発達）	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
9	言語発達の生物学的・認知的基礎	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
10	言語発達と社会性の発達	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
11	子育てと言葉Ⅰ（新生児期・乳児期）	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
12	子育てと言葉Ⅱ（幼児期）	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
13	就学前施設における言葉	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
14	小学校における言葉	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。
15	言語発達の支援	本時で取り扱った内容について復習をすること（概ね１時間）。

教科書	なし
参考文献	『新・プリマーズ／保育／心理　発達心理学』無藤　隆・中坪史典・西山　修（編）ミネルヴァ書房 2010年
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●		●		

科目ナンバリング
ST-2-LSG-01

科目名	言語聴覚障害学の基礎				単位認定者	渡邊　弘人 木村　有希		評価の方法	試験(筆記)	90　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間			
						授業回数	15　回			

授業の概要	言語聴覚障害について、言語聴覚士の歴史と現状、業務と職業倫理及び言語聴覚療法の実際を学修する。さらに聴覚障害領域、成人領域、小児領域と大きく分類し、それぞれの特徴、検査と評価、指導・訓練・支援するリハビリテーションの実際、言語聴覚士の専門性について学ぶ。本講義は、学生による専門領域別概要レポートのグループ発表を重視することによって、言語聴覚障害学についての知識が臨床現場でどのように発揮されるのかを学ぶとともに、自ら調べ考察する姿勢の醸成を目指す。
到達目標	言語聴覚士の全体像を俯瞰することを目的とする。これから３年間で学ぶ領域について知り、３年後に受ける国家試験の内容・難易度を知る。
学修者への期待等	授業は各グループ（1グループ6～7名）ごとに内容をまとめ発表する形式をとる。発表する領域については、授業開始時に発表する。グループメンバー内で担当領域についてしっかりと話し合い、協力して進めることを期待したい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	言語聴覚士の役割について		渡邊　弘人
2	言語聴覚療法入門　①（担当グループ発表）	改訂 言語聴覚障害総論Ⅰの第1・2章を予習・復習すること（1時間）	渡邊　弘人
3	言語聴覚療法入門　②（ディスカッション）	改訂 言語聴覚障害総論Ⅰの第1・2章を予習・復習すること（1時間）	渡邊　弘人
4	聴覚系　①（担当グループ発表）	言語聴覚士テキスト P319～348を読むこと（3時間）	渡邊　弘人
5	聴覚系　②（ディスカッション）	言語聴覚士テキスト P319～348を読むこと（3時間）	渡邊　弘人
6	構音・嚥下系　①（担当グループ発表）	言語聴覚士テキストP367～395　P404～419を読むこと（3時間）	渡邊　弘人
7	構音・嚥下系　②（ディスカッション）	言語聴覚士テキストP367～395　P404～419を読むこと（3時間）	渡邊　弘人
8	言語発達障害系　①　（担当グループ発表）	言語聴覚士テキスト(最新版)P292～317を読んでおくこと(1時間)	木村　有希
9	言語発達障害系　②　（ディスカッション）	言語聴覚士テキスト(最新版)P292～317を読んでおくこと(1時間)	木村　有希
10	聴覚障害・吃音　①　（担当グループ発表）	言語聴覚士テキスト(最新版)P349～362　P396～403を読んでおくこと(1時間)	木村　有希
11	聴覚障害・吃音　②　（ディスカッション）	言語聴覚士テキスト(最新版)P349～362　P396～403を読んでおくこと(1時間)	木村　有希
12	失語・高次脳機能系　①　（担当グループ発表）	改訂 言語聴覚障害総論Ⅰの第3章を読むこと（30分）　成人領域	木村　有希
13	失語・高次脳機能系　②　（ディスカッション）	改訂 言語聴覚障害総論Ⅰの第3章を読むこと（30分）　成人領域	木村　有希
14	基礎医学系　①　（担当グループ発表）	言語聴覚士テキスト（最新版）の耳鼻咽喉科学 を読んでおくこと	木村　有希
15	基礎医学系　②　（ディスカッション）	言語聴覚士テキスト（最新版）の臨床神経学 を読んでおくこと	木村　有希

教科書	『言語聴覚療法シリーズ１　改訂　言語聴覚障害総論Ⅰ』　倉内紀子（編著）　建帛社 『言語聴覚士テキスト（第3版）』　大森孝一他　編著　医歯薬出版
参考文献	『明日からの臨床・実習に使える言語聴覚障害診断』　大塚裕一　医学と看護社
備考	授業は各グループ（1グループ6～7名）ごとに内容をまとめ発表する形式をとる。発表する領域については、授業開始時に決める。グループ発表をもとにしたレポート作成、小テストを実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
渡邊は言語聴覚士として病院・施設において臨床を、木村は言語聴覚士として成人・小児の臨床を行ってきた。臨床で対峙する障害についてあらかじめ予習することは今後の学習を深めることにつながる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-2-AHB-01

科目名	失語症概論				単位認定者	鈴木　將太		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	失語症領域における言語聴覚士にとって必須の事項を理解する。19世紀後半に端を発する失語症候学の歴史を概観し、現在もなお現場で広く用いられている古典分類の考え方について知識を修得する。失語症の諸症状、失語学の歴史及び新古典分類の各失語症タイプ分類の仕方、症状の特徴、病巣について学ぶ。また、特殊な失語型、純粋型や、失語症の言語治療の原則とその治療、さらには失語症の回復と地域とのつながり、失語症友の会活動についても学んでいく。
到達目標	失語症領域における国家試験必須の事項を理解する。
学修者への期待等	教科書や国家試験問題などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望む。

回	授業計画	準備学修
1	言語と脳、失語症の定義・研究史	教科書第1章言語と脳　1言語の構造を読んでおくこと（30分程度）
2	失語症の原因疾患・失語症の症状（聴く、話す）	教科書第4章失語症の原因疾患を読んでおくこと（30分程度）
3	失語症の症状（読む、書く、計算）（適宜グループワーク実施）	教科書第5章失語症の症状　読字の症状、書字の症状、数、計算の障害を読んでおくこと（30分程度）
4	失語症の症状（近縁症状、随伴しやすい障害）	教科書第5章失語症の症状　近縁症状、随伴しやすい症状を読んでおくこと（30分程度）
5	失語症候群（症候群の成り立ち、ブローカ失語）	教科書第6章失語症候群　症候群の成り立ち、ブローカ失語を読んでおくこと（30分程度）
6	失語症候群（ウェルニッケ失語）	教科書第6章失語症候群　ウェルニッケ失語を読んでおくこと（30分程度）
7	失語症候群（伝導失語、健忘失語）（適宜グループワーク実施）	教科書第6章失語症候群　伝導失語、健忘失語を読んでおくこと（30分程度）
8	失語症候群（超皮質性失語、全失語）	教科書第6章失語症候群　超皮質性失語、全失語を読んでおくこと（30分程度）
9	失語症候群（交叉性失語、皮質下性失語）（適宜グループワーク実施）	教科書第6章失語症候群　交叉性失語、皮質下性失語を読んでおくこと（30分程度）
10	純粋型（純粋語聾、発語失行）	教科書第6章失語症候群　純粋語聾、発語失行を読んでおくこと（30分程度）
11	純粋型（純粋失書、純粋失読）	教科書第6章失語症候群　純粋失書、純粋失読を読んでおくこと（30分程度）
12	純粋型（失読失書、小児失語）（適宜グループワーク実施）	教科書第6章失語症候群　失読失書、小児失語を読んでおくこと（30分程度）
13	原発性進行性失語	教科書第6章失語症候群　原発性進行性失語を読んでおくこと（30分程度）
14	失語症の治療（治療の技法、原則）	教科書第8章失語症候群　失語症の言語治療　言語治療の原則を読んでおくこと（30分程度）
15	失語症の治療（失語症の回復と地域とのつながり）（適宜グループワーク実施）	教科書第8章失語症候群　失語症の回復を読んでおくこと（30分程度）

教科書	『標準言語聴覚障害　失語症学（第3版）』　藤田 郁代 、阿部 晶子編　医学書院 『病気がみえるvol.7　脳と神経（第2版）』　医療情報科学研究所 編　メディックメディア
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
病院において、言語聴覚士として言語聴覚療法に従事し、失語症・高次脳機能障害の臨床経験を持つ教員が、この障害に対応するために必要な知識と評価方法、プログラムの立案と訓練方法を講義し、演習を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-2-AHB-02

科目名	高次脳機能障害概論				単位認定者	鈴木　將太		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	高次脳機能障害領域における言語聴覚士にとって必須の事項を理解する。各種高次脳機能障害と関連の深い脳部位について学び、人間の精神活動の階層性及び高次脳機能障害の学問上の定義と行政的な定義について理解する。大脳の左右半球との関連が深い障害（失語症、失行症、半側空間無視、構成障害、地誌的見当識障害など）、脳梁の働きと大脳離断症候群について学修する。また前頭前野、頭頂葉、後頭葉と関連が深い障害について学ぶ。さらに高次脳機能障害の評価の基本的な考え方、評価方法について学んでいく。
到達目標	高次脳機能障害領域における国家試験必須用語を理解する。
学修者への期待等	教科書や国家試験問題などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望む。

回	授業計画	準備学修
1	高次脳機能障害の基本概念	教科書第1章　1高次脳機能障害、2脳と高次機能を読んでおくこと（30分程度）
2	前頭葉と高次脳機能障害、注意障害（全般性注意障害）	教科書第9章　前頭葉と高次脳機能障害を読んでおくこと（30分程度）
3	前頭葉と高次脳機能障害、社会的行動障害、意欲・情動の障害	教科書第9章　前頭葉と高次脳機能障害を読んでおくこと（30分程度）
4	前頭葉と高次脳機能障害、遂行機能障害障害（適宜グループワーク実施）	教科書第9章　前頭葉と高次脳機能障害を読んでおくこと（30分程度）
5	記憶の分類	教科書第8章　記憶の障害を読んでおくこと（30分程度）
6	記憶の障害	教科書第8章　記憶の障害を読んでおくこと（30分程度）
7	行為・動作の障害	教科書第7章　行為・動作の障害を読んでおくこと（30分程度）
8	視空間障害（適宜グループワーク実施）	教科書第3章　視空間障害を読んでおくこと（30分程度）
9	右半球損傷による症状	教科書第13章　脳外傷　2コミュニケーション障害を読んでおくこと（30分程度）
10	視覚認知の障害	教科書第2章　視覚認知の障害を読んでおくこと（30分程度）
11	聴覚認知の障害、触覚認知の障害、身体意識、病態委認知の障害	教科書第4章、第5章、第6章を読んでおくこと（30分程度）
12	脳梁離断症状（適宜グループワーク実施）	教科書第11章　脳梁離断症状を読んでおくこと（30分程度）
13	高次脳機能障害の評価について基本的な考え方（評価の手順）	教科書　各章の評価の項目を読んでおくこと（30分程度）
14	高次脳機能障害のリハビリテーション	教科書　各章の評価のリハビリテーションの項目を読んでおくこと（30分程度）
15	高次脳機能障害者の予後、回復、社会参加（適宜グループワーク実施）	これまでの授業内容を復習しておくこと（30分程度）

教科書	『標準言語聴覚障害　高次脳機能障害学（最新版）』　藤田 郁代 、阿部 晶子編　　医学書院 『病気がみえるvol.7　脳と神経（最新版）』　医療情報科学研究所 編　メディックメディア
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
病院において、言語聴覚士として言語聴覚療法に従事し、失語症・高次脳機能障害の臨床経験を持つ教員が、この障害に対応するために必要な知識と評価方法、プログラムの立案と訓練方法を講義し、演習を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-AHB-03

科目名	失語症・高次脳機能障害Ⅰ				単位認定者	鈴木　將太		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	10　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	謙虚な態度で失語症・高次脳機能障害者と向き合うことのできる高い人間性を備えた言語聴覚士像を目指し、グループ発表、講義・演習を通して失語症のメカニズムについて学ぶ。また、検査方法を身につけ言語症状を記録し、そのデータを評価・分析の上、結果をまとめる演習を行う。高次脳機能障害の各検査（知能検査、記憶検査、注意検査、視知覚検査）を学生相互に実施し、記録の仕方、評価・分析を行い結果をまとめることができるようになることを目指す。
到達目標	根拠に基づいた訓練法を立案することができ、且つ謙虚な態度で失語症・高次脳機能障害者と向き合うことのできる高い人間性を備えた言語聴覚士像を目指す。
学修者への期待等	教科書や国家試験問題などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解する。自主的に検査演習に取り組み検査の意義や目的、検査結果から症例を分析してまとめることができることを望む。

回	授業計画	準備学修
1	認知神経心理学的アプローチの言語処理について（全体）	標準言語聴覚障害「失語症学（第3版）」（医学書院）で認知神経心理学的アプローチの箇所を予習（30分程度）
2	認知神経心理学的アプローチの言語処理について（聴覚的理解）（適宜グループワーク実施）	前回の復習（30分程度）
3	認知神経心理学的アプローチの言語処理について（呼称）（適宜グループワーク実施）	前回の復習（30分程度）
4	認知神経心理学的アプローチの言語処理について（復唱）（適宜グループワーク実施）	前回の復習（30分程度）
5	認知神経心理学的アプローチの言語処理について（視覚的理解）（適宜グループワーク実施）	前回の復習（30分程度）
6	認知神経心理学的アプローチの言語処理について（音読）（適宜グループワーク実施）	前回の復習（30分程度）
7	認知神経心理学的アプローチの言語処理について（書称）（適宜グループワーク実施）	前回の復習（30分程度）
8	認知神経心理学的アプローチの言語処理について（書き取り）（適宜グループワーク実施）	前回の復習（30分程度）
9	言語機能検査について	標準言語聴覚障害学「失語症学（第3版）」（医学書院）で検査項目の箇所を予習（30分程度）
10	標準失語症検査①聴く（適宜グループワーク実施）	標準失語症検査マニュアルに目を通しておくこと（30分程度）
11	標準失語症検査②話す（呼称～語の列挙）（適宜グループワーク実施）	標準失語症検査マニュアルに目を通しておくこと（30分程度）
12	標準失語症検査③話す（漢字単語の音読～短文の音読）（適宜グループワーク実施）	標準失語症検査マニュアルに目を通しておくこと（30分程度）
13	標準失語症検査④読む（適宜グループワーク実施）	標準失語症検査マニュアルに目を通しておくこと（30分程度）
14	標準失語症検査⑤書く（漢字単語の書字～まんがの説明）（適宜グループワーク実施）	標準失語症検査マニュアルに目を通しておくこと（30分程度）
15	標準失語症検査⑥書く（仮名1文字の書取～短文の書取）、計算（適宜グループワーク実施）	標準失語症検査マニュアルに目を通しておくこと（30分程度）

教科書	『標準言語聴覚障害学　失語症学（第3版）』藤田 郁代編　医学書院 『標準言語聴覚障害　高次脳機能障害学（第3版）』藤田 郁代 、阿部 晶子編　医学書院 『標準失語症検査マニュアル』日本高次脳機能障害学会編　株式会社新興医学出版社
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LDS-01

科目名	言語発達障害Ⅰ				単位認定者	木村　有希		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	言語発達障害児に言語療法を行う際に必要な基礎知識を、講義を通して学ぶ。本講義では、言語発達・言語発達障害についての基礎・概要について取り上げ、対象児を評価する上で必要な検査法の実技と採点練習を行う。また、言語発達障害・正常発達を学ぶために、小児に関する施設を見学し、保育・療育の実際を知る。さまざまな評価方法について演習を行い、知識・技術の修得を目指す。
到達目標	通常の言語発達と比較しながら言語障害への理解を深める。
学修者への期待等	通常の言語発達と言語障害それぞれについて理解する。

回	授業計画	準備学修
1	言語発達について　言語発達の基礎（Ｓ－Ｓ法を中心に）	ことばの発達について自分で調べておくこと(1時間)
2	検査法１　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
3	検査法２　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
4	検査法３　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
5	検査法４　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
6	検査法５　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
7	検査法６　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
8	検査法７　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
9	検査法８　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
10	検査法９　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
11	検査法１０　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
12	検査法１１　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
13	検査法１２　S-S法の実施練習（実技と採点練習）	【事後】配布資料を確認すること。手順を確認しておくこと(30分)
14	保育所見学１　小児の言語発達についての観察	【事前】小児の言語発達について調べておくこと(1時間)
15	保育所見学２　小児の言語発達についての観察	【事前】小児の言語発達について調べておくこと(1時間)

教科書	配布資料を渡す。
参考文献	『標準言語聴覚障害学　言語発達障害学(最新版)』　医学書院 そのほか授業の中で紹介する。
備考	保育所見学に関しては、状況により内容が変更になる可能性があります。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)
小児に関連する施設での臨床経験を持つ教員が、小児の障害に対応する必要な知識と評価方法について講義・演習を行う。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LDS-03

科目名	脳性麻痺・運動発達の障害				単位認定者	木村 有希 熊谷 美緒		評価の方法	試験(筆記)	70 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		授業内課題等	20 %
						授業時間数	30 時間		受講態度	10 %
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要	脳性麻痺は運動障害と発達の問題を包含している。本講義では、多様で複雑な障害像を呈する脳性麻痺を理解するために、原始反射・姿勢反応と運動発達との関連などを学修し、言語発達の問題や構音障害をはじめとする言語障害へのアプローチ、及び摂食嚥下障害に対するアプローチについて学ぶ。さらに、生涯にわたって変化していく障害像に対し、ライフステージに応じた対応や多職種でのアプローチについて紹介し、言語聴覚士としての支援について考える機会とする。
到達目標	正常発達を理解したうえで、脳性麻痺の臨床像について説明できるようになる。 健常児と脳性麻痺児の運動の違いを理解し、各類型の姿勢と運動の特徴を説明できるようになる。 障害児(者)の摂食嚥下機能障害に対する評価及び発達療法的対応の基礎知識を習得する。 対象児（者）の生活における困難さを理解し、言語聴覚士としてどんな支援ができるのか考え、表現できるようになる。
学修者への期待等	障害児（者）にかかわる言語聴覚士について理解する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	脳性麻痺とは① 定義、原因と臨床像	配布資料を提示する	木村　有希
2	脳性麻痺とは② 姿勢と運動の障害とは	配布資料を提示する	木村　有希
3	脳性麻痺の臨床的病型①　痙直型・アテトーゼ型	配布資料を提示する	木村　有希
4	脳性麻痺の臨床的病型②　低緊張型・失調型・混合型	配布資料を提示する	木村　有希
5	発達的変化　ライフステージにおける臨床像の変化	配布資料を提示する	木村　有希
6	小児、心身障害児(者)を扱う視点	配布資料を提示する	千木良 あき子
7	中途障害と心身障害児（者）の違い：形態発育と機能発達、加齢・疾病と機能低下、脳性麻痺の形態発育（口腔）の問題	配布資料を提示する	千木良 あき子
8	摂食嚥下機能の正常発達と発達段階評価	配布資料を提示する	千木良 あき子
9	代表的症例（脳性麻痺、知的能力障害、経管依存症、自閉症スペクトラム症）	配布資料を提示する	千木良 あき子
10	口腔ケアの重要性と対応の基本、チームアプローチ	配布資料を提示する	千木良 あき子
11	脳性麻痺の方の生活の理解、重症心身障害児（者）の理解	配布資料を提示する	熊谷　美緒
12	コミュニケーション面の評価	配布資料を提示する	熊谷　美緒
13	コミュニケーション面の訓練	配布資料を提示する	熊谷　美緒
14	摂食嚥下機能面の評価	配布資料を提示する	熊谷　美緒
15	摂食嚥下機能面の訓練	配布資料を提示する	熊谷　美緒

教科書	『小児の摂食嚥下リハビリテーション　第2版』　田角勝、向井美恵(編著)　医歯薬出版
参考文献	『食べる機能の障害』　金子芳洋(編)金子芳洋、向井美恵、尾本和彦(著)　医歯薬出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LDS-04

科目名	学習障害・発達障害				単位認定者	木村　有希 須賀川　芳夫		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	本講義では、学習障害・発達障害の歴史的背景、診断基準、支援の基本的な考え方を学修する。主に発達障害についての概観、知的発達障害、自閉性障害、学習障害（読み書き障害、算数障害など）、注意欠如／多動性障害（AD／HD）を取り上げ、それぞれの障害への理解を深める。また、臨床に必要な幼児の発達の基礎、言葉の育ち、幼児支援に対するアセスメントについて講義を通して学び、支援方法を身につける。
到達目標	学習障害及び発達障害の定義や特性、支援の方法について理解を深める。
学修者への期待等	講義内で学んだ発達障害・学習障害について基本的な内容を理解し説明することができるようになることを期待する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	発達障害の概念・定義		須賀川　芳夫
2	知的発達障害の診断基準と支援/ダウン症とウィリアムス症候群	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	須賀川　芳夫
3	自閉スペクトラム症の基本症状	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	須賀川　芳夫
4	当事者の声と心の理論	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	木村　有希
5	自閉症の概念の変遷	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	木村　有希
6	自閉症児への支援	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	木村　有希
7	学習障害の定義と下位分類	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	須賀川　芳夫
8	読み書きの困難、心理的疑似体験	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	須賀川　芳夫
9	読み書きの困難の評価	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	須賀川　芳夫
10	読み書きの困難への対応・支援	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	須賀川　芳夫
11	算数障害のサブタイプと支援	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	須賀川　芳夫
12	ＡＤ／ＨＤの症状と二次障害	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	木村　有希
13	ＡＤ／ＨＤの基本的な対応	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	木村　有希
14	幼児の育ち、言葉の育ちに必要なもの	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	木村　有希
15	幼児支援に関するアセスメント	授業後に配布した資料を確認しておくこと(30分)	木村　有希

教科書	『標準言語聴覚障害学　言語発達障害学（最新版）』玉井ふみ、深浦順一編　医学書院
参考文献	参考書：『健診とことばの相談』中川信子（著）ぶどう社 『教師のため合理的配慮の基礎知識』西村修一・久田信行（著）明治図書
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-VDY-03

科目名	運動障害性構音障害Ⅰ				単位認定者	櫻庭　ゆかり		評価の方法	試験（筆記）	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	１年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	運動障害性構音障害とは神経系の病変による、発声発語器官の運動障害によって引き起こされる発声発語の障害で、臨床的には筋系の障害も含む。発話は、複雑、微細、敏速な、極めてレベルの高い巧緻動作であり自動的、無意識的な運動である。また発声発語器官の構造が複雑で、その運動が目には見えず、感覚 - 運動系の連携のみにより成り立つという特徴をもつ。本講義では、運動障害性構音障害のタイプ分類の特徴を、脳の障害部位と関連づけて学び、運動障害と構音の検査演習を行う。
到達目標	神経系の障害に起因する運動障害性構音障害の原因と特徴を理解し、説明できる。
学修者への期待等	理解と記憶は一度だけではなく、繰り返し行うことを望む。また毎回、クラスメートとの確認作業を行う。知識の整理と発展、さらには患者様へ説明を行うためのトレーニングを兼ねるので、真剣に参加してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス　運動障害性構音障害とは	教科書137ページから139ページまでを読んでおくこと。(40分程度)
2	発声発語と神経・筋系の仕組み１　神経	教科書27ページから33ページまでを読んでおくこと。(40分程度)
3	発声発語と神経・筋系の仕組み１　呼気コントロールの生理	教科書2ページから6ページまでを読んでおくこと。(40分程度)
4	発声発語と神経・筋系の仕組み2　発声器官の解剖	教科書11ページから18ページまでを読んでおくこと。(40分程度)
5	発声発語と神経・筋系の仕組み3　発声のメカニズムと調整	教科書5ページから10ページまでと40ページを読んでおくこと。(40分程度)
6	原因疾患と発話の特徴１　発話症状	教科書140ページから143ページまでを読んでおくこと。(40分程度)
7	発声発語器官と神経制御の役割	教科書34ページから38ページを読んでおくこと。(40分程度)
8	神経疾患1　脳血管障害，脳腫瘍，外傷	教科書177ページから178ページを読んでおくこと。(40分程度)
9	神経疾患２　神経変性疾患	178ページの2）から182ページのｂの上までを読んでおくこと。（40分程度）
10	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 １．痙性構音障害	141ページの①②を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと（40分程度）
11	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 ２．弛緩性構音障害	141ページの③を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと（40分程度）
12	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 ３．失調性構音障害	141ページの④を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと（40分程度）
13	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 ４．運動低下性構音障害	142ページの⑤を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと（40分程度）
14	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 ５．運動低下性構音障害	142ページの⑥を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと（40分程度）
15	運動障害性構音障害のタイプと発話特徴 ６．混合性構音障害	142ページの⑦を読み音源を聞いて特徴と照らし合わせておくこと（40分程度）

教科書	『標準言語聴覚障害学　発声発語障害学（最新版）』城本 修、原 由紀　編 『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』広瀬肇　柴田貞雄　白坂康俊　著
参考文献	『病気がみえるvol.7　脳と神経（第2版）』医療情報科学研究所 編　メディックメディア
備考	適宜、資料を配布するので、ファイリングしておくこと

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
講義担当者は、言語聴覚士として運動障害性構音障害の臨床を行ってきた。臨床に必要な解剖生理と神経学を学び、障害のタイプを知ることは訓練を行う基礎となる。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-VDY-06

科目名	摂食嚥下障害Ⅰ				単位認定者	中川　大介		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	摂食嚥下障害の理解を深めるため、健常者の正常嚥下の流れを把握し、嚥下障害患者と比較してどこに違いが生じるのか、どうしてそのような運動、症状になるかについて深く考察していく。嚥下障害が引き起こす病態について理解するとともに、機能的・器質的な症状について把握するため、言語聴覚士が行うことのできる検査など演習を通じて評価の目的と概要について学んでいく。また他職種が実施する検査についても理解を広げ、摂食嚥下リハビリテーションのチームアプローチの基礎について学ぶ。
到達目標	・成人領域における摂食嚥下のメカニズム、病態を理解する。 ・摂食嚥下障害の評価方法を習得し、問題点を抽出することができる。
学修者への期待等	・成人嚥下において、正しい知識に基づき評価を行うことができる。 ・言語聴覚士として他職種へ情報提供を行うことができ、コミュニケーションが図れる。

回	授業計画	準備学修
1	成人領域に対する言語聴覚士の摂食嚥下リハビリテーション。摂食嚥下機能に関わる器官の解剖①	【事前】テキストの関連ページを読むこと（60分）
2	嚥下機能の解剖② （嚥下5期モデルに関わる筋の構成とその機能）	【事前】テキストの関連ページを読むこと（60分）
3	嚥下機能の生理・神経機構 （嚥下5期モデルに関わる神経機構とその機能）	【事前】テキストの関連ページを読むこと（60分）
4	嚥下運動のメカニズム (嚥下反射のメカニズム、嚥下と呼吸の関係)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（60分） 【事後】講義を復習すること（30分）
5	嚥下障害の症状と原因(摂食嚥下障害を引き起こす疾患とその症状・嚥下障害の２次的問題)	【事後】講義内容を復習すること（30分）
6	各期での嚥下障害の症状 (嚥下5期モデルにおける嚥下障害の症状と問題)	【事後】講義内容を復習すること（30分）
7	嚥下障害の評価①(評価とは。観察評価の視点。問診/EAT-10、聖隷式嚥下質問紙)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（60分）
8	嚥下障害の評価②（実技演習） (嚥下機能に関わる諸器官・機能の評価)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（30分） 【事後】講義を復習すること（30分）
9	嚥下障害の評価③　スクリーニング評価（実技演習） (ＲＳＳＴ・改定水飲み検査・頸部聴診法)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（30分） 【事後】講義を復習すること（30分）
10	嚥下障害の評価④（実技演習、グループワーク） (フードテスト、食事場面観察、記録練習など)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（30分） 【事後】講義を復習すること（30分）
11	嚥下障害の評価⑤ (嚥下機能検査/嚥下造影検査)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（30分） 【事後】講義を復習すること（30分）
12	嚥下障害の評価⑥・グループワーク (嚥下機能検査/嚥下造影検査)	【事後】講義内容を復習すること（30分）
13	嚥下障害の評価⑦ (嚥下機能検査/嚥下内視鏡検査)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（30分） 【事後】講義を復習すること（30分）
14	嚥下障害の評価⑧・グループワーク (嚥下機能検査/嚥下造影検査、その他の検査)	【事後】講義内容を復習すること（30分）
15	評価のまとめ・検査結果から導出される問題点	【事前】これまでの講義内容を復習しておくこと（90分）

教科書	『標準言語聴覚障害学　摂食嚥下障害学』　藤田郁代　監修　熊倉　勇美/椎名英貴編著　医学書院
参考文献	
備考	適時　クイズを行い知識の整理を行います。その後フィードバックを行い返却します。 授業内容は状況に応じて変更する場合があります。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
講義担当者は、言語聴覚士として嚥下障害の臨床に携わってきた。専門領域の一つである。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-HDS-01

科目名	成人・小児の聴覚障害				単位認定者	渡邊　弘人 坂本　幸		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1 年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	多様かつ複雑な状況に置かれている聴覚障害児・者の個々の場合に適切に対応するために必要な知識と技術について学ぶ。特に、近年の極早期の全人的発達支援を目指す乳幼児への対応について多面的に考察する。また、聴覚障害人口の大きな割合を占めながら、その潜在的ニーズに応え切れていない高齢者への対応の必要性についても検討する。聴覚障害者の心理や認知の特性について学び、障害特性及び個々人の実態に適合した対応の方法について考え、発達段階に応じて変化する認知的･心理的特性との関連を学んでいく。
到達目標	聴覚障害児･者の個々の場合に適切に対応できるよう、知識と技術について学ぶ。特に、全人的発達支援を目指す乳幼児への対応、難聴者・中途失聴者の抱える課題、高齢者への対応も検討する。
学修者への期待等	聴覚障害は複雑な障害である。内容を深く理解するためには、準備学修を行った上で各回の講義が重要となる。自ら学び取る姿勢を期待したい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	聴覚障害とは何か。 適宜グループワークを行う	テキストＰ7～10まで事前に読むこと（30分）	渡邊　弘人
2	聴覚の機能　聞こえとことば（聴覚の発達） 適宜グループワークを行う	テキストＰ2～6まで事前に読むこと（30分）	渡邊　弘人
3	聴覚リハビリテーションの歴史と現状、課題 適宜グループワークを行う	テキストＰ14～19まで事前に読むこと（30分）	渡邊　弘人
4	聴覚障害のリハビリテーションの概要 適宜グループワークを行う	テキストＰ19～25まで事前に読むこと（60分）	渡邊　弘人
5	聴覚障害評価の概要（聴覚検査を含む） 適宜グループワークを行う	テキストＰ70～75まで事前に読むこと（30分）	渡邊　弘人
6	成人聴覚障害の特徴 適宜グループワークを行う	テキストＰ282～289まで事前に読むこと（30分）	渡邊　弘人
7	成人聴覚障害のコミュニケーション障害の改善 適宜グループワークを行う	テキストＰ290～298まで事前に読むこと（30分）	渡邊　弘人
8	成人聴覚障害の発症時期別の対応 適宜グループワークを行う	テキストＰ298～307まで事前に読むこと（30分）	渡邊　弘人
9	前言語期の基礎的発達：原初的コミュニケーションの発達と聴覚障害の影響	原初的コミュニケーションの特性について知る（1時間）	坂本　幸
10	聴覚障害乳児との適切な対応について多面的に考える	聴覚障害幼児に、通常育児では足りない配慮を考える（1時間）	坂本　幸
11	幼児前期の伝達の精緻化と、同障幼児グループの集団活動	月年齢に似合う伝達手段と聴覚障害の程度・特性（1時間）	坂本　幸
12	音韻体系の明確化と日常コミュニケーションの有効性の関連付け	必要な情報を、誤解を少なく有効に伝達する方法を考える（30分）	坂本　幸
13	幼児後期のコミュニケーション、言語の改善意欲を育てる	自律学習と課題学修について、比較検討してみる（1時間）	坂本　幸
14	口頭と文字による伝達の比較の経験によるリテラシー習得活動	読み書き（リテラシー）能力に必要な諸能力を考える（1時間）	坂本　幸
15	自力で教科学習を進められる知識や技能、支援を得る手立てを考える	自分自身について、学習の進め方を検討してみる（30分）	坂本　幸

教科書	『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学』　藤田郁代(編)　医学書院
参考文献	『言語聴覚士のための聴覚障害学』　喜多村健（編）　医歯薬出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
講義担当者は、言語聴覚士として病院・施設での臨床を行ってきた。言語聴覚士にとって「聴覚障害」は、専門領域の一つである。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-HDS-03

科目名	聴力検査				単位認定者	渡邊　弘人		評価の方法	試験(筆記)	90　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題	10　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	音声言語の入力経路＝聴覚機能に関する検査について、各種の聴力検査の概要とその目的を知る。聴覚検査の基本である純音・語音聴力検査の実技を、各種の聴覚検査の方法･機能･診断的意義の概要、留意点と問題点の講述、検査デモンストレーションを含めて学ぶ。 基本的聴覚検査の実技演習として、純音聴力検査:気導検査・骨導検査（含マスキング）、語音聴力検査：語音了解閾値検査・語音弁別検査、補充現象等の検査：ABLB検査・SISI検査を実施し、理論と実践をつなげていく。
到達目標	言語聴覚士が行う聴力検査の概要・目的・実施手順について理解する。
学修者への期待等	聴力検査を理解するためには、聴覚系の解剖・生理の理解が求められるため、「聴覚系の機能・構造・病態」の講義内で行った内容を復習しておくこと。

回	授業計画	準備学修
1	伝音機構、神経伝導機構：その診断と各種の検査	テキスト第1部「聴覚検査の予備知識」を予習・復習すること（1時間）。
2	乳幼児の発達と、適応できる聴覚検査、およびその組み合わせ	テキスト第Ⅱ部内、「10、乳児聴力検査」を予習・復習すること（1時間）。
3	自覚的聴覚検査Ⅰ：純音聴力検査	テキスト第Ⅱ部内、「1、純音聴力検査」を予習・復習すること（1時間）。
4	聴覚マスキング 聴力検査用マスキング音の種類と特性	「1、純音聴力検査」内、「D、マスキング」を予習・復習すること（1時間）。
5	聴覚検査演習①：純音聴力検査（気導聴力検査）	「1、純音聴力検査」内、検査手順について予習・復習すること（1時間）。
6	聴覚検査演習②：純音聴力検査（骨導聴力検査）	「1、純音聴力検査」内、検査手順について予習・復習すること（1時間）。
7	聴覚検査演習③：オージオグラムへの記録方法　検査結果の解釈	「1、純音聴力検査」内、記録方法について予習・復習すること（1時間）。
8	自覚的聴力検査Ⅱ：語音聴力検査	テキスト第Ⅱ部内、「4、語音聴力聴力検査」を予習・復習すること（1時間）。
9	聴覚検査演習④：語音聴力検査（語音聴取閾値検査）	「4、語音聴力聴力検査」内、検査手順について予習・復習すること（1時間）。
10	聴覚検査演習⑤：語音聴力検査（語音弁別検査）	「4、語音聴力聴力検査」内、検査手順について予習・復習すること（1時間）。
11	聴覚検査演習⑥：スピーチオージオグラムの記録方法　検査結果の解釈	「4、語音聴力聴力検査」内、記録方法について予習・復習すること（1時間）。
12	自覚的聴力検査Ⅲ：SISI検査　ABLB検査　自記オージオメトリ	「2、自記オージオメトリー」「3、閾値上検査」を予習復習すること（1時間）。
13	他覚的聴力検査Ⅰ：インピーダンスオージオメトリ	「5、インピーダンス・オージオメトリー」を予習・復習すること（1時間）。
14	聴覚検査演習⑦：インピーダンスオージオメトリ ティンパノメトリ・耳小骨筋反射検査	「5、インピーダンス・オージオメトリー」の検査手順を予習・復習すること（1時間）。
15	他覚的聴力検査Ⅱ：耳音響放射検査　ＡＢＲ　ＡＳＳＲ	「8、聴性脳幹反応」「9、耳音響放射」を予習・復習すること（1時間）。

教科書	『聴覚検査の実際（最新版）』　日本聴覚医学会(編)・原　晃(監修)　南山堂
参考文献	『基本的聴覚検査マニュアル（改訂3版）』　服部浩　金芳堂
備考	聴覚演習室で講義・演習を行う予定である。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
講義担当者は、言語聴覚士として、病院・施設で臨床に携わってきた。聴力検査の知識・実施方法の習得は、聴覚障害を評価するためには必須である。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-HDS-04

科目名	視覚聴覚二重障害・重複障害				単位認定者	三科　聡子		評価の方法	試験（レポート）	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	視覚聴覚二重障害及び重複障害の生理・心理・教育についての基本を理解し、その障害特性を踏まえた支援方法の基本的視点を修得する。視覚聴覚二重障害や重複障害を有する人への対応（療育・教育）や支援の方法と実際を学ぶ。これらの障害についての生理・心理面における基本的知識、及び教育（療育）的対応における基本事項を理解する。さらに近年の支援状況や今後の課題についても学修する。臨床像を踏まえて、具体的な行動観察、評価の視点、コミュニケーション支援、重度・重複障害者の探索活動の促進への対応を学ぶ。
到達目標	視覚聴覚二重障害及び重複障害の特性や困難を理解し、説明をすることができる。 臨床の現場では、視覚聴覚二重障害及び重複障害を有する児・者の個々の困難を障害特性との関連から評価・説明ができ、初期対応（療育・教育）ができる。
学修者への期待等	授業内で配布する資料等を熟読し、不明な点がある場合には、授業の際に質問をするなど解決してください。

回	授業計画	準備学修
1	視覚聴覚二重障害の定義	
2	視覚聴覚障害の原因とニーズ	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
3	先天性視覚聴覚二重障害が初期発達にもたらす影響（コミュニケーション）	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
4	先天性視覚聴覚二重障害が初期発達にもたらす影響（概念形成）	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
5	後天性視覚聴覚二重障害がもたらす生活上の困難（コミュニケーション）	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
6	後天性視覚聴覚二重障害がもたらす生活上の困難（社会参加）	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
7	視覚聴覚二重障害者への教育に関する近年の状況（グループワーク）	前回までの授業の内容を再確認すること（40分程度）
8	視覚聴覚二重障害者への支援に関する近年の状況（グループワーク）	前回の授業の内容を再確認すること（40分程度）
9	重度・重複障害の定義	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
10	重度・重複障害の原因と臨床像	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
11	重度・重複障害の評価の視点	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
12	重度・重複障害のコミュニケーション支援	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
13	重度・重複障害の感覚機能の評価と対応	事前に配布する資料の内容を把握すること（30分程度）
14	重度・重複障害者の探索活動の促進（グループワーク）	前回までの授業の内容を再確認すること（40分程度）
15	重度・重複障害者の支援に関する近年の状況（グループワーク）	前回の授業の内容を再確認すること（40分程度）

教科書	特に指定はしません。適宜、資料等を配布します。
参考文献	①『重度・重複障害児の教育　盲ろう児の指導実践に学ぶ』　志村太喜彌　コレール社　1989年 ②『盲ろう者への通訳・介助　光と音を伝えるための方法と技術』　全国盲ろう者協会（編）　読書工房 2008年
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-CLT-01

科目名	臨床実習Ⅰ（見学実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人　鈴木 將太 木村 有希　中川 大介		評価の方法	実習先の評価：知識・人物・適性	50 %
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	後期	単位数	1 単位		学内の評価：準備・報告書等	50 %
						授業時間数	45 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－ 回			

授業の概要	実習施設において実際の臨床を見学することで言語聴覚療法に対する認識を高めることを目的とする。リハビリテーションの専門職につくための自覚を持つとともに、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法の活動見学を通し、挨拶、時間の順守、態度を含めた社会人としての在り方、対象者の尊厳の理解、対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。 また、臨床現場における言語聴覚士の役割と位置づけ、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。実習後に個人面談を行い、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察し、実習を総括する。
到達目標	言語聴覚療法について具体的にイメージできる。社会人としての在り方を理解し、実行できる。言語聴覚士に求められる基本的資質を理解する。
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動の見学を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってほしい。そのうえで、次年度の学修における努力目標を明確にできることを期待する。

授業計画

1．実習期間
1単位　　45時間
　実習時期　9月4週～10月1週の間で1週

２．実習の目的
実習施設において実際の臨床を見学することで、言語聴覚療法に対する認識を高める。また、他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。

３．実習の目標（ねらい）
1）リハビリテーションの専門職に就くための自覚を持つ。
2）他職種との連携などを通して、リハビリテーションチームとは何かを学修する。
3）対象者とのコミュニケーションの取り方、接し方など言語聴覚士に必要な基本的資質を身につける。

４．実習計画
1）実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。
2）実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。
3）実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。
4）毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。
5）実習期間終了後、実習報告書を提出する。

教科書	適宜紹介する。
参考文献	適宜紹介する。
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
本科目の担当者はすべて5年以上の経験を有する言語聴覚士である。その指導のもと言語聴覚療法の実際を学ぶ。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●				

科目ナンバリング
ST-3-SOC-01

科目名	自然科学概論				単位認定者	鈴木　将太		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	1年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内 課題等	10　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	言語聴覚士が扱う聴覚と音声の基本に音の理解があり、その背景には波動に関する物理学がある。音は「振動（＝ゆれ）」で、「振動」が物体を介して伝わる「波動」となって耳に届く。講義前半では波の性質を学び、「音響学」の基礎とする。さらにリハビリテーション専門職の一員として生理学は必須の学問であるため、後半では、「生理学」の基礎となる細胞の性質と代謝、遺伝の概要について学修し、理解を深める。
到達目標	音響学、生理学の領域の基礎を理解する。
学修者への期待等	教科書、参考書などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解することを望む。

回	授業計画	準備学修
1	波とはなにか　波の伝わり方	音響学で使用するテキストに目を通しておくこと（30分程度）
2	波長と速さと振動数（適宜グループワーク実施）	前回の内容の復習（30分程度）
3	定常波	前回の内容の復習（30分程度）
4	音波	前回の内容の復習（30分程度）
5	log計算　大きすぎる数字をコンパクトに（適宜グループワーク実施）	前回の内容の復習（30分程度）
6	パワーとは仕事率	前回の内容の復習（30分程度）
7	体積　「呼気の体積」とは何を指しているのか	前回の内容の復習（30分程度）
8	速度とは　単位時間に何回（適宜グループワーク実施）	前回の内容の復習（30分程度）
9	圧力とは　音も声も圧が大切	前回の内容の復習（30分程度）
10	濃度について　　浸透圧理解のために	前回の内容の復習（30分程度）
11	細胞膜　活動電位の理解へ（適宜グループワーク実施）	生理学のテキストに目を通しておくこと（30分程度）
12	イオン　陽イオン　陰イオン　活動電位へ	前回の内容の復習（30分程度）
13	人体の内臓の位置	前回の内容の復習（30分程度）
14	代謝　なぜご飯をたべて太るのか	前回の内容の復習（30分程度）
15	遺伝　メンデルとえんどう豆（適宜グループワーク実施）	前回の内容の復習（30分程度）

教科書	『言語聴覚士テキスト（第3版）』大森　孝一他編　医歯薬出版
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚学科
2年生
（２０２２年度入学生）

■　年間予定表
■　シラバス

2023年度　言語聴覚学科2年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月													1	
	2		3		4		5		6	入学式	7		8	
	9		10	健康診断	11	健康診断	12	健康診断	13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	昭和の日
	30		1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	
5月	7		8		9		10		11		12		13	
	14		15		16		17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29		30		31		1		2		3	
6月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12		13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23		24	
	25		26		27		28		29		30		1	
7月	2		3		4		5		6		7		8	
	9		10		11		12		13		14		15	
	16		17	海の日	18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	
	30		31	定期試験	1	定期試験	2	定期試験	3	定期試験	4	定期試験	5	
8月	6		7	追試験	8	追試験	9		10		11	山の日	12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21	不合格者発表	22		23		24		25		26	
	27		28	再試験	29	再試験	30		31		1		2	
9月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	敬老の日	19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2023年度　言語聴覚学科2年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9	体育の日	10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	せいよう祭
	29		30		31		1		2		3	文化の日	4	
11月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23	勤労感謝の日	24		25	
	26		27		28		29		30		1		2	
12月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18		19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31		1	元日	2	振替休日	3		4		5		6	
1月	7		8	成人の日	9		10		11	定期試験	12	定期試験	13	
	14		15	定期試験	16	定期試験	17	定期試験	18	追試験	19	追試験	20	
	21		22	実習指導	23	実習指導	24		25		26	不合格者発表	27	
	28		29	臨床実習Ⅱ	30	臨床実習Ⅱ	31	臨床実習Ⅱ	1	臨床実習Ⅱ	2	臨床実習Ⅱ	3	
2月	4		5	臨床実習Ⅱ	6	臨床実習Ⅱ	7	臨床実習Ⅱ	8	臨床実習Ⅱ	9	臨床実習Ⅱ	10	
	11		12	建国記念の日	13	臨床実習Ⅱ	14	臨床実習Ⅱ	15	臨床実習Ⅱ	16	臨床実習Ⅱ	17	
	18		19	実習指導	20	実習指導	21	実習指導	22	実習指導	23	天皇誕生日	24	
	25		26	再試験	27	再試験	28		29		1		2	
3月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18		19	卒業式	20	春分の日	21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31													

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-0-HCU-02

科目名	英文抄読				単位認定者	近江　貞子		評価の方法	授業内課題等	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	言語聴覚療法の臨床や、研究・研鑽の場面で、英語文献が必要になることがある。本科目では、「英語Ⅰ」・「英語Ⅱ」を基礎として、言語聴覚領域の英語論文を読解する能力を身につける。英文に親しむため、前半では健康や医療、身体に関する短文を翻訳する。後半において論文に取り組み、専門用語や論文独特の言い回しを学ぶ。
到達目標	言語聴覚療法に関連する英語文献の抄録を読むことに慣れる。 専門用語、文法を理解し、要約できる。
学修者への期待等	英文を読むことになれ、英語文献を読むことに興味をもち、それに対して価値観をもてるようになることを期待する。グループワークもしながら読解、要約の作業をするので、積極的に発言して欲しい。

回	授業計画	準備学修
1	英文抄読の導入；英語Ⅰ、英語Ⅱの復習	
2	課題のlistening & reading①(posture)	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
3	課題のlistening & reading②(sitting)	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
4	課題のlistening & reading③（vitamines）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
5	課題のlistening & reading④（the food you eat）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
6	課題のlistening & reading⑤（microbes）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
7	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読（単語、文法、イディオムなどの確認、読解）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
8	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読（単語、文法、イディオムなどの確認、読解）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
9	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読（単語、文法、イディオムなどの確認、読解）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
10	読解した文献についてディスカッション	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
11	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読（単語、文法、イディオムなどの確認、読解）音声障害	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
12	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読（単語、文法、イディオムなどの確認、読解）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
13	言語聴覚療法に関連する英語文献を抄読（単語、文法、イディオムなどの確認、読解）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
14	読解した文献についてディスカッション	【事後】講義内容を復習すること（1時間）
15	まとめ　単語、文法などの復習	【事後】講義内容を復習すること（1時間）

教科書	なし
参考文献	TED-ed, japantoday.comなどネット上の英語記事
備考	英和辞書を用意すること。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-0-HSC-01

科目名	統計学				単位認定者	鈴木　寿則		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	統計学とは、ばらつきのあるデータから、数値上の性質や規則性あるいは不規則性を見いだす学問である。具体的には訓練の効果の有無や、より良いトレーニング法の開発等に用いることができる。研究論文を正確に解釈し、自分の研究の信頼性・妥当性を高めるためにも、統計を理解し、操作できることは大変重要である。本講義では、初歩的な処理として、平均、偏差、標準偏差、度数、分散、相関、回帰などについて学ぶ。
到達目標	1. 医学系研究に必要な統計学の概要を説明できる。 2. 統計学亭視点から研究論文を読み、クリティカルレビューを行うことができる。
学修者への期待等	授業で取り上げた内容は、その授業の中で理解できるよう集中し、分からない箇所等は質問してください。 また、授業後は各自、ノート等を整理、追加記入をし、復習に重点を置いてください。

回	授業計画	準備学修
1	オリエンテーション、研究のプロセス	教科書第1章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
2	データの収集・分析方法の決定	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第1章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
3	変数の概要（独立変数・従属変数の考え方）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第2章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
4	変数の測定（名義・順序・間隔・比率尺度）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第2章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
5	測定値の水準、測定の妥当性・信頼性	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第2章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
6	調査の計画と進め方（1）（全数調査と標本調査）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第3章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
7	調査の計画と進め方（2）（有意抽出と無作為抽出）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第3章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
8	調査の計画と進め方（3）（バイアスの制御）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第3章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
9	実験計画の考え方、分散分析	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第4章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
10	1変数の分析（1）（度数分布表の作成）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第5章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
11	1変数の分析（2）（平均値、中央値、最頻値）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第5章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
12	1変数の分析（3）（分散と標準偏差、面積変換）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第5章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
13	2変数の分析（1）（クロス表の集計）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第5章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
14	2変数の分析（2）（相関関係、回帰分析）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第6章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。
15	分析結果の一般化（統計的仮説の立証）	前回の授業についてノートの整理を行い、教科書第6章をあらかじめ通読する（概ね45分程度）。

教科書	『実証研究の手引き　調査と実験の進め方・まとめ方』古野谷亘・長田久雄（ワールドプランニング, 1992）
参考文献	『はじめて学ぶやさしい疫学～疫学への招待　改訂第3版』日本疫学会監修（南江堂, 2018）
備考	講義はすべて遠隔（オンデマンド）で実施する。授業内課題として、各授業でレポートを提出する。フィードバックは、優れた内容に対してコメントを付記し、模範解答とする。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●			

科目ナンバリング
ST-0-HSC-02

科目名	健康スポーツ学Ⅰ				単位認定者	櫻庭　ゆかり		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	言語聴覚士が担当する構音や嚥下は運動である。対象者により良い訓練を提供するためには、運動とは何かを理解している必要がある。本講義では、運動の根本である筋活動からとらえ、筋収縮のメカニズムを、神経、筋組成、呼吸、血液循環及びエネルギー産生の側面から理解する。さらには運動によって身体にどのような変化が生じるのか、運動前と運動後で起きる現象は何かなど、「解剖学」・「生理学」を復習しながらその現象と仕組みについての基本を理解する。
到達目標	運動を、感覚・神経及び生理学的な側面から説明できる。
学修者への期待等	学習には、他者への説明や実験的な要素が含まれる。積極的に参加してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	スポーツとスポーツ生理学の関係　細胞外液と恒常性	教科書の目次に目を通してくること
2	骨格筋の構造と働き　アクチン・ミオシン・サルコメア	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
3	持久性の高い骨格筋と持久性の低い骨格筋	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
4	骨格筋の伸展性	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
5	中枢神経と末梢神経	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
6	感覚の種類と伝導路１　温痛覚・固有感覚	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
7	感覚の種類と伝導路２　口腔・顔面の感覚	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
8	呼吸器系とスポーツ　呼吸器の構造	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
9	呼吸器の働き	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
10	循環器系とスポーツ	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
11	心臓と運動トレーニング	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
12	内分泌系とスポーツ	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
13	内分泌系と運動トレーニング	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
14	体液・血液とスポーツ	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）
15	血液の成分と働き、スポーツとの関係	教科書の該当箇所に目をとおしてくること（概ね30分程度）

教科書	『1から学ぶスポーツ生理学（第2版）』　中里　浩一　ナップ
参考文献	『病気がみえるvol.7　脳と神経（第2版）』医療情報科学研究所 編　メディックメディア
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-CLM-01

科目名	内科学				単位認定者	鈴木　裕一		評価の方法	授業内課題（小テスト）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	内科学は人体の臓器を対象に、手術をしない方法で診療を行う医学の一分野である。本講義では、診断学総論として内科疾患に関する診断の進め方、臨床データの解釈、治療学総論として、急性・慢性疾患の管理、循環器疾患、呼吸器疾患、アレルギー疾患・免疫疾患、血液疾患、消化器疾患、腎臓疾患、内分泌・代謝疾患、感染症、老年病学を取り上げ、リスクを含めた理解を深め、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法を実施する上で知っておくべき知識を身につける。
到達目標	専門分野を実施する上で必要な、さらに医療チームの一員として活躍するのに必要な内科学の知識を得る。
学修者への期待等	表面的でなく、内容を理解した上での知識を身につけること。

回	授業計画	準備学修
1	内科的診断の治療と実際	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（１）のため準備をすること。
2	医療機器	
3	循環器疾患	
4	呼吸器疾患（スパイロメトリーデモ）	
5	消化器疾患	
6	肝・胆・膵疾患	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（２）のため準備をすること。
7	血液・造血器疾患	
8	代謝性疾患	
9	内分泌疾患	
10	腎・泌尿器疾患	
11	アレルギー疾患	教科書の該当ページについて予習・復習を行うこと（30分）。小テスト（３）のため準備をすること。
12	感染症	
13	老年病学（1）老化と加齢	
14	老年病学（2）認知症	
15	老年病学（3）フレイルとサルコペニア	

教科書	『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　内科学』　前田真治、上月正博、飯山準一著　医学書院
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-CLM-02

科目名	臨床神経学				単位認定者	渡邊　弘人　鈴木　將太 木村　有希　中川　大介		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	リハビリテーションの対象となる脳、脊髄、末梢神経、筋の疾患(一部損傷含む)を中心にその病態とリハビリテーションの関連を知り、言語聴覚療法及び摂食嚥下療法を実施する上でのリスク管理、臨床検査、医学的治療、生活機能とその障害について学修する。脳血管障害、外傷、脳腫瘍、感染症、変性疾患、遺伝性疾患に大別して学んでいく。
到達目標	言語聴覚士にとって必要な臨床神経学の知識を習得する。授業と併せて、国家試験の過去問題を併せて確認することが望ましい。
学修者への期待等	各疾患の特徴をとらえ、そのような患者に必要なリスク管理、臨床検査、治療を理解した上で、今後の支援や対応について方針を立てられるようになる。

回	授業計画	準備学修	担当
1	神経学的診断法1 (神経学的診断と評価・神経学的検査法)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）	渡邊　弘人
2	神経症候学 1 (意識障害，脳死，植物状態，頭痛，めまい，失神)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）	渡邊　弘人
3	神経症候学2　(運動麻痺，錐体路症候，筋委縮)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）	渡邊　弘人
4	神経症候学3　(錐体外路症候，不随運動)	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）	渡邊　弘人
5	変性疾患1　(Parkinson病)	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	中川　大介
6	変性疾患2　(脊髄小脳変性症)	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	中川　大介
7	変性疾患3　(ALS)	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	中川　大介
8	変性疾患4　(重症筋無力症)	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
9	神経疾患各論1 認知症[Alzheimer病，脳血管性認知症]	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
10	神経疾患各論2 認知症[前頭側頭型認知症，Lewy小体型認知症，原発性進行性失語]	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
11	神経疾患各論3　(外傷性脳損傷)	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
12	神経疾患各論4　(神経疾患の評価法・まとめ)	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
13	神経疾患各論5（二分脊椎）	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	木村　有希
14	神経疾患各論6　(筋ジストロフィー)	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	木村　有希
15	神経疾患各論7　(ダウン症)	【事後】配布資料を復習すること（60分）	木村　有希

教科書	『病気がみえる　脳・神経　vol.7』医療情報科学研究所　著　メディックメディア
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-CLM-04

科目名	精神医学				単位認定者	菊地　史子		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	精神医学の対象は「こころ」あるいは「精神」であり、領域が広い。脳血管障害の患者の20%以上がうつ状態に陥ることが分かってきた。リハビリテーションの対象として、さらには現代の疾病構造の変化の側面からも、その理解は重要である。本講義では、精神医学の概念や精神症候学、精神障害の分類、治療等について学び、利用者の理解に必要な基本的事項及び言語聴覚療法の臨床で必要とされる精神医学の知識を身につける。
到達目標	医療専門職の一員であることを意識し、精神医学の基礎知識が理解できるようになる。また、精神医学に対する関心を深め、精神疾患を持つ方々について考え、理解する姿勢を身につけられるようになる。
学修者への期待等	1.精神医学に対して苦手意識を持たず、授業に臨んで欲しい。 2.シラバスに基づき、事前に教科書の次回授業範囲を一読しておくことを希望する。

回	授業計画	準備学修
1	精神医学の歴史　西洋の歴史、日本の歴史	教科書p1～7を読む（30分程度）
2	精神医学の概念　精神医学の定義、精神障害の成因と分類	教科書p19～25を読む（30分程度）
3	精神医学の診断1　診断の手順と方法	教科書p27～35を読む（30分程度）
4	精神医学の診断2　精神症状と状態像	教科書p35～42を読む（30分程度）
5	精神医学の診断3　身体検査と心理検査	教科書p42～53を読む（30分程度）
6	代表的な精神疾患1　器質性精神障害：主な症状と状態、治療および経過と予後	教科書p59～71を読む（30分程度）
7	代表的な精神疾患2　精神作用物質使用による精神および行動の障害	教科書p71～83を読む（30分程度）
8	代表的な精神疾患3-1)　統合失調症：主な症状と定義	教科書p86～86を読む（30分程度）
9	代表的な精神疾患3-2)　統合失調症：診断と治療、経過と予後	教科書p86～99,p187～202を読む（30分程度）
10	代表的な精神疾患4-1)　気分（感情）障害：主な症状と診断	教科書p99～108を読む（30分程度）
11	代表的な精神疾患4-2)　気分（感情）障害：病型と分類、治療および経過と予後	教科書p108～110,p187～202 を読む（30分程度）
12	代表的な精神疾患5　神経病性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害：主な症状と状態、治療および経過と予後	教科書p110～126を読む（30分程度）
13	代表的な精神疾患6　生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群：摂食障害　主な症状と状態、治療および経過と予後	教科書p127～132を読む（30分程度）
14	代表的な精神疾患7　神経系の疾患：てんかん：概念と分類、症状と診断、治療と予後	教科書p180～186,p202を読む（30分程度）
15	精神科医療における人権擁護 メンタルヘルスケア、精神科リハビリテーション	教科書p205～229, p295～314を読む（30分程度）

教科書	『改訂精神保健福祉士養成セミナー　精神医学ー精神疾患とその治療』 新版精神保健福祉士養成セミナー編集委員会（編）　へるす出版
参考文献	特になし　講義時に資料配付
備考	特になし

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-CLM-05

科目名	リハビリテーション医学			単位認定者	水尻　強志		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		
						授業時間数	30　時間		
				授業形態	講義	授業回数	15　回		

授業の概要	リハビリテーション医学の歴史と定義、全人的復権に関する理念を学修し、各論では脳損傷（脳血管障害、頭部外傷）、神経筋疾患、脊椎損傷、肩関節疾患などの各種疾患のリハビリテーションについて学ぶ。さらには痙縮、疼痛、褥瘡などの合併症の管理方法やリハビリテーション栄養、神経学的評価、リハビリテーション科で行う生理的検査（神経伝送検査、筋電図など）について学び、リハビリテーション専門職として、また言語聴覚士として必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身につける。
到達目標	1.第一線医療機関で必要なリハビリテーション医学の基礎的素養を身に付ける 2.嚥下障害の診断と治療を理解する
学修者への期待等	リハビリテーション科専門医が、日常診療で重要だと考えている内容について講義をする。せっかくの機会であり、遠慮せずに質問をして欲しい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	リハ医学総論1 （高齢社会と高齢者医療）	テキスト第1章　Ⅰ　高齢社会と高齢者医療、第5章　関係する諸制度 参照。（30分程度）	水尻　強志
2	リハ医学総論1 （リハビリテーション医学の歴史と定義）	テキスト第1章　Ⅰ　高齢社会と高齢者医療、第5章　関係する諸制度 参照。（30分程度）	水尻　強志
3	リハ医学総論1 （ＡＤＬと手段的ＡＤＬ、廃用症候群と運動学習）	テキスト第1章　Ⅰ　高齢社会と高齢者医療、第5章　関係する諸制度 参照。（30分程度）	水尻　強志
4	リハ医学総論2 （超高齢社会における医療倫理の諸課題－終末期医療、リスクマネジメントと身体抑制）	テキスト第4章 脳卒中医療に関係する倫理的問題、第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）	水尻　強志
5	各種疾患のリハビリテーション1 （中枢神経障害の評価(脳血管障害など)）	テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。（30分程度）	水尻　強志
6	嚥下障害について（嚥下障害）	テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）	金成　建太郎
7	嚥下障害について（胃瘻と流動食）	テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）	金成　建太郎
8	嚥下障害について （誤嚥性肺炎とリハビリテーション栄養）	テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）	金成　建太郎
9	各種疾患のリハビリテーション2 神経筋疾患(パーキンソン病、脊髄小脳変性症、筋萎縮性側索硬化症など)、末梢神経障害	配布資料で復習をすること。（30分程度）	水尻　強志
10	各種疾患のリハビリテーション3 小児疾患、脊髄障害、骨関節疾患、切断、義肢・装具、支給制度	配布資料で復習をすること。（30分程度）	水尻　強志
11	合併症管理（痙縮　疼痛）	テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）	阿部　理奈
12	合併症管理（褥瘡とリハビリテーション栄養）	テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）	阿部　理奈
13	リハ医学総論3 （ICFによる全人的評価）	テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。（30分程度）	藤原　大
14	リハ医学総論3 リハビリテーションで行う検査（頭部画像、血液、神経生理学検査など）	テキスト第2章 脳卒中リハビリテーションの進め方 参照。（30分程度）	藤原　大
15	リハ医学総論3 リハビリテーションにおける栄養管理	テキスト第3章 脳卒中によくある合併症とその対策 参照。（30分程度）	藤原　大

教科書	『脳卒中リハビリテーション(第3版)』　水尻強志・冨山陽介（編）　医歯薬出版
参考文献	
備考	講義は対面授業で行う予定。ただし、状況によってはオンライン授業に変更することもあり。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-CLM-06

科目名	耳鼻咽喉科学				単位認定者	松谷　幸子		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内 課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	耳鼻咽喉科学領域の耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・気管・食道の解剖と生理について理解を深める。耳・鼻・口腔・咽頭・喉頭・気管・食道などの疾病について、その病態や検査・治療法を学ぶ。音、音声の受容器である聴覚前庭系、共鳴腔としての鼻・副鼻腔、口腔、音響エネルギーの導出源として喉頭・気管など発声・発話・構音及び摂食・嚥下など言語聴覚士として必要な耳鼻咽喉科学の基礎を身につける。
到達目標	耳鼻咽喉科学領域の仕組み・生理及び病理について理解を深める。
学修者への期待等	言語聴覚士が取り扱う聴覚障害、嚥下障害　音声障害などの原因の多くは耳鼻咽喉科領域である。障害像を理解するため、障害と原因をしっかりと結び付けられるよう学習すること。

回	授業計画	準備学修
1	耳科学（1）　聴覚系の解剖と生理　外耳と中耳	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
2	耳科学（2）　聴覚系の病態　外耳と中耳の疾患	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
3	耳科学（3）　聴覚系の解剖と生理　内耳・後迷路	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
4	耳科学（4）　聴覚系の病態　内耳・後迷路の疾患	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
5	耳科学（5）　前庭系の解剖と生理　前庭機能、眩暈	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
6	耳科学（6）　前庭系の病態　内耳・後迷路の疾患	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
7	鼻科学（1）　鼻系の解剖と生理	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
8	鼻科学（2）　鼻系の病態　鼻・副鼻腔の疾患	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
9	口腔・咽頭科学（1）　口腔・咽頭系の解剖・生理	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
10	口腔・咽頭科学（2）　口腔・咽頭系の病態	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
11	喉頭科学（1）　喉頭の解剖と生理	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
12	喉頭科学（2）　呼吸発声系の病態　喉頭の疾患	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
13	気管・食道科学（1）　気管・食道の解剖と生理	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
14	気管・食道科学（2）　気管・食道の疾患	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分
15	嗅覚・味覚障害、摂食・構音障害、嚥下障害のまとめ	関連授業の復習と指定教科書の関連ページを読むこと、関連領域の国家試験過去問に目を通すこと。概ね120分

教科書	『言語聴覚士のための基礎知識　耳鼻咽喉科学』　鳥山稔(著)　医学書院 適宜関連資料を配布する。
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-CLM-07

科目名	形成外科学				単位認定者	今井　啓道		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	形成外科は、先天的あるいは後天的な体表の変形を手術的に正常な状態に復して、形態と機能、並びに精神的にもQOLを高め、社会復帰に益することを目標としている。本講義では、唇裂口蓋裂、頭頸部がん、開口障害をきたし得る外傷や熱傷、骨折、疾患による顎顔面変形など、治療対象疾患についての診断、治療原理や術式について学んでいく。さらには、言語聴覚士による手術前後のリハビリテーションについて、構音障害と摂食嚥下障害の評価と訓練を学修する。
到達目標	頭頚部がんの治療における適切な再建手術について説明できる、口唇裂・口蓋裂について起こりえる障害を説明でき、成長期までに必要な手術について順次説明することが出来る。口蓋裂を呈する先天性疾患を挙げることが出来る。開口障害を呈する頭部顔面外傷を挙げることができる。
学修者への期待等	教科書の記載のみでは理解しづらい形成外科の疾患に関して多くの臨床写真を呈示して理解を深めてもらいたいです。資料では写真は十分に示せません。授業中に集中して勉強しましょう。

回	授業計画	準備学修	担当
1	形成外科総論 形成外科とは、創傷治癒と再建外科の基礎知識	特にありません	後藤　孝浩
2	頭頸部再建① 頭頸部がんの治療と再建の基本	前回講義の資料を復習してください（30分程度）	後藤　孝浩
3	頭頸部再建② 口腔・中咽頭の再建	前回講義の資料を復習してください（30分程度）	後藤　孝浩
4	頭頸部再建③ 下咽頭・喉頭の再建	前回講義の資料を復習してください（30分程度）	後藤　孝浩
5	頭頸部再建④ 上顎その他の再建、術後の合併症やリハビリについて	前回講義の資料を復習してください（30分程度）	後藤　孝浩
6	唇裂口蓋裂総論① 唇顎口蓋裂総論と疫学、発生学について	事前に配布される資料に目を通しておいてください。（20分程度）	今井　啓道
7	唇裂口蓋裂総論② 学童期までに行われる治療について（唇裂手術,口蓋裂手術,顎裂部骨移植）	前回講義の小テストを復習し、事前に配布される資料に目を通しておくこと。（30分程度）	今井　啓道
8	唇裂口蓋裂総論③ 学童期以降に行われる治療について（鼻咽腔閉鎖不全、唇裂鼻修正手術、顎矯正手術）	前回講義の小テストを復習し、事前に配布される資料に目を通しておくこと。（30分程度）	今井　啓道
9	唇裂口蓋裂総論④ 宮城県こども病院での口唇口蓋裂治療	特にありません	真田　武彦
10	唇裂口蓋裂総論⑤ 社会的問題、合併症の問題、親の心理的問題などについて	事前に配布される資料に目を通しておいてください。（30分程度）	真田　武彦
11	口蓋裂を有する頭蓋顎顔面異常について 頭蓋顎顔面異常をきたす先天異常とその治療について	唇裂口蓋裂総論③の小テストを復習し、事前に配布される資料に目を通しておくこと。（30分程度）	真田　武彦
12	頭蓋顎顔面外科・後天的顎顔面変形 頭蓋顎顔面外科についてと、開口障害をきたしうる外傷や熱傷について	前回講義の小テストを復習し、事前に配布される資料に目を通しておくこと。（30分程度）	今井　啓道
13	口腔・顎・顔面の先天異常，発育異常 ・口蓋裂に伴う顎発達異常と歯の異常について	事前に配布される資料に目を通しておいてください。（30分程度）	中山　孝子
14	咬合異常、顎変形症について	事前に配布される資料に目を通しておいてください。（30分程度）	中山　孝子
15	人工材料による機能回復について	事前に配布される資料に目を通しておいてください。（30分程度）	中山　孝子

教科書	指定しない
参考文献	『標準形成外科学 第6版』　平林慎一、鈴木茂彦（著）医学書院 『嚥下障害の臨床－リハビリテーションの考え方と実際』　小椋脩（著）医歯薬出版 『口唇裂・口蓋裂治療の手引』　昭和大学（著）金原出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-02

科目名	生涯発達心理学				単位認定者	木村　有希 中川　大介		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	生涯発達心理学は、生涯を通じて成長・発達し続ける人間の誕生から死までの変化の特徴や、その過程の理解を目指す。本講義では、各発達段階(乳児期・幼児期・思春期・青年期・成人初期・中年期・老年期)における心理特性について知る。生涯発達という視点を重視し、多様な年齢層にある対象者を理解する一助とする。
到達目標	人間は、一生を通じて成長発達し続ける。誕生から死までの人生を変化の特徴や、その過程を理解する。
学修者への期待等	それぞれの過程の発達と課題を説明することができるようになってほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	生涯発達心理学とは	【事前】生涯発達心理学について簡単に調べておく。(1時間)	木村　有希
2	乳児期　① （胎児・新生児・乳児の能力、乳児の自己感の発達）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	木村　有希
3	乳児期　② （アタッチメントと母子関係の発達、基本的信頼感、乳児期の発達的つまずきとケア）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	木村　有希
4	幼児期　①（身体能力・身体機能の発達　母親からの分離－個体化）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	木村　有希
5	幼児期　②（対人関係の発達、幼児の遊びの意味、幼児期の発達的課題）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	木村　有希
6	児童期（読み書きの能力と計算、社会性、学校、発達的つまずき）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	木村　有希
7	思春期　①（心と身体の変化、親子関係、友人関係）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	木村　有希
8	思春期　②（自己のめざめ、心理的失調、悩みへの援助）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	木村　有希
9	青年期　①（アイデンティティの模索と確立、時間的展望）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	中川　大介
10	青年期　②（社会に出るための模索、発達的つまずきとケア）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	中川　大介
11	成人初期（仕事、結婚、親になる、親になれない親）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	中川　大介
12	中年期（クライシス、親子関係の変化、女性のライフサイクル）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	中川　大介
13	老年期　①（心と身体の変化、生きがいと幸福感、死をどう受け止めるか）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	中川　大介
14	老年期　②（家族・社会関係、認知症、施設入所高齢者の心理とケア、ライフレビュー）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	中川　大介
15	まとめ（発達可塑性、パーソナリティーの変化、ライフサイクルと家族）	【事後】配布資料を復習しておくように（1時間）	中川　大介

教科書	『言語聴覚士のための心理学(第2版)』　山田弘幸(編)　医歯薬出版株式会社
参考文献	指定なし
備考	国家試験過去問題を常から予習・復習しておくことをお勧めします。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-04

科目名	心理測定法				単位認定者	渡邊 弘人　鈴木 將太 田島　裕之		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30 時間			
						授業回数	15 回			

授業の概要	心理測定法とは、心理現象を把握するために用いる研究手法である。本講義では、心理測定の基礎について、測定対象、測定方法、恒常誤差、尺度水準、尺度構成法、テスト理論、調査法、データ解析法について学修し、心理測定法に関する知識を身につける。講義後半には言語聴覚領域との関連の深い事例について、測定の実践を通して理解を深める。
到達目標	心理学において用いられる主な測定法とデータ解析法の特徴を知る
学修者への期待等	質疑応答の機会を設けますので、わからないことがありましたら遠慮なく質問してください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	心理測定の基礎 心理測定を理解するための基礎的概念についての解説	【事後】答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと（概ね60分）	田島　裕之
2	尺度構成法 尺度を構成する方法についての解説	【事後】答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと（概ね60分）	田島　裕之
3	様々な心理測定法　精神物理学的測定法を中心とする主な心理測定法についての解説	【事後】答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと（概ね60分）	田島　裕之
4	測定値の分布の要約　測定値の分布を要約する方法についての解説	【事後】答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと（概ね60分）	田島　裕之
5	変数間の関係とその要約　変数間の関係を要約する方法についての解説	【事後】答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと（概ね60分）	田島　裕之
6	検査の妥当性と信頼性　検査の妥当性と信頼性、およびその評価方法についての解説	【事後】答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと（概ね60分）	田島　裕之
7	多変量解析と統計的検定　3変数以上の関係を総合的に分析する方法、およびデータで仮説を検定する方法ついての解説	【事後】答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと（概ね60分）	田島　裕之
8	系統誤差と研究法　系統誤差の主な要因と系統誤差を取り除く工夫についての解説	【事後】答えられなかった練習問題に答えられるようにしておくこと（概ね60分）	田島　裕之
9	聴覚領域検査における研究（1）　データの種類の紹介	言語聴覚療法に関わる論文を読むこと　（概ね60分）	渡邊　弘人
10	聴覚領域検査における研究（2）　研究論文の解読	言語聴覚療法に関わる論文を読むこと　（概ね60分）	渡邊　弘人
11	聴覚領域検査における研究（3） 研究論文データをアクティブラーニング的に解読	言語聴覚療法に関わる論文を読むこと　（概ね60分）	渡邊　弘人
12	聴覚領域検査における研究（4） 研究におけるデータ　まとめ	言語聴覚療法に関わる論文を読むこと　（概ね60分）	渡邊　弘人
13	言語聴覚療法研究法・高次脳機能障害系（1）研究、プロセス、研究の種類	言語聴覚療法に関連する資料の復習（概ね60分）	鈴木　將太
14	言語聴覚療法研究法・高次脳機能障害系（2）データと測定、研究の種類について	言語聴覚療法に関連する資料の復習（約60分）	鈴木　將太
15	言語聴覚療法研究法・高次脳機能障害系（3）職業倫理と倫理綱領、まとめ	言語聴覚療法に関連する資料の復習（約60分）	鈴木　將太

教科書	指定なし
参考文献	参考書：『心理測定法への招待：測定からみた心理学入門』市川伸一編著　サイエンス社
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-05

科目名	福祉心理学				単位認定者	木村　有希 中川　大介		評価の方法	試験 (レポート)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	福祉心理学は応用心理学であり、主な対象と考えられる社会的養護を受ける児童、障害児・者、高齢者と、その保護者・介護者等に対する理解と適切な支援を行うために心理学の面から考える学問である。他の専門職者と連携し、個人とその環境へ働きかけをすることが、福祉心理学の立場からの援助方法として考えられる。コミュニケーションが相互間で成り立つ以上、「心理的支援」と「環境の活用・整備」の在り方から言語聴覚士が学べることは多い。本講義では、社会的に弱い立場におかれがちな対象者の心理傾向を学び、その援助について考える。
到達目標	①児童、障害児・者、高齢者と、その保護者・介護者等の課題を理解し説明できる。 ②支援に際しての多職種連携について理解する。
学修者への期待等	各障害別に課題、現状を理解し、必要な心理支援を検討できるようになることを期待する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	心理学においての福祉心理学とは(支援について考えていく)	【事前】福祉心理学について調べておくこと(約30分)	木村　有希
2	社会福祉の歴史と動向(支援を理解するために歴史とこれまでの動きについて考える)	【事前】社会福祉の歴史・動向について調べておくこと(約1時間)	木村　有希
3	社会福祉の理念　(ノーマライゼーション、QOLなど福祉に関わる理念を理解していく)	【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)	木村　有希
4	社会福祉分野における法制度(支援に必要な法律について学び、理解する)	【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)	木村　有希
5	社会福祉に関する職種(支援に関わる職種について知る)	【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)	木村　有希
6	福祉現場における支援の基本概念：ソーシャル・インクルージョン，多職種連携・協働 等(職種について理解した上で現場での連携について考える)	【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)	木村　有希
7	福祉における心理アセスメント(面接や観察、各心理テストを通して対象者を様々な視点から捉えることを学ぶ)	【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)	木村　有希
8	福祉における心理学的支援(心の健康を促進し、悩みを解消する支援について学ぶ)	【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)	木村　有希
9	児童福祉分野の活動(児童福祉施設、児童相談所等子どもに関わる福祉分野について学ぶ)	【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)	木村　有希
10	家庭福祉分野の活動(貧困・ひとり親・DVなど家庭に関する福祉分野について学ぶ)	【事後】授業の内容を復習し、必要箇所は要点をまとめること(約1時間)	木村　有希
11	高齢者福祉における制度と背景	【事後】配布資料を復習すること（1時間）	中川　大介
12	高齢者の家族の理解と支援、多職種連携による支援	【事後】配布資料を復習すること（1時間）	中川　大介
13	認知症者の理解と背景	【事後】配布資料を復習すること（1時間）	中川　大介
14	認知症者の理解②評価バッテリーを通して グループワーク	【事後】配布資料を復習すること（1時間）	中川　大介
15	認知症の理解と心理支援、多職種連携による支援	【事後】配布資料を復習すること（1時間）	中川　大介

教科書	特定の教科書は使用しない。適宜資料を配布する。
参考文献	『福祉心理学総説』佐藤泰正・中山哲志・桐山宏行(編著)　田研出版 『ライフサイクルからよむ障害者の心理と支援』田中農夫男・木村進　福村出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-ACS-02

科目名	聴覚心理学				単位認定者	渡邊　弘人 鈴木 將太　矢入 聡		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	音を認識するための聴覚系の処理について、実例を通して理解を深める。音の性質には、物理的側面と心理的側面　がある。音の大きさ、高さ、音色は音の3要素と呼ばれ、音を聞くことは、その3要素について心で感じること、思うことであり、心理尺度となる。これに対して音の強さ、音圧、周波数、スペクトルなどは音の物理的な性質を表すため物理量となる。本講義では、特に聴覚的に感じる大きさ・強さ・高さ（フォン/son・mel）と、物理的な大きさ・強さ・高さ（dBSPL・Hz）との違いについて理解を深める。他の聴覚系授業とのつながりも強いことから、それぞれの関連性を重視し、理解を深めていく。
到達目標	実例を通して、人間が感じる音の特性にどのようなものがあり、物理的な特性とどう関係するかを理解する。
学修者への期待等	1年次の科目を含む他の聴覚系授業とのつながりが強い科目です。適宜実例を示しながら授業を進めていきますので、他で学んだ内容の理解を深めたり、ここで学んだ内容を他の科目に応用したりできるよう、興味を持って取り組んでください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	知覚表象形成と音の強さ 聴覚における知覚表象形成、音の強さの表現	【事後】授業の内容を踏まえdBの計算ができるようにすること（60分程度）	矢入　聡
2	音の大きさの知覚　音の大きさの表現、音の大きさに影響する要因	【事後】音の大きさの表現を整理しておくこと（60分程度）	矢入　聡
3	音の高さの知覚①　音の周波数と高さの対応、音の高さ知覚の理論、音の高さを表現する尺度	【事後】場所説と時間説についてそれぞれ整理しておくこと（60分程度）	矢入　聡
4	音の高さの知覚② 音の高さに影響する要因、音楽的高さ、音律	【事後】音律について授業で紹介した以外のものを調べてみること（60分程度）	矢入　聡
5	マスキングと聴覚フィルタ マスキングの種類と特徴、臨界帯域と聴覚フィルタ	【事後】マスキングの種類について整理しておくこと（60分程度）	矢入　聡
6	音色と楽器音　音色の定義、協和度、楽器音の特徴	【事前】身近な楽器を1つあげ、どのようにして音が出るか考えてみること（60分程度）	矢入　聡
7	音の定位　音源方向の知覚、 音の広がり感、両耳聴の効果	【事前】日常の音やその到来方向を意識して1日を過ごしてみること（60分程度）	矢入　聡
8	聴覚心理のメカニズム 音の選択的聴取、視聴覚相互作用	【事後】取り上げた種々の視聴覚相互作用について整理しておくこと（60分程度）	矢入　聡
9	聴覚心理領域と言語聴覚療法の関係（1）聴覚解剖と生理	1年次の聴覚関連講義の復習（概ね120分）	渡邊　弘人
10	聴覚心理領域と言語聴覚療法の関係（2）聴覚検査	1年次の聴覚関連講義の復習（概ね120分）	渡邊　弘人
11	聴覚心理領域と言語聴覚療法の関係（3）補聴器人工内耳	1年次の聴覚関連講義の復習（概ね120分）	渡邊　弘人
12	聴覚心理領域と言語聴覚療法の関係（4）まとめ	1年次の聴覚関連講義の復習（概ね120分）	渡邊　弘人
13	聴覚心理学と音響学との関係（1）波について	1年次の音響学関連資料の復習（60分程度）	鈴木　將太
14	聴覚心理学と音響学との関係（2）音波について	1年次の音響学関連資料の復習（60分程度）	鈴木　將太
15	聴覚心理学と音響学との関係（3）まとめ	1年次の音響学関連資料の復習（60分程度）	鈴木　將太

教科書	指定なし
参考文献	『音響学入門（音響入門シリーズ）』鈴木陽一ほか　コロナ社
備考	第１回～第８回講義は遠隔（オンデマンド）で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
				●	●

科目ナンバリング
ST-1-SWE-01

科目名	社会保障制度・関係法規				単位認定者	熊沢　由美		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内課題等	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	個人の責任や努力だけでは対応できないリスクに対して、相互に連帯して支え合い、それでもなお困窮する場合には必要な生活保障を行うのが社会保障制度の役割であり、医療・福祉・教育の現場で従事する言語聴覚士は、その基本を理解しておく必要がある。本講義では、社会保障制度の具体的な側面である「社会保険」、「社会福祉」、「公的扶助」、「保健医療・公衆衛生」について法的な根拠も含めて学修する。さらに、現場で協働する医療関係職の身分法、医療・保険制度、障害者支援・福祉制度並びに介護保険法など関連する法規を理解する。
到達目標	国家試験対策として、社会保障の基礎的な知識を身につけること。 自分と社会保障との関わりについて理解を深めること。
学修者への期待等	授業内容をよく復習してください。社会保障についての報道に関心を持つようにしてください。

回	授業計画	準備学修
1	社会保障とは何か	社会保障のイメージを確認しておくこと。（30分程度）
2	社会保障の方法と財源構成	国の予算についてのニュースを確認しておくこと。（30分程度）
3	社会保障の歴史（１）欧米①	近代以降の世界史を大まかに確認しておくこと。（30分程度）
4	社会保障の歴史（２）欧米②	近代以降の世界史を大まかに確認しておくこと。（30分程度）
5	社会保障の歴史（２）日本	近代以降の日本史を大まかに確認しておくこと。（30分程度）
6	社会保険（１）年金保険①年金保険の制度体系、被保険者、国民年金保険料	自分の年金がどのようになっているのか確認しておくこと。（30分程度）
7	社会保険（２）年金保険②厚生年金保険料、給付	年金についてのイメージを確認しておくこと。（30分程度）
8	社会保険（３）医療保険	自分の保険証がどのようになっているのか確認しておくこと。（30分程度）
9	社会保険（４）介護保険	介護保険についてのイメージを確認しておくこと。（30分程度）
10	社会保険（５）雇用保険	雇用保険についてのイメージを確認しておくこと。（30分程度）
11	社会保険（６）労働者災害補償保険	労災についてのイメージを確認しておくこと。（30分程度）
12	公的扶助	生活保護についてのイメージを確認しておくこと。（30分程度）
13	社会福祉（１）福祉六法、障害者福祉など	社会福祉、ノーマライゼーションについてのイメージを確認しておくこと。（30分程度）
14	社会福祉（２）児童福祉、高齢者福祉など	社会福祉についてのイメージを確認しておくこと。（30分程度）
15	社会手当と公衆衛生	社会手当と公衆衛生についてのイメージを確認しておくこと。（30分程度）

教科書	使用しません。講義資料を配付します。
参考文献	『社会保障[第７版]（社会福祉士シリーズ12）』阿部裕二・熊沢由美編 弘文堂
備考	講義は全て遠隔(オンデマンド)で実施する。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-SWE-02

科目名	リハビリテーション論				単位認定者	渡邊　弘人 木村　有希		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	リハビリテーションの歴史的背景、理念と対象について理解を深める。リハビリテーションの理念は、心身の障害により社会の不利益を被った人間の全人的復権であり、障害者の能力を最大限に発揮させ、その自立を支援する全過程にかかわる。本講義では、自立支援や就労支援を含むリハビリテーションの基本理念並びに生活機能とその障害について学ぶ。また、リハビリテーション医療の特性と、多職種連携を理解した上で、地域包括ケアシステムについても学修する。
到達目標	リハビリテーションの歴史、意味を理解でき、携わる障害について知識を深めることができる。
学修者への期待等	リハビリテーションの概念についてしっかりと理解し、言語聴覚士として求められるものは何があるのか考えて受講してください。

回	授業計画	準備学修	担当
1	リハビリテーション概論　理念についてAB17:H30	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
2	医療・保健・社会リハビリテーションの関わり方 多職種連携を中心に	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
3	リハビリテーションの実施課程①　　情報収集　評価 グループディスカッションを適宜行う	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
4	リハビリテーションの実施課程②　　訓練プログラム立案 訓練実施　　グループディスカッションを適宜行う	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
5	ＡＤＬとは　日常生活活動とその評価 グループディスカッションを適宜行う	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
6	ＡＤＬの評価方法　FIM グループディスカッションを適宜行う	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
7	疾病モデル・障害モデル①　ICD-10　ICIDH グループディスカッションを適宜行う	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
8	疾病モデル・障害モデル②　ICF グループディスカッションを適宜行う	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
9	障害モデル①　問題点抽出　目標設定	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
10	疾患別リハビリテーション①　事例検討（失語症） グループディスカッションを中心に展開する	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
11	疾患別リハビリテーション②　事例検討（嚥下障害）　グループディスカッションを中心に展開する	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
12	地域リハビリテーションと地域包括システム	【事前・事後】関連するテキスト、文献に目を通すこと。（概ね60分）	渡邊　弘人
13	小児に対するリハビリテーションについて ①リハビリテーションの種類、注意点	【事前】成人・小児のリハビリとの違いについて調べておくこと。（約60分）	木村 有希
14	小児に対するリハビリテーションについて ②重症心身障害児(脳性麻痺、二分脊椎)	【事前】重症心身障害児のリハビリについて調べておくこと(約60分)	木村 有希
15	小児に対するリハビリテーションについて ③知的障害、発達障害(自閉症、注意欠如・多動性障害、学習障害)	【事前】知的障害・発達障害に関する小児リハビリについて調べておくこと(約60分)	木村 有希

教科書	特になし
参考文献	講義内で紹介する。
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LSG-02

科目名	言語聴覚障害診断学				単位認定者	渡邊　弘人　木村　有希 中川　大介　中村　裕子		評価の方法	試験 (レポート)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	言語聴覚士が対象者と相対したときの基本的観察点を身につけ、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。本講義の前半では、初回面接において収集すべき情報と観察の視点、面接の方法、初診時評価の対象、障害範囲の絞り込みと全体像の把握、言語機能の観察としてはインプットとアウトプットの掴み方、及び観察所見の書き方を学修し、後半では聴覚系、高次脳機能系、言語発達系、運動系の各系ごとの言語病理学的な診断について学んでいく。
到達目標	言語聴覚士が患者様と相対したときの基本的観察点を身に付け、所見報告ができること、また障害の鑑別と適切な検査の選定が可能となることを目標とする。
学修者への期待等	基礎知識を基に、障害に応じて評価を行い、適切に検査を選定、実施できるようになることを期待する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	ガイダンス：学ぶ視点について、診断とは？鑑別とは？	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
2	診断の基礎：情報の取集と解釈、面接の方法、初心塩評価、他	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
3	スクリーニングテストと総合検査、全体像の把握、他	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
4	除外診断と鑑別診断、画像診断の意義と用い方、他	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
5	具体的診断の技術（1）：高次脳機能障害の鑑別のポイント	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
6	具体的診断の技術（2）：失語症の鑑別のポイント	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
7	具体的診断の技術（3）：失語症以外の言語障害と認知症の鑑別のポイント	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
8	具体的診断の技術（4）：事例による演習と総括	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
9	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価　① 医学的評価（呼吸・循環・理学所見など）	【事前】摂食嚥下障害での講義資料を予習しておくこと（1時間）	中川　大介
10	成人領域の摂食嚥下機能障害の評価/診断　② VF読影　（グループワーク）	【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）	中川　大介
11	成人領域の摂食嚥下障害の評価/診断　③ VE読影　（グループワーク）	【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）	中川　大介
12	言語発達障害児に関する評価	【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）	木村　有希
13	言語発達障害児に関する評価・分析	【事後】講義の復習をしておくこと（1時間）	木村　有希
14	聴覚系の評価　①（グループワーク）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）	渡邊　弘人
15	聴覚系の評価　②（グループワーク）	【事後】講義内容を復習すること（1時間）	渡邊　弘人

教科書	『標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害概論』　藤田郁代　医学書院
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-AHB-04

科目名	失語症・高次脳機能障害Ⅱ				単位認定者	鈴木　將太		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	「失語症・高次脳機能障害Ⅰ」で学んだ内容を踏まえて、複合的障害についての介入方法について学修する。併せて、発話症状の書き取り方、所見報告書の書き方についての演習を行う。検査プロフィールから症例の言語症状を分析して聴く、話す、読む、書く、計算する機能の介入方法や訓練立案を学ぶ。また、検査プロフィールだけではとらえきれない重症度によった訓練方法や、失語症者の心理面、社会復帰についても学ぶ。症例報告書の書き方、観察のポイントなども学修する。1年次に引き続いて高次脳機能障害の各検査演習を行う。
到達目標	根拠に基づいた訓練法を立案することができ、且つ謙虚な態度で失語症・高次脳機能障害者と向き合うことのできる高い人間性を備えた言語聴覚士像を目指す。
学修者への期待等	教科書や国家試験問題などで予習、復習を行い授業内容を十分に理解する。自主的に検査演習に取り組み検査の意義や目的、検査結果から症例を分析してまとめることができることを望む。

回	授業計画	準備学修
1	高次脳機能障害のリハビリテーション	高次脳機能障害学（第3版）第1章を読む（約30分）
2	面接、観察、検査における情報収集	前回の復習（約30分）
3	問題点の抽出と目標設定	前回の復習（約30分）
4	訓練の実施と再評価	前回の復習（約30分）
5	スクリーニング検査	前回の復習（約30分）
6	MMSE、HDS-R、FAB等の検査について	前回の復習（約30分）
7	高次脳機能障害の検査の概要、種類	前回の復習（約30分）
8	知能検査　WAIS-Ⅳ　目的、概要、積木模様～行列推理	前回の復習（約30分）
9	知能検査　WAIS-Ⅳ　単語～知識	前回の復習（約30分）
10	知能検査　WAIS-Ⅳ　バランス～絵の完成	前回の復習（約30分）
11	注意・意欲検査　CAT/CAS　意欲について	前回の復習（約30分）
12	注意・意欲検査　CAT/CAS　Span～SDMT	前回の復習（約30分）
13	注意・意欲検査　CAT/CAS　記憶更新検査～CPT	前回の復習（約30分）
14	注意検査　TMT-A・B、仮名ひろい検査	前回の復習（約30分）
15	記憶検査　WMS-R　情報と見当識～視覚性記憶範囲	前回の復習（約30分）

回	授業計画	準備学修
16	記憶検査　WMS-R　論理的記憶Ⅰ～視覚性再生Ⅱ	前回の復習（約30分）
17	記憶検査　三宅式記銘力検査、レイの複雑図形検査など	前回の復習（約30分）
18	記憶検査　AVLT、ベントン視覚記銘検査	前回の復習（約30分）
19	記憶検査　リバーミード行動記憶検査　姓名～物語	前回の復習（約30分）
20	記憶検査　リバーミード行動記憶検査　絵～持ち物	前回の復習（約30分）
21	視空間認知検査　VPTA	前回の復習（約30分）
22	視空間認知検査　BIT行動性無視検査	前回の復習（約30分）
23	遂行機能検査　BADS　規則変換カード～鍵探し検査	前回の復習（約30分）
24	遂行機能検査　BADS　時間判断検査～DEX	前回の復習（約30分）
25	言語機能検査　掘り下げ検査　SALA、TLPA	前回の復習（約30分）
26	高次脳機能障害、失語症者とのコミュニケーション	前回の復習（約30分）
27	高次脳機能障害訓練①（記憶障害、注意障害、社会的行動障害）	前回の復習（約30分）
28	高次脳機能障害訓練②（遂行機能障害、視空間認知障害、失行）	前回の復習（約30分）
29	言語機能訓練①（重度失語症～軽度失語症）	前回の復習（約30分）
30	言語機能訓練②（認知神経心理学モデル）	前回の復習（約30分）
教科書	『標準言語聴覚障害　失語症学（第3版）』　藤田 郁代 、阿部 晶子編　医学書院 『標準言語聴覚障害　高次脳機能障害学（第3版）』　藤田 郁代 、阿部 晶子編　　医学書院 『なるほど！失語症の評価と治療』金原出版	
参考文献	『失語症の障害メカニズムと訓練法』　小嶋知幸他著　新興医学出版社	
備考		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-LDS-02

科目名	言語発達障害Ⅱ				単位認定者	木村　有希		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2　単位		授業内課題等	30　%
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	「言語発達障害Ⅰ」を基に、小児を対象とした言語療法について演習を通して学ぶ。本講義では対象児に対し、個別自立課題等の適切な教材を考え作成できることを目標に、講義・演習を行っていく。療育に必要な訓練知識・技術の修得を目指す。
到達目標	小児領域で必要な諸検査の実施・評価・そこから支援への分析ができるようになる。
学修者への期待等	積極的に演習に参加し、検査法や訓練法をしっかりと身につけていってください。

回	授業計画	準備学修
1	検査法１　質問応答関係検査(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
2	検査法２　質問応答関係検査(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
3	検査法３　PVT-R（実技と採点練習）	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
4	検査法４　PVT-R（実技と採点練習）	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
5	検査法５　グッドイナフ人物画知能検査	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
6	検査法６　KABC２(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
7	検査法７　KABC２(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
8	検査法８　KABC２(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
9	検査法９　KABC２(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
10	検査法１０　KABC２(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
11	検査法１１　WISC－Ⅳ(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
12	検査法１２　WISC－Ⅳ(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
13	検査法１３　WISC－Ⅳ(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
14	検査法１４　WISC－Ⅳ(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)
15	検査法１５　WISC－Ⅳ(実技と採点練習)	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。(約40分)

回	授業計画	準備学修
16	検査法１６　発達検査　（遠城寺式）	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。（約40分）
17	検査法１７　その他の検査	【事後】検査方法について授業内で行ったことを復習する。（約40分）
18	言語発達障害児への訓練①　S-S法に基づく訓練の進め方	【事前】言語発達障害についてこれまでの資料をもとに復習しておく。（約1時間）
19	言語発達障害児への訓練② 段階４　語連鎖（2語連鎖：立て図を用いた訓練・教材作成）	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
20	言語発達障害児への訓練③ 段階４　語連鎖（3語連鎖：立て図を用いた訓練・教材作成）	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
21	言語発達障害児への訓練④ 段階４　語連鎖（2語連鎖：絵カードを用いた訓練・教材作成）	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
22	言語発達障害児への訓練⑤ 段階４　語連鎖（3語連鎖：絵カードを用いた訓練・教材作成）	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
23	言語発達障害児への訓練⑤ 段階４　語連鎖（2、3語連鎖：色名事物の訓練・教材作成）	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
24	言語発達障害児への訓練⑦ 段階５　統語（語順方略：訓練・教材作成）	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
25	言語発達障害児への訓練⑧ 段階５　統語（助詞方略：訓練・教材作成）	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
26	言語発達障害児への訓練⑨ 段階５　統語（語順の方略（文字））	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
27	言語発達障害児への訓練⑩ 段階５　統語（助詞の方略（文字））	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
28	言語発達障害児への訓練⑪　教材作成と訓練	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
29	言語発達障害児への訓練⑫　ことばの教材（教材作成）	【事後】訓練の手順を復習する。（約30分）
30	言語発達障害児への訓練⑬　ＡＢＡについて	【事後】講義の内容を復習する。（約30分）
教科書	配布資料を中心に授業を行っていく。	
参考文献	特になし	
備考		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士。小児に関連する施設における臨床の実務経験を有する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-LDS-05

科目名	拡大・代替コミュニケーション				単位認定者	中川　大介 寺本　淳志		評価の方法	試験(筆記)	50　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	30　%
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
						授業回数	15　回			

授業の概要	拡大・代替コミュニケーション（AAC）とは、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことなどのコミュニケーションに障害のある人が、言語・非言語問わない残存能力とテクノロジーの活用によって、自分の意思を相手に伝える技法のことを指し、大きく分けてノンテク、ローテク、ハイテクの3つがある。本講義では、拡大・代替コミュニケーションの概要を学び、言語聴覚士として適応の判断と提案、活用の支援に至るまでの能力を身につける。
到達目標	AACの基本的な考え方を理解し、その適用方法について実践事例を通して理解を深める。 パソコン教材等の作成やローテク、ハイテクなツールの実演を通して、具体的な支援の在り方について知る。
学修者への期待等	事前に各回のトピックに関する参考文献などを読んで学習しておくこと。 授業後は配付資料やノートにより講義で得た知識の確認をすること。また、授業で示された補足資料等に目を通し学びを深めること。

回	授業計画	準備学修	担当
1	コミュニケーションの困難とAACの役割について	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
2	AACの定義と変遷	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
3	AACの対象及びAACシステムの概要	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
4	AACシステムの構成要素１：形式	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
5	AACシステムの構成要素２：シンボル	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
6	AACシステムの構成要素３：選択手法	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
7	AACシステムの構成要素４：方略	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
8	ノンテク/ローテク/ハイテクコミュニケーション：技法やツールの紹介	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
9	各種コミュニケーション方法の適用事例の紹介	配付資料やノート、紹介された補足資料等で予習・復習すること(概ね1時間)	寺本　淳志
10	ノンテク/ローテク・コミュニケーションに関する演習	演習に向けて、補足資料等を基に介入のイメージを掴んで授業に臨むこと。(概ね1時間)	寺本　淳志
11	ハイテク・コミュニケーションに関する演習とコミュニケーションソフト作成体験	演習に向けて、補足資料等を基に介入のイメージを掴んでおくこと。また、事前にPowerPointの基本的な使用方法を確認しておくこと。(概ね1時間)	寺本　淳志
12	コミュニケーションソフト作成体験	発表や演習に向けて教材作成に取り組み、使用のイメージを掴んでおくこと。(概ね1時間)	寺本　淳志
13	コミュニケーションソフトの発表とディスカッション	発表や演習に向けて教材作成に取り組み、使用のイメージを掴んでおくこと。(概ね1時間)	寺本　淳志
14	成人領域のツールの紹介、STによるAAC導入調整について（AAC導入のために行う評価）	配布資料を復習しておくこと。（概ね1時間）	中川　大介
15	症例検討（グループワーク）	事前に配布資料を復習すること。基礎知識を基に患者像を描けるように学習すること（1時間）	中川　大介

教科書	なし
参考文献	『言語聴覚療法シリーズ16　改訂 AAC』　久保健彦 編著（2012）　建帛社 『言語聴覚士のためのAAC入門』 知念洋美 編著（2018）　協同医書出版社
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-VDY-01

科目名	音声障害				単位認定者	櫻庭　ゆかり		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	音声障害は、声の障害（voice disorder）であり、話し言葉の障害（speech disorder）とは異なる。喉頭の異常によってのみ起こる声の異常であり、共鳴器官の異常である開鼻声などは含まない。話し手の性別や年齢、社会的背景（仕事、地位）から考えて社会通念上妥当でない声、本人のニーズや社会的要請に声が合わない場合も音声障害ととらえられる。それぞれの障害はその病態から、器質性障害・神経学的障害・機能性障害に分類される。本講義では、それぞれの音声障害の特徴と治療法について、さらに無喉頭音声の種類と代替音声について学修する。
到達目標	それぞれの音声障害の成り立ちについて理解し、検査や評価、プログラムの立案、訓練を行うことができる。
学修者への期待等	予習と復習を繰り返し行うこと。授業は演習を含むので、積極的に参加することを望む。

回	授業計画	準備学修
1	音声障害の発生メカニズムと分類（発声器官の解剖・生理・声帯振動と呼吸様）	【事前】テキスト該当ページの目次を確認しておくこと。（概ね30分）
2	器質性音声障害１（声帯結節・声帯ポリープ・ポリープ様声帯・声帯溝症他）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
3	器質性音声障害２（声帯のう胞、喉頭肉芽腫・喉頭乳頭腫、喉頭がん他）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
4	神経学的音声障害１（喉頭麻痺・痙攣性発声障害他）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
5	神経学的音声障害２（神経変性疾患・脳血管障害に伴う音声障害）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
6	機能的音声障害（過緊張性発声障害・心因性失声症・音声衰弱症・変声障害他）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
7	喉頭所見をとる検査（喉頭鏡、ストロボスコピー、高速度撮影他）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
8	生理学的検査１　電気声門図 空気力学的検査（平均呼気流率、MPT、発声指数）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
9	生理学的検査２（強さの検査　声門下圧）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
10	音声の評価法（GRBAS尺度、モーラ法、VHI）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
11	気管切開の音声障害（気管切開のメカニズム・スピーチカニューレ）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
12	無喉頭音声１　人工喉頭（笛式人工喉頭、電気式人工喉頭）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
13	無喉頭音声２（食道音声・気管食道瘻）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
14	症状対処的音声治療（プッシングメソッド・声の配置法・外喉頭筋へのアプローチ他）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）
15	包括的音声治療（アクセント法・共鳴強調訓練・発声機能拡張訓練）	【事前】テキスト該当ページに目を通しておくこと。ページは指示する。（概ね30分）

教科書	『標準言語聴覚障害学　発声発語障害学』城本 修、原 由紀　編　医学書院
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-VDY-02

科目名	器質性・機能性構音障害				単位認定者	木村　有希 須賀川　芳夫		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	器質性構音障害とは形態的異常に基づいて生じる構音障害である。機能性構音障害とは口腔・鼻腔・口唇などの構音諸器官の形態や機能に異常がないにもかかわらず、構音に異常が認められる障害である。本講義では、口腔顔面の解剖と定型的な顎顔面形態発育とその異常について学修し、器質性構音障害を呈す口唇口蓋裂・口唇裂児についての基礎知識と構音の評価・訓練、支援方法を修得する。機能性構音障害では定型的な小児の構音能力の発達について学び、異常な構音の評価と、その具体的指導技術について学修する。
到達目標	器質性構音障害、機能性構音障害の病態について理解し、評価・訓練の実施が可能になる。
学修者への期待等	器質性構音障害、機能性構音障害の特徴を押さえ、内容を深く理解することができることを期待する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	機能性構音障害とは／日本語の語音 機能性構音障害の概念、特徴／日本語の語音の表記法(音声記号)	配布された資料を復習すること。(約30分程度)	須賀川　芳夫
2	構音障害の種類　機能性構音障害でみられることが多い構音障害等	配布された資料を復習すること。(約30分程度)	須賀川　芳夫
3	構音のための検査１新版構音検査（単語検査）	配布された資料を復習すること。(約30分程度)	須賀川　芳夫
4	構音のための検査２新版構音検査（単語検査のまとめ）	配布された資料を復習すること。(約30分程度)	須賀川　芳夫
5	構音のための検査３新版構音検査（音節検査、音検査、類似運動検査など）	配布された資料を復習すること。(約30分程度)	須賀川　芳夫
6	訓練１　基本的な訓練の流れ	配布された資料を復習すること。(約30分程度)	須賀川　芳夫
7	訓練２　語音別の訓練法	配布された資料を復習すること。(約30分程度)	須賀川　芳夫
8	幼児の指導・訓練の流れ	配布された資料を復習すること。(約30分程度)	須賀川　芳夫
9	器質性構音障害の基礎知識　定義と疾患	配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。	木村　有希
10	口蓋裂の基礎知識(疫学と言語障害)	配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。	木村　有希
11	口唇口蓋裂の問題点	配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。	木村　有希
12	舌・口唇の形態異常と機能障害	配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。	木村　有希
13	治療方針・手術	配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。	木村　有希
14	口腔腫瘍１口腔腫瘍の治療と問題点、リハビリテーション評価	配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。	木村　有希
15	口腔腫瘍２口腔腫瘍術後のリハビリテーションとその注意点	配布された資料を復習すること。(約30分程度)そのほか授業内で指示する。	木村　有希

教科書	『言語聴覚療法シリーズ　機能性構音障害』　本間　慎治　著　建帛社 『言語聴覚療法シリーズ　器質性構音障害』　斉藤　裕恵　著　建帛社
参考文献	『わかりやすい側音化構音と口蓋化構音の評価と指導法』　山下夕香里ほか(著)　　学苑社 『構音障害の臨床 - 基礎知識と実践マニュアル - 』　阿部雅子(著)　　金原出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-VDY-04

科目名	運動障害性構音障害Ⅱ				単位認定者	櫻庭　ゆかり		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	運動障害性構音障害について、タイプ別の訓練法を学び、訓練法の修得を目指す。姿勢の変化による発話への影響を知るため、寝返りから座位、さらには移乗動作も同時に演習する。「運動障害性構音障害Ⅰ」で学修した知識を基に、症例の問題点を整理し、訓練プログラムを立案、運動生理学の知識を取り入れ、訓練プログラムの実施へとつなげていく。さらに学生間において訓練の実際を演習する。
到達目標	各タイプごとの特徴を理解し、タイプに沿った訓練を実施できる。
学修者への期待等	演習を含む。実技は繰り返しの練習がすべてであるので、怠らずに行ってほしい。

回	授業計画	準備学修
1	運動障害性構音障害の分類と特徴1（運動低下性①）	1年次の運動障害性構音障害を復習しておくこと（概ね30分）
2	運動障害性構音障害の分類と特徴2（運動低下性②）の特徴と訓練	配布物に目を通すこと（概ね30分）
3	運動障害性構音障害の分類と特徴３（運動過多性①）	1年次の運動障害性構音障害を復習しておくこと（概ね30分）
4	運動障害性構音障害の分類と特徴４（運動過多性の特徴と訓練②）	1年次の運動障害性構音障害を復習しておくこと（概ね30分）
5	運動障害性構音障害の分類と特徴５（混合性）	1年次の運動障害性構音障害を復習しておくこと（概ね30分）
6	運動障害性構音障害の分類と特徴６（混合性の特徴と訓練）	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
7	発声発語器官の検査１（演習）呼吸に関わる検査	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
8	発声発語器官の検査２（演習）発声発語器官の範囲に関わる検査	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
9	発声発語器官の検査３（演習）発声発語器官の速さに関わる検査	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
10	発声発語器官の検査４（演習）発声発語器官の筋力に関わる検査	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
11	発声発語器官の検査５（演習）発声発語器官の反射・筋緊張に関わる検査	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
12	発声発語器官の検査６（演習）SLTA - STの演習と記録	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
13	異常構音のディクテーション	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
14	検査結果の分析１全体評価から読み取れる問題点の抽出1	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）
15	検査結果の分析２全体評価から読み取れる問題点の抽出２	テキストの該当ページを読んでおくこと（概ね30分）

回	授業計画	準備学修
16	機能訓練法１機能訓練の意義と原則　痙性の障害　弛緩性の障害	前回の復習（概ね30分）
17	機能訓練法２機能訓練の意義と原則　失調性の障害　運動低下性　運動過多性	前回の復習（概ね30分）
18	機能訓練法３各器官の粗大運動の機能訓練　呼吸訓練	前回の復習（概ね30分）
19	機能訓練法４　各器官の粗大運動の機能訓練　口唇	前回の復習（概ね30分）
20	機能訓練法５　各器官の粗大運動の機能訓練　下顎	前回の復習（概ね30分）
21	機能訓練法６　各器官の粗大運動の機能訓練　舌	前回の復習（概ね30分）
22	機能訓練法７　筋緊張のコントロール	前回の復習（概ね30分）
23	機能訓練法８　構音動作訓練１	前回の復習（概ね30分）
24	機能訓練法９　構音動作訓練２	前回の復習（概ね30分）
25	機能訓練法10　音の産生	前回の復習（概ね30分）
26	発話訓練１　統合般化	前回の復習（概ね30分）
27	発話訓練２　プロソディ―訓練	前回の復習（概ね30分）
28	発話訓練３　発話速度の調節法	前回の復習（概ね30分）
29	代償的手段の紹介　ノンテクとローテク	前回の復習（概ね30分）
30	代償的手段の紹介　ローテクとハイテク	前回の復習（概ね30分）
教科書	『標準言語聴覚障害学　発声発語障害学（最新版）』　城本 修、原 由紀　編　医学書院 『言語聴覚士のための運動障害性構音障害学』　廣瀬肇他著　医歯薬出版	
参考文献	『スピーチ・リハビリテーション第１巻～第５巻』　西尾正輝編　インテルナ出版	
備考		

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
言語聴覚士。運動障害性構音障害に関する臨床の実務経験を有する。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●		

科目ナンバリング
ST-2-VDY-05

科目名	吃音概論				単位認定者	藤島　省太		評価の方法	試験(筆記)	60　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内 課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	20　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	吃音とは、発話障害のひとつで、音のくりかえし（連発）、引き伸ばし（伸発）、言葉を出せずに間があく（難発、ブロック）など、流暢性に問題がある話し方のあるものを指す。本講義では、吃音の基礎的知識を得るとともに、原因論及び吃音の指導・訓練法（環境調整法、遊技療法、流暢性促進訓練など）について学修し、実践的能力の修得を目指す。
到達目標	吃音の基礎的知識を得るとともに、吃音の諸相に応じた対処について説明ができるようになること。また、将来吃音のある方に遭遇した場合を想定して、言語聴覚士としてどのようなアドバイスや対処を行なうかを具体的に説明できるようになること。
学修者への期待等	日頃から社会の動向を注視するとともに、身近な「ことば」に関する話題（音声言語・非音声言語、またヒトの言語・ヒト以外の動物の言語を問わず）について思索を深めておくこと。その上で、①「ヒトが話す」ということの意味は？②「ことば」にしょうがいがあるということはどういうことか？③言語聴覚士として「『ことば』の仕事に携わる」際に、自分が何を大切に仕事をしなくてはならないか？ということを絶えず自問自答してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	吃音のアウトライン（「ヒトが『話す』という行為」の意味について。『吃音』とは何だろうか…）	何故ヒトは「話すという行為」をするのか？話せることのメリット・デメリットについて事前に考えてくること。（約１時間）
2	吃音研究の歴史（人類の歴史における吃音観）	古代から現代にいたるまでの歴史の中で、吃音に関連する人物や出来事について学習しておくこと。（約１時間）
3	吃音の諸相（『吃音』とはどのような状態か）	一般的な「話しにくさ」と「吃音」という事象の違いについて考えておくこと。（約１時間）
4	吃音の発生（吃音研究における原因に関する諸説）	ヒトはいつ・どのようなときに『吃音』という事象に遭遇するのかということについて考えておくこと。（約１時間）
5	吃音の捉え方（吃音研究における鑑別・診断に関する諸説）	「『吃音』がある」という場合の基準について、自分なりの判断基準を考えておくこと。（約１時間）
6	幼児期の吃音の諸相①（幼児期の吃音とは）	乳幼児期の定型発達の全体像と言語発達の諸相について学習しておくこと。（約１時間）
7	幼児期の吃音の諸相②（幼児期の吃音への具体的対処）	乳幼児期の発達過程において生じ得る言語やコミュニケーション上の問題について学習しておくこと。（約１時間）
8	学童期の吃音の諸相①（学童期の吃音とは）	学童期の定型発達の全体像と言語発達の諸相について学習しておくこと。（約１時間）
9	学童期の吃音の諸相②（学童期の吃音への具体的対処）	学童期の発達過程において生じ得る言語やコミュニケーション上の問題について学習しておくこと。（約１時間）
10	中高生期の吃音の諸相	中高生期（思春期）の定型発達の全体像と言語発達の諸相について学習しておくこと。（約１時間）
11	成人期の吃音の諸相	現代社会における成人期の人（社会人）がかかえる諸課題について、情報収集を行なっておくこと。（約１時間）
12	セルフ・ヘルプについて	『セルフ・ヘルプ』とはどのような事象を指すのかや『セルフ・ヘルプ・グループ』成立の歴史的背景等について学習しておくこと。（約１時間）
13	言友会について	吃音のある人の自助（セルフ・ヘルプ）グループである『言友会』について、インターネット等を通して情報収集しておくこと。（約１時間）
14	言友会活動とセルフ・ヘルプ	自助（セルフ・ヘルプ）グループの活動として、『言友会』以外にどのようなものがあるかを情報集しておくこと。（約１時間）
15	まとめ（吃音問題の今後の展望）	将来言語聴覚士として仕事をする場合、吃音のある方と接する際に大切にしたいと思うことや、どのような具体的なアドバイスや対処を行なうかなどを事前に考えておくこと。（約１時間）

教科書	なし（随時資料を配布する）
参考文献	・『吃音臨床入門講座；心理・医療・教育の視点から学ぶ』早坂菊子ほか　学苑社 ・『学齢期吃音の指導・支援　改訂第２版』小林宏明　学苑社 ・『吃音の基礎と臨床』バリーギター著,長澤泰子監訳　学苑社
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-VDY-07

科目名	摂食嚥下障害Ⅱ				単位認定者	中川　大介		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	通年	単位数	2　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	演習	授業回数	30　回			

授業の概要	対象者の問題を、摂食嚥下機能検査・食事場面の観察・診療情報・他部門情報など総合的・包括的にとらえる。さらに対象者の問題点を整理し、予後を見据えた訓練プログラムの立案が行えるよう理解を深める。そのために必要な訓練手技について、目的・方法・対象・注意点を、講義と演習を通して修得する。嚥下障害に対する手術的な治療法についても触れ、言語聴覚士が行う術後のリハビリテーションについて学ぶ。
到達目標	摂食嚥下障害の治療の知識、リハビリテーション手技の獲得
学修者への期待等	各手技に対してリスク管理を行いながら、実施できる。そして、各病態を理解し、個々のケースに合わせて、代償法や訓練プログラムなどを立案し実施できることを期待します。

回	授業計画	準備学修
1	嚥下に関連する筋の解剖、神経生理、メカニズムの復習	【事前】摂食嚥下障害Ⅰを復習すること（概ね90分）
2	嚥下機能評価①（嚥下造影検査・画像の評価）グループワーク	【事前・事後】関連配布資料、テキストを読むこと（概ね60分）
3	嚥下機能評価②（嚥下内視鏡検査）	【事後】配布資料を復習すること（概ね30分）
4	嚥下機能評価③（嚥下内視鏡検査・画像の評価）グループワーク	【事後】配布資料を復習すること（概ね30分）
5	嚥下機能評価④（その他の検査）	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）
6	評価内容の解釈、訓練の考え方、組み立て	【事後】配布資料を復習すること（概ね30分）
7	間接練習①（口唇、舌、咀嚼筋の機能訓練）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
8	間接練習②（アイスマッサージ（咽頭、皮膚））	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
9	間接練習③（Pushing ex　嚥下体操）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
10	間接訓練④（嚥下反射誘発手技　ブローイング訓練　頭部挙上訓練）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
11	直接訓練①（直接訓練実施の留意点）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
12	直接訓練②（姿勢調整・介助法）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
13	直接訓練③（頸部回旋　頭頸部屈曲位）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
14	直接訓練④（交互嚥下　複数回嚥下　息こらえ嚥下）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
15	直接訓練⑤（増粘剤入水分について）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）

回	授業計画	準備学修
16	直接訓練⑤（嚥下食、段階的摂食訓練）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
17	摂食・嚥下指導①（家族指導　患者・家族に対するカウンセリング）	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
18	摂食・嚥下指導② 高齢者嚥下障害の症状特徴と訓練実施時の注意点	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
19	摂食・嚥下障害の手術（手術式の紹介とその目的、適応）	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）
20	各疾患別対応方法①（脳血管疾患）	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）
21	各疾患別対応方法②（神経筋疾患）	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）
22	各疾患別対応方法③（器質性疾患）	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）
23	各疾患別対応方法④（廃用、気管切開患者）	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）
24	口腔ケア	【事後】配布資料を復習、練習すること（概ね60分）
25	症例検討①（脳血管疾患）	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
26	症例検討②（脳血管疾患）グループディスカッション１	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
27	症例検討③（脳血管疾患）グループディスカッション２	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
28	症例検討④（神経筋疾患）	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
29	症例検討⑤（神経筋疾患）グループディスカッション１	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
30	症例検討⑥（神経筋疾患）グループディスカッション２	【事後】講義内での疑問点を調べておくこと（概ね60分）
教科書	『標準言語聴覚障害学　摂食嚥下障害学』熊倉　勇美、椎名　英貴　編　医学書院	
参考文献		
備考	授業内容は状況に応じて変更する場合があります。	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
講義担当者は、言語聴覚士として嚥下障害の臨床に携わってきた。専門領域の一つである。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-HDS-02

科目名	聴能・発語訓練演習				単位認定者	木村　有希 坂本　幸		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		授業内 課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	「コミュニケーション障害の軽減に有効な支援」という観点から、個々人にとって現実的な聴能・発語の役割の見極めと、そのための支援を考える。幼児・学童期の全発達に対する聴覚活用・発語の現実的な支援と、不足部分の補償方法について、実践例を交えて考察する。さらには聴覚補償（補聴器・人工内耳等の適応･フィッティングと活用）について学び、聴覚学習への理解を深める。
到達目標	1.「コミュニケーション障害の軽減に有効な支援」を目指す立場から、個々人にとって現実的な聴能・ 発語の役割の見極めと、それに基づく支援を考える。 2.聴覚活用・発語の、幼児・学童期の全発達における「現実的な」支援と、それだけでは不足する領域での補償方法を聴覚障害児・者の状況を考慮して検討する 3.聴覚補償（補聴器・人工内耳等の適応･フィッティングと活用）について学ぶ。 4.幼児期の聴能・発話支援の特性…①理解・コミュニケーション中心の係わり　②聴覚障害幼児の聴覚学習と幼児聴力検査の相互的関わりについて。 5.聴覚活用とコミュニケーション支援の統合：コミュニケーション補助手段の活用 （読話、手指言語、幼児の文字獲得と日本語学習、コミュニケーションスキル）
学修者への期待等	理念先行ではなく、現実的・具体的な目標を立てて聴覚障害児・者のコミュニケーションを支援するために知識を得て下さい。積極的な質問・議論を期待します。

回	授業計画	準備学修	担当
1	「聴能･発語訓練」の変遷と「聴覚学習」の観点	聴覚障害への観点と対応の歴史についてText p.14-17 で予習。(30分)	坂本　幸
2	小児の「聴覚学習」とは、何をすることなのか	「聴能発語訓練」と「聴覚学習」とはどう違うのかをまとめてみる(30分)	坂本　幸
3	小児の「聴覚発達」「聴覚学習」と聴力検査・診断との関わり（学習と評価のプロセス）	乳幼児の聴覚発達(text p.5-7)、聴力検査(p.114-127)を読んでおく(1時間)	坂本　幸
4	聴覚補償の適応と選択、「聴覚活用」評価の概略	ハビリテーションにおける聴覚補償と視覚情報の統合を考える(１時間)	坂本　幸
5	補聴器の仕組み､補聴器の音響的特性の概略を学ぶ	Text 第5章①補聴器 のうち(p.130-136)を読んでおく(１時間)	坂本　幸
6	補聴器の調整と装用指導について理解する	補聴器の調整、及び装用指導について読んでおく(p.145-165)(１時間)	坂本　幸
7	小児の補聴器の装用支援、おおび評価と活用支援	Text p.155-161 を読んでおく	坂本　幸
8	ライフステージごとの聴覚障害	講義の内容を復習すること(1時間)	木村 有希
9	前言語期の聴覚学習について	前言語期について予習をしてくる(１時間)	木村 有希
10	幼児期の聴覚･発語について	幼児期の聴覚・発語について予習をしてくる(１時間)	木村 有希
11	学童期以後の支援	学童期について調べてくる(１時間)	木村 有希
12	難聴者･中途失聴者の支援・訓練	難聴者・中途失聴者について調べてくる(1時間)	木村 有希
13	読話学習の概要（成人向）	読話について復習しておく(１時間)	木村 有希
14	コミュニケーション支援について①(手話・読話など)	講義の内容を復習すること(1時間)	木村 有希
15	コミュニケーション支援について②(さまざまなコミュニケーション手段)	講義の内容を復習すること(1時間)	木村 有希

教科書	①『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学』藤田郁代(著)医学書院 ②『言語聴覚士のための聴覚障害学』喜多村健(編)医歯薬出版
参考文献	①『教育オーディオロジーﾊﾝﾄﾞﾌﾞｯｸ』大沼直紀(著・監修)ジアーズ教育新社 ②『補聴器のフィッティングの考え方(第3版)』小寺一興　診断と治療社 ③『補聴器ハンドブック』Dillon,H. 中川雅文(監訳) 医歯薬出版
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-HDS-05

科目名	補聴器・人工内耳				単位認定者	松谷　幸子 渡邊　弘人		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	前期	単位数	1　単位		授業内課題等	20　%
						授業時間数	30　時間		受講態度	10　%
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	聴覚障害は生じる時期で必要な支援が異なる。聴覚障害児については精神発達を理解し、発話機能も含めた教育的配慮を学修する必要がある。補聴器と人工内耳の仕組みについて学修を進め、その臨床応用を学ぶ。具体的には、聴覚障害児・者、高齢者など使用する対象者を考慮し、補聴器・人工内耳を装着するまでの検査、評価の流れを学修し、装着を開始してからの必要な支援について理解を深める。
到達目標	補聴器および人工内耳の仕組みとその臨床応用について理解を深める
学修者への期待等	言語聴覚士が取り扱う専門領域の一つになる。聴覚障害領域の各講義との関連が深いので結び付けながら学習すること

回	授業計画	準備学修	担当
1	聴覚障害とリハビリテーション。聴覚障害とは？ リハビリテーションの概要と言語聴覚士の役割	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子
2	聴覚スクリーニング 新生児聴覚スクリーニング、乳幼児健診	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子
3	小児聴覚障害の検査と評価（１） 聴覚障害の評価の概要と検査の種類	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子
4	小児聴覚障害の検査と評価（２） 乳幼児・学童の聴覚検査、言語・発達の評価	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子
5	補聴器（１）　補聴器の仕組み	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	渡邊　弘人
6	補聴器（２）　補聴器の適合	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	渡邊　弘人
7	人工内耳（１）　人工内耳の仕組み	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子
8	人工内耳（２） 人工内耳のマッピングとリハビリテーション	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子
9	人工聴覚器 骨導インプラント、人工中耳、脳幹インプラントなど	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子
10	小児聴覚障害の指導・訓練（１） 小児の発達と学習方法、プログラム立案	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子
11	小児聴覚障害の指導・訓練（２） 乳児期、幼児期、学童期の指導	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	渡邊　弘人
12	重複障害 視覚聴覚二重障害、重複障害の概要と評価・指導	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	渡邊　弘人
13	拡大代替コミュニケーション 読話、キューサイン、指点字	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	渡邊　弘人
14	成人聴覚障害の聴覚評価、管理 成人の選別聴力検査、評価、聴覚管理	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	渡邊　弘人
15	成人聴覚障害の特徴と支援、情報保障	関連領域の講義を復習すること、指定教科書の関連ページを読むこと。（120分）	松谷　幸子

教科書	『標準言語聴覚障害学　聴覚障害学(第2版)』　中村　公枝　他著　医学書院 『言語聴覚士のための聴覚障害学』　喜多村健(編)　医歯薬出版
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-CLT-02

科目名	臨床実習Ⅱ（評価実習）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人　鈴木 將太 木村有希　中川　大介		評価の方法	実習先評価： 知識・人物・適正	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	2年	開講時期	後期	単位数	3 単位		学内評価: 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	135 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－ 回			

授業の概要	学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能と考察する能力を向上させることを目的とする。対象者の全体像把握のため、臨床実習指導者の指導のもと検査を実施し、問題点の抽出、治療プログラムの立案及び治療目標の設定ができるよう学修する。 実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から今後の課題と目標を考察する。さらには実習後の症例報告書の作成と報告会を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。
到達目標	適切な検査法を選択・実施し、総合的な評価ができる。さらに評価内容をまとめ、的確に説明することができる。
学修者への期待等	自らの足りないところを明確にし、次の努力目標としてほしい。

授業計画

1．実習期間
1単位　　45時間
　実習時期　1月4週～2月3週の間で3週

２．実習の目的
学生が医療チームの一員として臨床場面に参加しながら言語聴覚療法を経験し、評価のための技能及び考察能力を向上させる。

３．実習の目標（ねらい）
1）治療プログラムの立案ができる。
2）治療目標の設定ができる。
3）言語病理学的診断を行い、問題点を抽出できる。

４．実習計画
1）実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関、社会福祉施設とする。
2）実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。
3）実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。
4）指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査を選択し実施する。
5）長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。
6）毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。
7）実習期間終了後、実習報告書を提出する。

教科書	特に指定しない。
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）
本科目の担当者はすべて5年以上の経験を有する言語聴覚士である。その指導のもと言語聴覚療法の実際を学ぶ。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-06

科目名	神経の診かた				単位認定者	櫻庭　ゆかり 渡邊　弘人 鈴木　將太		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	さまざまな症状を呈する脳・神経の病気は、症状の診かたを知らずにリハビリテーションを行うことはできない。脳・神経の病気によりどんな症状が出るか、その症状をどのように観察すれば良いか。どのような症状を見つければ脳・神経系のどこに、どんな病気があると分かるのかを知り、評価と訓練の立案につなげる。本講義では、運動機能、反射、感覚、脳神経、神経状態、不随意運動、意識障害を取り上げ、学生相互の演習を交えながら学修する。さらには、MRI、CTを読影する際のリハビリテーションに生かすポイントについて学修する。
到達目標	リハビリテーション実施に必要な脳・神経の症状、症状の観察ポイント・観察方法、訓練につなげるための考え方について理解を深める
学修者への期待等	１年次に学んだ「神経系の構造・機能・病態」「呼吸発声発語系の構造・機能・病態」「聴覚系の構想・機能・病態」「運動障害性構音障害」「摂食嚥下障害」など広い分野に関連する重要な科目である。しっかり復習して臨んでほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	脳画像1　イントロダクション（脳回、脳溝、脳葉）	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
2	脳画像2　CT、MRI画像の特徴（適宜グループワーク）	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
3	脳画像3　水平断について（適宜グループワーク）	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
4	脳画像4　冠状断について（適宜グループワーク）	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
5	脳画像5　矢状断について（適宜グループワーク）	【事前】テキスト該当ページを読むこと（60分）	鈴木　將太
6	言語聴覚療法に関わる脳神経の走行、支配領域と検査法1　三叉神経　顔面神経①（グループワークを適宜実施）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）	渡邊　弘人
7	言語聴覚療法に関わる脳神経の走行、支配領域と検査法2　顔面神経②　内耳神経　舌咽神経（グループワークを適宜実施）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）	渡邊　弘人
8	言語聴覚療法に関わる脳神経の走行、支配領域と検査法3舌咽神経（グループワークを適宜実施）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）	渡邊　弘人
9	言語聴覚療法に関わる脳神経の走行、支配領域と検査法4迷走神経（グループワークを適宜実施）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）	渡邊　弘人
10	言語聴覚療法に関わる脳神経の走行、支配領域と検査法5副神経　舌下神経（グループワークを適宜実施）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）	渡邊　弘人
11	反射１　反射の種類　表在反射　深部腱反射　病的反射	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（45分）	櫻庭　ゆかり
12	反射２　深部腱反射の見かた	【事前】前回の資料を読むこと（40分）	櫻庭　ゆかり
13	反射３　病的反射の種類と見かた	【事前】資料を読み、練習をかさねること（90分）	櫻庭　ゆかり
14	不随意運動１　不随意運動が出現する疾患	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（40分）	櫻庭　ゆかり
15	不随意運動２　不随意運動の種類	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（40分）	櫻庭　ゆかり

教科書	『D-ROMでレッスン　脳画像の読み方（最新版）』石原 健司著　医歯薬出版 『まるごと図解神経のみかた』　山口　博著　照林社
参考文献	『病気がみえるvol.7　脳と神経（最新版）』　医療情報科学研究所 編　メディックメディア
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-07

科目名	動作分析の基礎				単位認定者	櫻庭　ゆかり 木村　有希 中川　大介		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	本講義では、解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、身体運動を自然科学的観点から学修する。患者の動作を観察し、動作の遂行能力を調べることは臨床現場で大変重要だが、どこを見、どのように解釈し、どのようにプログラムにつなげるかを修得することは容易ではない。本講義では身体運動の基本的な理解のため頭部、体幹、四肢の関節の基本的な構造と運動を学び、身体運動や基本姿勢・動作のメカニズムを学修する。さらに互いの運動観察や、動画を用いた対象者の運動分析を通し、結果を表現する能力を身につける。
到達目標	それぞれの動作と動作分析のポイントが説明できる。観察する目を養い、自分で分析・考察する力を持てるようになる。
学修者への期待等	この講義の中では、自分で考えることや他者と話し合うことが多くあります。自分の意見を形にし、深いディスカッション・考察ができることを期待しています。

回	授業計画	準備学修	担当
1	動作分析の基本　身体重心とその分析	【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと（概ね30分）	櫻庭 ゆかり
2	床反力ベクトルと身体	【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと（概ね31分）	櫻庭 ゆかり
3	関節トルク・慣性の法則	【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと（概ね32分）	櫻庭 ゆかり
4	運動量と力積	【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと（概ね33分）	櫻庭 ゆかり
5	姿勢制御	【事前】テキストの該当部分を読んでおくこと（概ね34分）	櫻庭 ゆかり
6	摂食嚥下の生理・解剖(復習) 食事姿勢、食事動作について①	【事前】前回の講義内容を復習すること（概ね30分）	中川　大介
7	食事姿勢について② （上肢・肩・体幹・頸部・下肢）	【事前】前回の講義内容を復習すること（概ね30分）	中川　大介
8	食事姿勢と高次脳機能	【事前】前回の講義内容を復習すること（概ね30分）	中川　大介
9	食事姿勢の介入方法、評価	【事前】前回の講義内容を復習すること（概ね30分）	中川　大介
10	食事姿勢の観察、評価、（ディスカッション）	【事前】前回の講義内容を復習すること（概ね30分）	中川　大介
11	発声・発話時の動作分析	【事後】授業の内容を復習すること。(約30分)	木村 有希
12	正常例の発声・発話時の分析①【観察・評価】	【事後】授業の内容を復習すること。(約30分)	木村 有希
13	正常例の発声・発話時の分析②【グループ発表】	【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約1時間)	木村 有希
14	症例の発声・発話時の分析①【観察・評価】	【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約1時間)	木村 有希
15	症例の発声・発話時の分析②【グループ発表】	【事前】これまでの内容を復習しておくこと。(約1時間)	木村 有希

教科書	『動作のメカニズムがよくわかる　実践！動作分析』　上杉雅之(監修)・西守隆(編著)　医歯薬出版
参考文献	適宜講義内で紹介する。
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-09

科目名	口腔衛生論				単位認定者	木村　有希 中川　大介　花渕　静		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	口腔の運動能力が低下している対象者は口腔衛生に大きな問題を抱える場合が多い。本講義では、生涯を通じて常在菌とのより良い共生関係を維持し健康に寿命を全うするために、口腔内の衛生状態と健康の関係について、さまざまなデータを通して知識を得る。さらにはその具体的な対策として、口腔ケアの演習を行う。口腔の感覚・運動機能の維持向上を担当する言語聴覚士が、口腔ケアの側面から知識と技術を持つことは重要である。医歯連携による口腔衛生の一翼を担う専門職として、その基礎を学ぶ。
到達目標	言語聴覚士として、口腔衛生と健康の関係性や口腔清掃の目的を理解する。その知識をもとに評価を行い適切に対応ができるようになる。
学修者への期待等	口腔内環境を整えることや医歯連携の重要性を理解し、患者に合わせて口腔ケア、対応できるようになることを期待する。

回	授業計画	準備学修	担当
1	口腔衛生学の定義、口腔保健について 口腔の機能（解剖、生理学）	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	中川　大介
2	口腔環境（唾液の作用、歯・口腔の付着物・沈着物）成人・高齢者の歯科保健	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	中川　大介
3	全身状態との関連性（呼吸器感染症、心血管性疾患との関連性）	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	中川　大介
4	成人の口腔機能評価・口腔清掃	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	中川　大介
5	機能的口腔ケアとは	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	中川　大介
6	機能的口腔ケア　（筋刺激法）	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	中川　大介
7	口腔の発育・発達と機能	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	木村　有希
8	小児の口腔評価・口腔清掃	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	木村　有希
9	乳幼児と口腔衛生（乳児の歯と口腔の疾病・異常）	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	木村　有希
10	学齢期の歯科疾患の現状と動向、学校保健に関係する人々	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	木村　有希
11	障がい者の口腔衛生	【事後】配布資料を復習すること (約60分)	木村　有希
12	各種口腔清掃用品（歯ブラシ／フロス／歯間ブラシ） 基礎知識　口腔清掃自習法	【事前】現在使用している口腔清掃用品の種類、購入理由などを調べておくこと（30分） 【事後】配布資料を復習すること（50分）	花渕　静
13	特殊口腔清掃用品（舌ブラシ／タフトブラシ／スポンジブラシ）基礎知識　口腔清掃自習法		花渕　静
14	口腔ケア演習（１）	【事前】シラバス１２回目・１３回目の授業プリントおよび各種口腔清掃用品の操作方法について復習しておくこと（30分） 【事後】配布資料を復習すること（40分）	花渕　静
15	口腔ケア演習（２）		花渕　静

教科書	教科書の指定は無し　配布資料、授業内で紹介する
参考文献	『口腔衛生学　2020』　松久保 隆・八重垣 健他監修　一世出版 『最新歯科衛生士教本　歯科予防処置論・歯科保健指導論』全国歯科衛生士教育協議会監修高阪利美著　合場千佳子編　医歯薬出版株式会社 『最新歯科衛生士教本　歯科材料』全国歯科衛生士教育協議会著、編集　医歯薬出版株式会社
備考	シラバス１２・１３回目、シラバス１４回目・１５回目を連続授業とし、８階歯科演習室使用する

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-11

科目名	保険診療・介護保険制度				単位認定者	櫻庭　ゆかり　渡邊　弘人 木村　有希　中川　大介 佐々木　仁		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	２年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	日本の国民皆保険制度を維持する仕組みの中で重要な位置を占める診療報酬制度から、リハビリテーションの経済的側面について学ぶ。さらに、要介護・要支援に対する介護保険、児童福祉法を根拠法とした小児慢性特定疾病対策による医療費助成制度、難病法による難病医療費助成制度についても学び、対象者を支える制度への理解を深める。
到達目標	① 言語聴覚士が病院経営にどのように貢献しているかを理解し、業務へのやりがいを見出す。 ② 医療費のしくみ理解することにより、患者様に寄り添った対応につなげる。 ③ 暮らしに役立つ医療費のしくみと保険制度への理解。
学修者への期待等	国試のためだけでなく、理解することで自分の暮らしを豊かにする知識も含まれています。自分が患者様やそのご家族になった場面をイメージしながら受講してください。

回	授業計画	準備学修	担当
8	障害者総合福祉法による自律支援給付と地域生活支援事業について	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）	渡邊　弘人
9	身体障害者福祉法による身体障害者手帳、身体障害者更生相談所の支援について	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね90分）	渡邊　弘人
10	医療機関の役割、リハビリテーションに関する算定について	【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと（概ね60分）	中川　大介
11	地域包括ケアシステムと在宅医療	【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと（概ね60分）	中川　大介
12	慢性疾患・難病患者における支援　【リハビリテーション、難病医療費助成制度　など】	【事後】テキストの関連ページ、配布資料を読むこと（概ね60分）	中川　大介
13	高齢者の地域生活支援(1)　【介護，施設サービスなど】	【事後】テキスト、配布資料を復習すること（概ね60分）	木村　有希
14	高齢者の地域生活支援（2）　【訪問リハビリテーション，通所リハビリテーション　など】	【事後】テキスト、配布資料を復習すること（概ね60分）	木村　有希
15	小児慢性特定疾病対策による医療費助成制度	【事後】テキスト、配布資料を復習すること（概ね60分）	木村　有希
9	介護保険の基本	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）	櫻庭　ゆかり
10	介護保険のしくみ	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）	櫻庭　ゆかり
11	介護保険のスタッフと事業所	【事前】テキストの関連ページを読むこと（概ね30分）	櫻庭　ゆかり
12	１．医療費のしくみと診療報酬制度 ２．言語聴覚士の業務と診療報酬	【事後】配布資料を復習すること（概ね30分）	佐々木　仁
13	３．診療報酬の改定と医療機関の経営 ４．医療機関による医療費の違い	【事後】配布資料を復習すること（概ね30分）	佐々木　仁
14	５．医療保険の種類と医療費 ６．高額療養制度と保険外併用療養費	【事後】配布資料を復習すること（概ね30分）	佐々木　仁
15	７．公費負担医療制度 ８．介護保険制度	【事後】配布資料を復習すること（概ね30分）	佐々木　仁

教科書	『世界一わかりやすい介護保険のきほんとしくみ 2021-2024年度版』　イノウ著　　ソシム
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚学科
３年生
（２０２１年度入学生）

■　年間予定表
■　シラバス

2023年度　言語聴覚学科3年生　年間予定表

前期

	日		月		火		水		木		金		土	
4月													1	
	2		3		4		5		6	入学式	7		8	
	9		10	健康診断	11	健康診断	12	健康診断	13		14		15	
	16		17		18		19		20		21		22	
	23		24		25		26		27		28		29	昭和の日
	30		1		2		3	憲法記念日	4	みどりの日	5	こどもの日	6	
5月	7		8	実習指導	9	実習指導	10	実習指導	11	実習指導	12	実習指導	13	
	14		15	臨床実習Ⅲ	16	臨床実習Ⅲ	17	臨床実習Ⅲ	18	臨床実習Ⅲ	19	臨床実習Ⅲ	20	
	21		22	臨床実習Ⅲ	23	臨床実習Ⅲ	24	臨床実習Ⅲ	25	臨床実習Ⅲ	26	臨床実習Ⅲ	27	
	28		29	臨床実習Ⅲ	30	臨床実習Ⅲ	31	臨床実習Ⅲ	1	臨床実習Ⅲ	2	臨床実習Ⅲ	3	
6月	4		5	臨床実習Ⅲ	6	臨床実習Ⅲ	7	臨床実習Ⅲ	8	臨床実習Ⅲ	9	臨床実習Ⅲ	10	
	11		12	臨床実習Ⅲ	13	臨床実習Ⅲ	14	臨床実習Ⅲ	15	臨床実習Ⅲ	16	臨床実習Ⅲ	17	
	18		19	実習指導	20	実習指導	21	実習指導	22	実習指導	23	実習指導	24	
	25		26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	臨床実習Ⅳ	29	臨床実習Ⅳ	30	臨床実習Ⅳ	1	
7月	2		3	臨床実習Ⅳ	4	臨床実習Ⅳ	5	臨床実習Ⅳ	6	臨床実習Ⅳ	7	臨床実習Ⅳ	8	
	9		10	臨床実習Ⅳ	11	臨床実習Ⅳ	12	臨床実習Ⅳ	13	臨床実習Ⅳ	14	臨床実習Ⅳ	15	
	16		17	海の日	18	臨床実習Ⅳ	19	臨床実習Ⅳ	20	臨床実習Ⅳ	21	臨床実習Ⅳ	22	
	23		24	臨床実習Ⅳ	25	臨床実習Ⅳ	26	臨床実習Ⅳ	27	臨床実習Ⅳ	28	臨床実習Ⅳ	29	
	30		31	実習指導	1	実習指導	2	実習指導	3	実習指導	4	実習指導	5	
8月	6		7		8		9		10		11	山の日	12	
	13		14		15		16		17		18		19	
	20		21		22		23		24		25		26	
	27		28		29		30		31		1		2	
9月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	敬老の日	19		20		21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

2023年度　言語聴覚学科3年生　年間予定表

後期

	日		月		火		水		木		金		土	
10月	1		2		3		4		5		6		7	
	8		9	体育の日	10		11		12		13		14	
	15		16		17		18		19		20		21	
	22		23		24		25		26		27		28	せいよう祭
	29		30		31		1		2		3	文化の日	4	
11月	5		6		7		8		9		10		11	
	12		13		14		15		16		17		18	
	19		20		21		22		23	勤労感謝の日	24		25	
	26		27		28		29		30		1		2	
12月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18	定期試験	19	定期試験	20	定期試験	21	定期試験	22	定期試験	23	
	24		25	追試験	26	追試験	27		28		29		30	
	31		1	元日	2	振替休日	3		4		5		6	
1月	7		8	成人の日	9	不合格者発表	10		11		12		13	
	14		15	再試験	16	再試験	17		18		19		20	
	21		22		23		24		25		26		27	
	28		29		30		31		1		2		3	
2月	4		5		6		7		8		9		10	
	11		12	建国記念の日	13		14		15		16		17	
	18		19		20		21		22		23	天皇誕生日	24	
	25		26		27		28		29		1		2	
3月	3		4		5		6		7		8		9	
	10		11		12		13		14		15		16	
	17		18		19	卒業式	20	春分の日	21		22		23	
	24		25		26		27		28		29		30	
	31													

※振替授業日については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。
※追試験の日程については、別途、掲示にて確認してください。
※再試験の日程については、変更になる場合があります。掲示にて確認してください。

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-0-HCU-03

科目名	基礎英会話				単位認定者	相田　明子		評価の方法	試験（筆記）	50 %
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	通年	単位数	1 単位		授業内課題（小テスト、発表）等	40 %
						授業時間数	20 時間		受講態度	10 %
				授業形態	演習	授業回数	10 回			

授業の概要	言語聴覚療法の現場や国際学会、海外の講師を招いた研修会など、英会話が必要となる場面がある。本科目では、英語でのあいさつや、基本的な会話、医療場面における会話のモデルなど、ロールプレイを通してヒアリングとスピーチの能力を高める。
到達目標	日常シーンから医療の現場まで、種々の場面で必要とされる基礎英会話力を養成する。 ゆっくりであれば、公共の場面で必要な英語を、聴いたり話したりすることが出来るようになる。 医療英語の基礎的な語彙や対話文を習得し、活用できるようになる。
学修者への期待等	毎回の授業に集中し、90分間のうちに問題を解決しましょう。グループ・ワークやロール・プレイなどの場面では、臆せず英語を声に出す姿勢を期待します。

回	授業計画	準備学修
1	授業のイントロダクション、Unit 1:電話での受診予約 単語① Body Parts	本シラバスを読む。英語でのあいさつ（朝・昼・夜）について考えておく （概ね30分間）
2	Unit 1の完成（リスニング・グループワーク） 単語①テスト 単語② Symtoms and Injuries	単語テストの準備、Unit1の和訳を完成させる（概ね60分間）
3	Unit 2: 病院への登録、既往歴　現在完了形の復習 単語②テスト	単語テストの準備、Unit2の指定された箇所について調べる（概ね60分間）
4	Unit 2の完成（リスニング・グループワーク） 英語で問診票を書く　単語③Department	Unit2の和訳を完成させる、指定された練習問題を解く（概ね60分間）
5	Unit 3:問診、医師による診察　　単語③テスト	単語テストの準備、Unit3の指定された箇所について調べる（概ね60分間）
6	Unit 3の完成（リスニング・グループワーク） 単語④薬の種類と関連語	Unit3の和訳を完成させる（概ね60分間）
7	Unit 4：薬の服用、処方箋を読む（リスニング・グループワーク）単語テスト④	単語テストの準備、Unit4の指定された箇所について調べる（概ね60分間）
8	Unit 8:術前・術後（リスニング・グループワーク）	Unit 8の指定された箇所について調べる、本文を和訳してみる　（概ね60分間）
9	Unit 10:清拭　（リスニング・グループワーク）	Unit 10の指定された箇所について調べる、本文を和訳してみる　（概ね60分間）
10	Unit 11: リハビリ（リスニング・グループワーク）	Unit 11の指定された箇所について調べる、本文を和訳してみる　（概ね60分間）

教科書	『*Introduction to Medical English*(医療英語入門)』、稲冨百合子、Dion Clingwall著　松柏社
参考文献	教員が作成したプリントを配布する等、講義の都度提示する。
備考	授業中はスマートフォンを使用しないこと。 授業開始10分以内までを遅刻とし、以降は欠席扱いとなりますが、小テスト受験などは認めます。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-0-HSC-03

科目名	健康スポーツ学Ⅱ				単位認定者	櫻庭　ゆかり		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	通年	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	20　時間			
				授業形態	演習	授業回数	10　回			

授業の概要	健康増進や体力増進等に関する運動の効果とその方法について、データと生理学から学ぶ。また、生活習慣病と運動や食生活の関係、疾病の状態や健康の状態、加齢による体力の衰えなどによる運動の選択などに関しても具体的に学んでいく。さらに、運動療法の背景として運動学習の基礎について学ぶ。またリズム運動や軽度な運動を自ら体験し、介護予防の場面で運動指導を行えるよう、留意点も踏まえて学修する。
到達目標	運動の効果を理論的に理解し、説明ができる。また、介護予防の場面で適切な運動を提案できることを目標とする。
学修者への期待等	運動にかかわるセラピストの一人としての実感を持ってほしい。積極的な参加を望む。

回	授業計画	準備学修
1	運動の生理学①　循環器	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
2	運動の生理学②　呼吸器	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
3	運動の生理学③　肥満とのかかわり	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
4	運動の生理学④　認知機能とのかかわり	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
5	運動学習の基礎①　運動学習とは	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
6	運動学習の基礎②　スキーマ理論	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
7	運動学習と内部モデル	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
8	運動学習とリハビリテーション	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
9	介護予防と運動①　筋力・範囲・スピードトレーニング	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）
10	介護予防と運動②　リズム体操	【受講後】学んだ内容の復習をすること（30分程度）

教科書	特に指定しない。
参考文献	特に指定しない。
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●		●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-03

科目名	神経心理学				単位認定者	鈴木　將太		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	大脳の構造（脳溝・脳回・脳葉とその細部）と機能について学ぶ。画像を撮影する装置（CT、MRI、SPECTなど）の特徴を知る。言語聴覚療法を行う上で、直面する頻度の高い、脳画像の読影の知識を修得する。正常例を基に水平断、冠状断、矢状断から部位を同定できるよう学ぶ。脳画像に関しては、各高次脳機能障害、各失語症に対応する画像の見方について学修し、実際の同定を行う。
到達目標	リハビリテーション実施に必要な脳・神経の症状、症状の観察ポイント・観察方法、評価・分析、訓練、予後予測などにつなげるための考え方について理解を深める
学修者への期待等	2年次に学んだ「神経の診かた」から各脳画像（CT、MRI）の特徴や各障害や症状がどのように現れるかを理解する。医療食として広い分野に関連する重要な科目である。しっかり復習して臨んでほしい。

回	授業計画	準備学修
1	中枢神経系の構造・機能①（大脳）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）□
2	中枢神経系の構造・機能②（脳葉）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）□
3	中枢神経系の構造・機能③（間脳、視床など）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）□
4	中枢神経系の構造・機能④（大脳基底核など）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
5	中枢神経系の構造・機能⑤（大脳辺縁系など）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
6	小脳の構造・機能、脳神経（Ⅰ-Ⅵ）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
7	脳神経（Ⅶ-Ⅻ）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
8	脳血管（灌流域、走行）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
9	脳画像（1）CT、MRIの特徴	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
10	脳画像（2）水平断①（健常例の読影、病巣）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
11	脳画像（3）水平断②（病巣と症状）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
12	脳画像（4）冠状断①（健常例の読影、病巣）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
13	脳画像（5）冠状断②（病巣と症状）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
14	脳画像（6）矢状断①（健常例の読影、病巣）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）
15	脳画像（7）矢状断①（病巣と症状）	【事前】関連項目について、テキスト・関連する文献を読むこと（90分）

教科書	『CD-ROMでレッスン　脳画像の読み方（最新版）』石原健司著　医歯薬出版 『病気がみえるvol.7　脳と神経（最新版）』　医療情報科学研究所□編　メディックメディア
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-PCL-07

科目名	心理学系総論				単位認定者	渡邊　弘人 木村　有希		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	心理学は行動と心的処理過程の科学である。我々の行動と心的世界は極めて多様であるために心理学の領域も広汎であり、多くのアプローチが存在する。言語聴覚士は心理的な葛藤や、脳損傷による知覚・認知・学習の困難、発達に問題を抱えるさまざまな年齢層の人々を担当する職業であることから、心理学の素養が欠かせない。生涯発達心理学や臨床心理学をはじめ、福祉心理学、高次脳機能の基盤となる脳の領域に踏み入った神経心理学、知覚、学習と記憶、思考、理解等を研究する認知心理学、さらには心理現象を把握するために用いる統計的な研究手法を学ぶ心理測定法など、これまで学んできた心理学を包括的に概観し、それぞれのポイントと相互関連性について学修する。
到達目標	心理学は多岐にわたる領域である。特に言語聴覚士が理解しておかなければならない生涯発達心理学、認知学習心理学、聴覚心理学、心理測定法などについて再度確認し、学修を深める。
学修者への期待等	国家試験にも出題される重要な分野であるため、1.2年生で学んだ本領域の知識を再確認し、理解を深めてほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	認知学習心理学①　古典的条件付けと道具的条件付け　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
2	認知学習心理学②　学習と思考 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
3	認知学習心理学③　知覚 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
4	認知学習心理学③　記憶 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
5	聴覚心理学①　音の心理学単位 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
6	聴覚心理学②　音の心理的現象 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
7	心理測定法①　測定法 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
8	心理測定法②　尺度 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
9	生涯発達心理学①　研究法 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。約60分	木村　有希
10	生涯発達心理学②　研究法と新生児期 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。約60分	木村　有希
11	生涯発達心理学③　幼児期・児童期 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。約60分	木村　有希
12	生涯発達心理学④　青年期から老年期 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。約60分	木村　有希
13	臨床心理学①　心理検査 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。約60分	木村　有希
14	臨床心理学②　行動療法・認知行動療法 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。約60分	木村　有希
15	臨床心理学③　心理療法 グループワーク・ディスカッション	国家試験過去問題を復習すること。約60分	木村　有希

教科書	『言語聴覚士国家試験過去３年分の問題と解説(最新版)』　言語聴覚士国家試験対策委員会　大揚社
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-1-LGS-02

科目名	日本語文法学				単位認定者	青木　智佳子		評価の方法	試験(筆記)	80　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	20　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	失語症や言語発達など、言語の障害と発達のリハビリテーションのために、日本語文法の理解は欠かせない。本講義では、言語学で学んだ統語論を、日本語に特化して学んでいく。言葉の単位として文章―段落―文―文節―単語を学び、文や文節の成分がどのように関わり合って文を組み立てているのかを学修する。品詞は、動詞（活用や種類を含む）、形容詞、形容動詞、名詞（代名詞）、副詞、連体詞、接続詞及び感動詞、さまざまな助動詞については、その意味や活用、接続の仕方を学修する。助詞は格助詞、接続助詞、副助詞及び終助詞の四種類に分類し、品詞の見分けがつきにくい語については、特にその判別の仕方を学ぶ。さらに敬語について、尊敬語、謙譲語及び丁寧語の三つの種類に分けて学んでいく。
到達目標	国語文法をベースに日本語文法を学び、日本語の特徴を理解する。
学修者への期待等	国語文法に言語学の形態論・統語論分野の日本語文法を織り交ぜながら授業を進めます。文法を身近に感じるために、わたしたちがいつも使っている日本語、例えば自分が発したことばや相手が発したことばがどのような品詞や文の成分で構成されているのか、意識してみてください。授業をその都度理解し、疑問点は解決できるよう集中して受講し、知識を深めていただきたいと思います。

回	授業計画	準備学修
1	ガイダンス ことばの単位／文節／単語	言語学（形態論:形態素）について復習しておくこと。（30分程度）
2	文と節／単文と複文／複文の種類／主節と従属節	言語学(統語論)について復習しておくこと。（30分程度）
3	品詞分類 名詞の種類と用法	品詞分類及び名詞の種類について予習・復習すること。（30分程度）
4	動詞の活用と種類	動詞の活用と種類について予習・復習すること。（30分程度）
5	形容詞・形容動詞の活用と種類	形容詞・形容動詞の活用と種類について予習・復習すること。（30分程度）
6	副詞・連体詞の種類と用法	副詞・連体詞の種類について予習・復習すること。（30分程度）
7	接続詞と感動詞の種類と用法	接続詞・感動詞の種類について予習・復習すること。（30分程度）
8	助動詞の意味と活用① 受身・可能・使役・願望・打消・断定の助動詞	助動詞の意味と活用について予習・復習すること。（30分程度）
9	助動詞の意味と活用② 丁寧・意志・推量・推定・様態・伝聞の助動詞	助動詞の意味と活用について予習・復習すること。（30分程度）
10	助詞①格助詞Part1　種類と用法	格助詞の意味・用法について予習・復習すること。（30分程度）
11	助詞②格助詞Part2　日本語文法における格関係	格助詞の意味・用法について予習・復習すること。（30分程度）
12	助詞③接続助詞・副助詞Part１種類と用法	接続助詞・副助詞の用法について予習・復習すること。（30分程度）
13	助詞④副助詞Part2とりたて助詞・終助詞	副助詞・終助詞の種類・用法について予習・復習すること。（30分程度）
14	敬語①敬語の基本知識（種類と作り方）	敬語の基礎的な知識を復習すること。（30分程度）
15	敬語②敬語の用法（二重敬語と間違いやすい敬語）	敬語の基礎的な知識を復習すること。（30分程度）

教科書	プリントにて対応
参考文献	『くわしい中学国文法』　田近洵一編著・株式会社文英堂／『日本語教師トレーニングマニュアル②日本語文法整理読本　解説と演習』　井口厚夫・井口裕子著　バベルプレス／『日本語教師のための入門言語学-演習と解説』　原沢伊都夫著　スリーエーネットワーク／『日本語教育能力検定試験完全攻略ガイド(第５版)』ヒューマンアカデミー著　株式会社翔泳社／『言語学基本問題集』佐久間淳一編　研究社
備考	授業の進度や学修者の理解状況で順序や内容を変更することがあります。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LSG-03

科目名	言語聴覚障害学総論				単位認定者	渡邊　弘人　木村　有希 中川　大介		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	実習を経て評価の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、その評価に必要な知識を総括する。本講義では、原疾患である神経疾患、呼吸器・循環器疾患、悪性新生物、遺伝子疾患などの病態理解とともに、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、構音障害の言語病理学的症状、聴覚障害や摂食嚥下障害について、検査法の基本的な名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施できる知識を横断的にとらえ直す。
到達目標	言語聴覚士の専門領域について、臨床実習で経験した内容と知識を結び付け、理解を深める。
学修者への期待等	患者、利用者から学ばせてもらったことを最大限活かせるよう、積極的に講義に臨んでもらいたい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	障害を引き起こす疾患①　脳血管障害 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
2	脳血管障害が引き起こす言語聴覚障害の概説 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
3	障害を引き起こす疾患②　神経変性疾患 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
4	神経変性疾患が引き起こす言語聴覚障害の概説 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
5	障害を引き起こす疾患③　悪性新生物 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
6	悪性新生物が引き起こす運動系障害の概説 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
7	障害を引き起こす疾患④　遺伝子疾患 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
8	遺伝子疾患が引き起こす聴覚障害の概説と検査 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
9	高次脳機能障害に対する検査の名称と意義①　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	木村　有希
10	高次脳機能障害に対する検査の名称と意義②　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	木村　有希
11	言語発達障害に対する検査の名称と意義①　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	木村　有希
12	言語発達障害に対する検査の名称と意義②　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	木村　有希
13	言語発達障害に対する検査の名称と意義③　実施方法について(適宜グループワーク・ディスカッション)	国家試験過去問題を復習しておくこと(60分)	木村　有希
14	発声発語に対する検査の名称と意義、実施方法(グループワーク、ディスカッション)	【事前】該当テキストを復習してくること（30分）	中川　大介
15	嚥下障害に対する検査の名称と意義、実施方法(グループワーク、ディスカッション)	【事前】該当テキストを復習してくること（30分）	中川　大介

教科書	なし
参考文献	①　『言語聴覚士国家試験必修ポイント2023　ST専門科目』　医歯薬出版株式会社 ②　『言語聴覚士国家試験必修ポイント2023　ST基礎科目』　医歯薬出版株式会社
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-LSG-04

科目名	言語聴覚障害学臨床応用				単位認定者	櫻庭 ゆかり　渡邊 弘人 鈴木 將太		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
				授業形態	講義	授業時間数	30　時間			
						授業回数	15　回			

授業の概要	実習を経て訓練の実際を体験した3年次において、その経験を基礎とし、各言語聴覚障害及び摂食嚥下障害の特徴と、訓練に必要な知識を総括する。本講義では、高次脳機能障害（失語症を含む）や言語発達遅滞、発声発語障害などの言語病理学的な症状や摂食嚥下障害について、対応し得る訓練法の名称と意義、実施方法の理論的根拠及び的確に実施するための知識と手技をとらえ直す。
到達目標	臨床実習で経験したリハビリテーション方法について、各専門領域ごと訓練法の知識と結び付け、理解を深める。
学修者への期待等	臨床実習で学んだことを醸成するためには、積極的に学ぶ姿勢が大切である。国家試験にも関連する内容のため欠席せずに受講してもらいたい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	発声発語器官の解剖	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭　ゆかり
2	発声発語器官の神経	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭　ゆかり
3	発声発語器官の感覚	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭　ゆかり
4	発声発語器官の感覚・運動障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭　ゆかり
5	発声発語器官の運動障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	櫻庭　ゆかり
6	聴覚補償機器①　補聴器 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
7	聴覚補償機器②　人工内耳 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
8	脳機能　局在、側性化	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
9	失語症　症状、タイプ分類	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
10	言語機能　評価、分析、検査、訓練	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
11	高次脳機能障害①　病巣、症状	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
12	高次脳機能障②　評価、分析、検査、訓練	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
13	小児の発達　言語機能、運動、心理	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
14	言語発達遅滞①　疾病分類、病態	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
15	言語発達遅滞②　評価、分析、検査、訓練	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太

教科書	なし
参考文献	『言語聴覚士国家試験過去３年分の問題と解説(最新版)』　言語聴覚士国家試験対策委員会　編　大揚社
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-AHB-05

科目名	高次脳機能系総論				単位認定者	櫻庭　ゆかり		評価の方法	試験(筆記)	70　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		受講態度	30　%
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	「失語症概論」、「高次脳機能障害概論」、「失語症・高次脳機能障害Ⅰ」、「失語症・高次脳機能障害Ⅱ」で学修した各論的内容を総括する。高次脳機能障害は脳の病変によって生じる多様な障害である。これらの障害を呈することは、日常・社会的コミュニケーションを行う上で大きな影響を与え、QOLの低下に密接にかかわる。人の認知・行動と高次脳機能の関係について学修するとともに、それぞれの、あるいは合併した障害が対象者の生活にどのような弊害を及ぼすか、脳の局在も含めて総合的に理解する。
到達目標	高次脳機能の障害を説明できる。問題点を整理し、リハビリテーションプログラムを立案・実施できる。
学修者への期待等	言語聴覚士としての専門的能力を養うために欠かすことのできない領域である。意欲をもって望んでほしい。

回	授業計画	準備学修
1	高次脳機能障害とは	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
2	失語症の分類１　流暢なタイプ	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
3	失語症の訓練１　流暢なタイプの訓練	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
4	失語症の分類２　非流暢なタイプ	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
5	失語症の訓練　非流暢なタイプの訓練	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
6	高次脳機能の障害１　行為の障害	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
7	行為の障害に関する検査と訓練	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
8	高次脳機能の障害２　認知の障害	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
9	認知の障害に関する検査と訓練	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
10	高次脳機能の障害３　空間把握の障害	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
11	高次脳機能の障害４　記憶の障害	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
12	高次脳機能の障害５　注意障害	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
13	記憶・注意障害の検査と訓練	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
14	高次脳機能の障害６　社会的行動障害	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）
15	社会的行動障害とリハビリテーション	資料内容と国家試験過去問題を理解すること（３０分）

教科書	特に指定しない。
参考文献	『言語聴覚士国家試験過去３年分の問題と解説(最新版)』言語聴覚士国家試験対策委員会　編　大揚社
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	●

科目ナンバリング
ST-2-HDS-06

科目名	聴覚障害学総論				単位認定者	渡邊　弘人		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	各聴覚障害領域の総まとめとして、今まで学んできた各論をつなげて横断的に学修し、聴覚障害領域についての理解を深める。聴覚障害を引き起こす疾患が聴器のどの部分に影響を及ぼすのか、解剖学的、生理学的に理解を深める。特に伝音難聴や感音難聴では原因による症状が異なるため、聴器メカニズムの深い理解を要する。聴覚障害を補償するための方法として補聴器や人工内耳が挙げられるが、年代によって聴覚障害者への支援が異なるため、総合的な聴覚領域のリハビリテーション支援について理解を深めていく。
到達目標	聴覚領域を理解するためには欠かすことのできない解剖生理と疾患を結び付けて理解を深める。
学修者への期待等	国家試験領域でもよく出題される領域なので復習をしっかりと行い、積極的に受講してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	伝音機構①　外耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
2	伝音機構②　外耳の音響的効果 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
3	伝音機構③　中耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
4	伝音機構④　中耳の音響的効果 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
5	伝音機構⑤　外耳・中耳の疾患と症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
6	伝音機構⑥　外耳・中耳の疾患と聴覚的影響 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
7	伝音機構⑦　伝音難聴の特徴と対応法 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
8	感音機構①　内耳の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
9	感音機構②　内耳の音響的効果 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
10	感音機構③　後迷路の解剖と生理 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
11	感音機構④　後迷路の音響的効果 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
12	感音機構⑤　内耳・後迷路の疾患と症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
13	感音機構⑥　内耳・後迷路の疾患と聴覚的影響 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
14	感音機構⑦　感音難聴の特徴と対応法 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
15	伝音難聴と感音難聴のまとめ 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分

教科書	なし
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-2-HDS-07

科目名	音と聴力				単位認定者	渡邊　弘人		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	聴覚検査の構成は、音刺激を耳が受信し、その反応を計測することで得られる。すなわち音の性質と耳の性質の両方の特性を利用したものである。そのため両方の理解を深めることで臨床像の把握ができる。本講義では、外耳・中耳・内耳に音が入力されたときの増強作用と聴覚フィルタ理論、強大音に対する防御作用、後迷路性で起こる音の周波数分析とカクテルパーティー効果、両耳聴効果などについての理解を深め、音と聴力を双方向的に総括する。
到達目標	聴覚機構の解剖生理と各種聴覚検査、聴覚心理学的現象との関係を明確にし、理解を深める。
学修者への期待等	国家試験にもよく出題される領域なので、積極的な受講を望む。

回	授業計画	準備学修
1	純音聴力検査①　気道聴力検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
2	純音聴力検査②　骨導聴力検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
3	純音聴力検査と聴覚生理との関係 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
4	中耳機能検査①　ティンパノメトリ検査の役割と意義　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
5	中耳機能検査②　耳小骨筋反射検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
6	中耳機能検査と聴覚生理との関係 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
7	内耳機能検査①　SISI検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
8	内耳機能検査②　ABLB検査の役割と意義 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
9	内耳機能検査③　自記オージオメトリ検査の役割と意義　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
10	内耳機能検査と聴覚生理との関係～場所説と頻度説～　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
11	内耳機能検査と聴覚生理との関係～聴覚フィルタ～ 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
12	聴性脳幹反応聴力検査の役割と意義　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
13	聴性定常反応聴力検査の役割と意義　　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
14	聴覚機構の解剖生理と聴覚心理学的現象の関係 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分
15	まとめ（重要ポイントの振り返り） 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。 概ね90分

教科書	なし
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-CLT-03

科目名	臨床実習Ⅲ（総合実習前期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人　鈴木 將太 木村有希　中川 大介		評価の方法	実習先評価： 知識・人物・適正	50 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位		学内評価: 準備・報告書等	50 %
						授業時間数	180 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－ 回			

授業の概要	診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、問題点の抽出、治療目標の設定と治療プログラム立案、治療の実施から効果判定までの臨床過程を経験する。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。
到達目標	指導者の指導の下、評価（方法の選択、問題点抽出など）、目標設定、訓練（プログラムの立案、プログラムの実施、介入考察）を実施できること
学修者への期待等	言語聴覚士の臨床活動を通して、自身の足りない点を含め、自らと向き合ってほしい。そのうえで、今後の学修における努力目標を明確にできることを期待する。

授業計画

1．実習期間
4単位　　180時間
　実習時期　5月3週～6月4週の間で4週

２．実習の目的
診療参加型によって言語聴覚療法技能の向上を目指す。対象者への評価の実施から評価結果に対するアセスメント、治療の実施から効果判定までの臨床課程を経験する。

３．実習の目標（ねらい）
1）臨床実習指導者の指導のもと、評価方法を選択し、実施できる。
2）問題点を抽出し、ICFに基づいて整理できる。
3）長期目標、短期目標の設定及び訓練プログラムの立案ができる。
4）臨床実習指導者の指導のもと、治療プログラムを実施することができる。
5）治療プログラムの妥当性や症例の全体像、一連の言語聴覚療法介入に関する考察をまとめることができる。

４．実習計画
1）実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。
2）実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。
3）実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。
4）指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。
5）短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。
6）指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。
7）言語聴覚療法介入に関して考察する。
8）毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。
9）実習期間終了後、実習報告書を提出する。

教科書	特に設定しない。
参考文献	適宜紹介する。
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-2-CLT-04

科目名	臨床実習Ⅳ（総合実習後期）				単位認定者	櫻庭 ゆかり 渡邊 弘人　鈴木 將太 木村有希　中川 大介		評価の方法	臨床実習施設評価	50 %
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	4 単位		学内評価	50 %
						授業時間数	180 時間			
				授業形態	実習	授業回数	－ 回			

授業の概要	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。臨床実習指導者の指導のもと、対象者に一連の言語聴覚療法を提供しながら、臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになることを目標とする。実習中の個人面談を通して、臨床実習指導者からのフィードバックと学生自身の評価から、今後の課題と目標を考察する。さらには、実習後の症例報告作成と発表を通して臨床現場で身につけた知識の習熟を図っていく。
到達目標	「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上を目指す。
学修者への期待等	これまでの学修してきた内容の総括なるのが臨床実習Ⅳであるため、一つ一つの事柄に真摯に向き合い、自身の課題を見つけてもらいたい。

授業計画

1．実習期間
4単位　　180時間
　実習時期　6月5週～7月5週の間で4週

２．実習の目的
「臨床実習Ⅲ（総合実習前期）」の内容をふまえ、診療参加型による言語聴覚療法技能の向上をめざす。実習後、症例報告作成及び発表を通じて、臨床現場で身につけた知識の習熟を図る。

３．実習の目標（ねらい）
1）臨床実習指導者の指導のもと、再評価を行うことができる。
2）症例再評価をもとに、チームアプローチ、予後予測、転帰に絡めた支援の方法などを考察できる。
3）臨床現場における言語聴覚士の役割と責任について理解し、チームの一員としての自覚を持って行動できるようになる。

４．実習計画
1）実習施設は言語聴覚士が治療業務に従事している医療機関とする。
2）実習時間は従事する言語聴覚士の勤務時間に順じ、1日を8時間とする。
3）実習施設でのオリエンテーションや言語聴覚士の臨床活動を見学する。
4）指導者の指導のもと、標準的な失語症検査あるいは構音検査などを選択し実施する。
5）短期目標、長期目標の設定を行い、その根拠を考察する。
6）指導者の指導のもと、治療プログラムを立案し、実施する。
7）言語聴覚療法介入に関して考察する。
8）再評価と再評価の考察を実施する。
9）再評価の結果を踏まえて、治療プログラムを見直す。
10）毎日の実習日誌と指導者からの課題を提出し、指導を受ける。
11）実習期間終了後、臨床実習Ⅲまたは臨床実習Ⅳでの症例を選択し、実習報告書を作成し、提出する。

教科書	使用しない
参考文献	適宜紹介する
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-02

科目名	生命科学の基礎				単位認定者	渡邊　弘人　木村　有希 中村　裕子		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	生命科学とは、生命の営みを細胞・分子といったレベルで研究し、人の暮らしに役立てようとする学際的、応用的な学問で、近年、発展が目覚ましい。中でも生命に関する分野は、再生医療や遺伝子治療などリハビリテーション医療に従事する者として知っておくべき内容が含まれる。本講義では、最新の医療情報を理解する基礎を養成することを目的に、すでに学んだ細胞と神経、遺伝、代謝、免疫に関し、応用的に理解を深める。さらには生命を対象とする学問には欠かせない倫理学も併せて学修する。
到達目標	言語聴覚士として臨床にあたる上で、医療・福祉専門職として担う責任と覚悟を学ぶ。さらに患者様へ示す尊厳の一つである「リハビリテーションのエビデンス」について、生命科学の基礎とむずびつけながら学修する
学修者への期待等	臨床家として患者様に対峙する上で大変重要な内容となる。特に生命倫理、職業倫理は、人が人を診るということを深く考えなければならない。欠席せずしっかり受講してもらいたい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	細胞について、その構成と役割、エネルギー産生の仕組み（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（120分）	渡邊　弘人
2	細胞の働きを支える循環器系の構成とその役割について　（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（121分）	渡邊　弘人
3	身体の防衛を担う免疫系について、その構成と役割（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（122分）	渡邊　弘人
4	リハビリテーションの視点での神経細胞の構成と機能（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（123分）	渡邊　弘人
5	言語聴覚障害に関わる神経領域①（高次脳機能障害）（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（124分）	渡邊　弘人
6	言語聴覚障害に関わる神経領域②（構音障害、嚥下系）（適宜ディスカッションを行う。）	関連領域の講義を復習すること。（125分）	渡邊　弘人
7	身体の役割①　循環について	講義の内容について復習をすること(60分)	木村　有希
8	身体の役割②　代謝について	講義の内容について復習をすること(60分)	木村　有希
9	身体の役割③　遺伝について	講義の内容について復習をすること(60分)	木村　有希
10	再生治療の現在	講義の内容について復習をすること(60分)	木村　有希
11	遺伝治療の現在	講義の内容について復習をすること(60分)	木村　有希
12	生命倫理、臨床倫理の視点、職業倫理と倫理綱領 生命倫理、臨床倫理とは？言葉の障害を持つ人の尊厳を維持するにはどうするか。	講義の内容について復習をすること(60分)	中村　裕子
13	職業倫理と倫理綱領　職業倫理と倫理綱領を「尊厳ある臨床実践」に活かすには	講義の内容について復習をすること(60分)	中村　裕子
14	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の基礎 倫理判断の方法　倫理的解決の原則	講義の内容について復習をすること(60分)	中村　裕子
15	尊厳ある臨床を展開するための生命倫理学の応用 倫理的臨床の実践方法－実習時に経験した事例を通して学ぶ	講義の内容について復習をすること(60分)	中村　裕子

教科書	①『標準言語聴覚障害学　言語聴覚障害学概論』藤田郁代他　編　医学書院 ②『言語聴覚障害療法シリーズ　改定　言語聴覚障害総論Ⅰ』　倉内紀子　編著　建帛社
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-03

科目名	口腔顔面の感覚・運動障害総論			単位認定者	櫻庭　ゆかり 中川　大介		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位		
						授業時間数	30　時間		
				授業形態	講義	授業回数	15　回		

授業の概要	実習を通して職務の理解が進んだ3年次に、口腔顔面の感覚・運動に関する総括を行う。口腔顔面の運動は自ら視認できない特徴を持つことから感覚への依存度が高いと言われている。解剖学、生理学を基礎として耳鼻咽喉科学、嚥下障害、運動障害性構音障害などの領域で縦断的に学んできた感覚運動障害を、神経学的側面、器質的側面、機能的側面から見つめ直し、横断的に総括する。
到達目標	発声発語器官の特徴が説明でき、適切なリハビリテーションプログラムが立案できる、
学修者への期待等	断片的に学んできた知識を、ここで総まとめとして整理してほしい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	口腔顔面の解剖	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
2	口腔顔面の機能解剖	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
3	顔面神経について　走行と障害	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
4	顔面神経麻痺のリハビリテーション①（末梢）	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
5	顔面神経麻痺のリハビリテーション②（中枢）	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
6	口腔顔面の感覚　三叉神経～皮質感覚野	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
7	顎の運動と障害	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
8	舌の特異性	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
9	舌の障害	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
10	口腔顔面領域のリハビリテーション	授業後、資料と問題を復習すること（３０分）	櫻庭　ゆかり
11	咽喉頭の解剖	【事後】資料を復習すること（30分）	中川　大介
12	咽喉頭の筋・骨格の神経支配、感覚・運動	【事後】資料を復習すること（30分）	中川　大介
13	咽喉頭の感覚・運動障害	【事後】資料を復習すること（30分）	中川　大介
14	音声障害・運障害性構音障害のリハビリテーション	【事後】資料を復習すること（30分）	中川　大介
15	嚥下障害のリハビリテーション	【事後】資料を復習すること（30分）	中川　大介

教科書	なし
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	●

科目ナンバリング
ST-3-SOC-04

科目名	地域リハビリテーション論				単位認定者	櫻庭 ゆかり　渡邊 弘人 中川 大介		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	地域リハビリテーションとは障害のある人々や高齢者及びその家族が、住み慣れたところで、安全に、いきいきと生活ができるよう、リハビリテーションの立場から協力しあう活動である。現在、国は「住まい」「医療」「介護」「予防」「生活支援」など複数の医療・福祉サービスが連携することで、誰もが安心して自立した暮らしができるよう、地域包括ケアシステムの構築を推進している。これは先に述べた地域リハビリテーションを包含し、その理念や目標は共通していると言ってよい。本講義では、先に学んだリハビリテーション論を基礎として、地域包括ケアシステムのなかで言語聴覚士に求められる役割、マネジメントについて学修する。
到達目標	障害のある人々や高齢者及びその家族が、住み慣れたところで、安全に、いきいきと生活ができるよう、リハビリテーションの立場から協力しあう活動と支援システムについて学修する。
学修者への期待等	言語聴覚士の専門性を活かした活動が日々広がりを見せている。視野を広く持った活動が臨床現場で求められている。臨床に向けて大変重要な内容となるため、積極的な受講を望む。

回	授業計画	準備学修	担当
1	地域リハビリテーションとは何か	関連資料を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
2	地域包括ケアシステムについて	関連資料を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
3	地域の支援事業について	関連資料を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
4	自立支援推進について	関連資料を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
5	地域における言語聴覚士の役割	関連資料を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
6	地域リハビリテーションにおける機能評価 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
7	地域リハビリテーションにおけるADLとその評価 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
8	地域リハビリテーションにおけるADLと言語聴覚障害適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
9	地域包括ケアシステムと言語聴覚療法 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
10	地域包括ケアシステムと言語聴覚療法のICF 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
11	難病支援の地域連携について	【事後】資料を復習しておくこと(30分)	中川　大介
12	地域リハビリテーションにおける摂食嚥下障害者とのかかわり方	【事後】資料を復習しておくこと(30分)	中川　大介
13	地域リハビリテーションにおけるAACを利用している利用者様とのかかわり方	【事後】資料を復習しておくこと(30分)	中川　大介
14	地域リハビリテーションにおける高次脳機能障害者とのかかわり方	【事後】資料を復習しておくこと(30分)	中川　大介
15	事例を通してみるコミュニケケーション援助の実際（グループワーク）	【事後】資料を復習しておくこと(30分)	中川　大介

教科書	なし
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目(実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性)

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-05

科目名	認知症のリハビリテーション				単位認定者	鈴木 將太 中川 大介 中村 裕子		評価の方法	試験(筆記)	100 %
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	3年	開講時期	通年	単位数	1 単位			
						授業時間数	30 時間			
				授業形態	講義	授業回数	15 回			

授業の概要	これまで高次脳機能障害をはじめとする失語・高次脳機能障害学の一分野として学修してきた認知症の症状は、複合的で複雑である。また、一般的な検査バッテリーを遂行できず、行動観察による評価が重視される場合も多い。実習を通して総合的な視点を持つことの重要性を経験した3年次において、認知症を独立して扱い、認知症の定義・原因疾患・症状・評価・訓練をはじめ、言語聴覚士としての支援や家族への情報伝達の方法を学修する。
到達目標	言語聴覚領域において、認知症の定義，原因疾患，評価，訓練をはじめ、関わり方や家族指導の方法などを身に付ける。
学修者への期待等	少子高齢化が進む世界情勢のもと、今後ますます増えていくと考えられる認知症者、及びそのご家族様への適切な支援や助言は何かを考える。また、随時、事例を紹介していく。

回	授業計画	準備学修	担当
1	認知症の概念・定義・医学的診断手順	講義の内容について復習をすること(60分)	鈴木　將太
2	認知症の病型と認知症に間違われやすい病態（適宜グループワーク）	講義の内容について復習をすること(60分)	鈴木　將太
3	認知症でみられる認知機能障害	講義の内容について復習をすること(60分)	鈴木　將太
4	認知症性疾患の薬物療法と非薬物療法の概要（適宜グループワーク）	講義の内容について復習をすること(60分)	鈴木　將太
5	認知症の評価とリハビリテーション	講義の内容について復習をすること(60分)	鈴木　將太
6	複数の認知機能障害の観察，せん妄やうつ状態の除外，社会生活の水準低下	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
7	認知症の症状，MCIについて	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
8	アルツハイマー病，血管性認知症	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
9	レビー小体型認知症，前頭側頭型変性症	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
10	評価の目的と留意点，手順，スクリーニング検査，高次脳機能検査とその解釈	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
11	行動観察による評価，生活面の評価	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
12	重症度別の介入方法と言語聴覚士の役割,家族指導と他職種との連携	【事後】講義内容について1時間復習すること	中村　裕子
13	認知症者の口腔顔面の特徴	【事後】講義内容について1時間復習すること	中川　大介
14	摂食嚥下障害を呈する認知症者の対応、リハビリテーション（グループワーク、ディスカッション）	【事後】講義内容について1時間復習すること	中川　大介
15	認知症者の介護、支援（グループワーク、ディスカッション）	【事後】講義内容について1時間復習すること	中川　大介

教科書	なし
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-08

科目名	疾病論				単位認定者	渡邊　弘人　鈴木　將太 木村　有希		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修・選択 配当年次	言語聴覚学科	必修	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	各疾患の特徴から疾病の成り立ちや治療までをより深く理解することに重点を置く。これまで学修してきた基礎医学及び臨床医学、リハビリテーション概論、言語聴覚障害学と本講義を総合的・体系的に学ぶことにより、個々の対象者に適したリハビリテーションの選択ができる言語聴覚士を目指す。本講義では、臨床の現場で出会うことの多い循環器疾患、呼吸器疾患、消化器疾患、腎・泌尿器疾患、内分泌・代謝疾患、中枢・末梢神経疾患、自己免疫疾患について、言語聴覚士がリハビリテーションを行う際に考慮すべき事柄、さらには支援について考える。
到達目標	各種疾患と言語聴覚障害との関係を明確にし、理解を深める
学修者への期待等	言語聴覚士が対峙する患者、利用者は少なからず合併症を有している。時には合併症がリハビリテーションに影響することもあるため、臨床で大変重要な知識である。ぜひ積極敵に受講してもらいたい。

回	授業計画	準備学修	担当
1	腎臓、泌尿器の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
2	内分泌・代謝疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
3	自己免疫疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
4	循環器疾患の解剖生理とその疾患、症状 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
5	言語聴覚障害と各種内科的疾患の関係 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
6	神経系の解剖・生理、神経学的検査	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
7	神経症候学（意識、脳神経系、運動系、感覚系、反射、髄膜刺激症候）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
8	臨床神経学各論１　脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍、中枢神経系感染症	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
9	臨床神経学各論２　神経変性疾患、認知症、水頭症、脱髄疾患	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
10	臨床神経学各論３　末梢神経障害、筋疾患および神経筋接合部疾患、代謝性疾患、その他疾患	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
11	循環器疾患①　心疾患について 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
12	循環器疾患②　脳血管疾患について 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
13	呼吸器疾患①　肺がん　COPD　肺炎　など 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
14	呼吸器疾患②　呼吸器感染症、睡眠時無呼吸症候群など　適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
15	消化器疾患　食道炎、胃・十二指腸潰瘍・胃炎・過敏性腸症候群	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希

教科書	『言語聴覚士国家試験過去３年分の問題と解説(最新版)』　言語聴覚士国家試験対策委員会　大揚社
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-10

科目名	リハビリテーション栄養学				単位認定者	鈴木　裕一 中川　大介		評価の方法	授業内課題	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	栄養とは、生物が生命活動を営む上で外部から摂取する必要がある物質及びその働きである。人は適切な栄養摂取によって、健康な身体を形成・維持することができる。摂食嚥下障害を担当する専門職の一つとして、言語聴覚士には栄養とその障害に関する理解と、結果としての飢餓やフレイル、サルコペニアの理解が求められる。本講義では、栄養に関する基礎事項と栄養障害の理解、さらには、栄養状態の適正な評価及び栄養不良時の適正なリハビリテーションプログラムについて学んでいく。
到達目標	栄養、栄養障害の基礎、栄養障害がきたす対象者への影響を理解し、リハビリテーションへ繋げられる。
学修者への期待等	対象者の栄養、栄養障害を評価ができるようになり、リハビリテーションプログラムを立案、実施できることを期待します。また、栄養チームの他、他職種とも対象者の栄養状態・対策についてできるように知識を身につけてほしいです。

回	授業計画	準備学修	担当
1	STにおける栄養知識の重要性、栄養と栄養素	小テスト（1）：栄養の基礎知識、に対する準備をすること（週１回２時間程度）	鈴木　裕一
2	エネルギー産生の仕組み		鈴木　裕一
3	糖質の栄養		鈴木　裕一
4	脂質の栄養		鈴木　裕一
5	タンパク質・アミノ酸の栄養		鈴木　裕一
6	三大栄養素の相互関係	小テスト（2）：食の基礎知識、に対する準備をすること（週１回２時間程度）	鈴木　裕一
7	ビタミン・ミネラル		鈴木　裕一
8	水と酸素の栄養		鈴木　裕一
9	食と健康		鈴木　裕一
10	食行動		鈴木　裕一
11	リハビリテーションと栄養	小テスト（3）：リハビリテーション栄養、に対する準備をすること（週１回２時間程度）	中川　大介
12	栄養ケアプロセス		中川　大介
13	低栄養と栄養管理		中川　大介
14	フレイル/サルコペニアと栄養管理		中川　大介
15	摂食・嚥下障害と栄養管理		中川　大介

教科書	特に指定しない
参考文献	
備考	毎回講義資料を渡す。また講義の初めに、前回の講義の復習問題を解いてもらう。

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-12

科目名	視覚言語論				単位認定者	山本　はづき		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	３年	開講時期	後期	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	演習	授業回数	15　回			

授業の概要	通常、意思伝達に使われる「話す」「聞く」による言語体系を音声言語と呼ぶが、それに並ぶ言語体系として視覚による伝達がある。一般によく使われる手段に手話がある。より多くのコミュニケーション手段を駆使し、提案できるという意味で、言語聴覚士が手話を理解できることには意義がある。本講義では手話による基本的な挨拶と日常的表現を学ぶ。
到達目標	視覚言語について理解し、手話による基本的な挨拶と日常表現ができる
学修者への期待等	手話には練習が欠かせない。興味をもって復習し、日常的にも使用しながら修得してほしい。

回	授業計画	準備学修
1	視覚言語について	言語聴覚士テキストｐ361コミュニケーションストラテジーに目を通しておくこと。１５分程度
2	手話とはなにか　手話の体系	前回の復習を行うこと。（30分程度）
3	視覚言語（形･位置･方向･動作･表情）を理解する	前回の復習を行うこと。（30分程度）
4	手話の特徴（非手指動作）を理解する	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
5	基本を知る　１．まず覚えるといい単語	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
6	基本を知る　２．単語の並べ方	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
7	基本を知る　３．現在、未来、過去	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
8	簡単な表現から　１．あいさつ	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
9	簡単な表現から　２．返事、あいづち	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
10	簡単な表現から　３．気持ち	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
11	会話にチャレンジ　１．　天気、気候	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
12	会話にチャレンジ　２．　紹介	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
13	会話にチャレンジ　３．　誘い，約束	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
14	会話にチャレンジ　４．趣味を聞く	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）
15	まとめ（重要ポイントの振り返り）	前回の復習と練習を行うこと。（40分程度）

教科書	なし
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●		●	

科目ナンバリング
ST-3-SOC-13

科目名	補綴・補装具論				単位認定者	櫻庭 ゆかり　渡邊 弘人 木村 有希　中川 大介 高橋 慧		評価の方法	試験（筆記）	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	選択	３年	開講時期	通年	単位数	1　単位			
						授業時間数	30　時間			
				授業形態	講義	授業回数	15　回			

授業の概要	本講義では、すでに各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から見つめ直す。その基本的構造と機能については領域を超えて学修し、義歯や軟口蓋挙上装置、及び各種補聴器など聴覚補償機器の意義、具体的な使用方法、適合判定について理解を深める。並びに義肢の種類と装着についての理解と使用方法を学修する。
到達目標	各講義において触れられてきた口腔顔面の補綴や補聴器、意思伝達装置等について、補装具の観点から理解を深める。
学修者への期待等	リハビリテーションの臨床において、補綴や補聴器、AAC、補装具は患者・利用者のQOL向上のためには大変重要な内容となる。そのため積極的な受講を望む

回	授業計画	準備学修	担当
1	補綴について　補綴とはなにか	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
2	義歯の適合，顔面補綴について	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
3	額義歯・軟口蓋挙上装置など	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	櫻庭　ゆかり
4	聴覚補償システム①　補聴器のフィティング	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
5	聴覚補償システム②　各種補聴器の機能とその適応	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
6	聴覚補償システム③　人工内耳マッピング	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
7	乳幼児の補綴・装用の必要性とは	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
8	乳幼児の補綴・装用　Hotz床	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
9	乳幼児の補綴・装用　スピーチエイド	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
10	顎接触補助床の装用に関する適応と装用効果	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	中川　大介
11	軟口蓋挙上装置の装用に関する適応と装用効果	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	中川　大介
12	顎接触補助床/軟口蓋挙上装置の装用時の評価・調整	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね30分	中川　大介
13	義肢・装具①　基本構造・分類	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	高橋　慧
14	義肢・装具②　歩行補助具、車椅子	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	高橋　慧
15	義肢・装具③　介助方法、リハビリテーション、指導	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	高橋　慧

教科書	なし
参考文献	
備考	

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
	●	●	●	●	●

科目ナンバリング
ST-3-SOC-14

科目名	言語聴覚学特別講義Ⅰ				単位認定者	櫻庭　ゆかり　鈴木　裕一 渡邊　弘人　鈴木　將太 木村　有希　中川　大介 須賀川　芳夫		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	講義	授業回数	30　回			

授業の概要	言語聴覚士の仕事は、多くの基礎的分野に関する知識の上に成り立つ。本講義では、専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、言語聴覚士の幅広い臨床に対応できる人材を目指す。 専門支持科目で学修した臨床歯科医学、呼吸系の構造・機能・病態、音声学、言語学について、総合的に復習し、言語聴覚士の臨床に対応できる人材を目指す。
到達目標	専門支持科目で学んできた内容について総合的に復習し、専門展開科目とのつながりについて理解を深める
学修者への期待等	専門支持科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。３年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む

回	授業計画	準備学修	担当
1	基礎医学①：細胞と組織　発生　骨格筋	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木　裕一
2	基礎医学②：神経系　循環器系　呼吸器系	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木　裕一
3	基礎医学③：消化器系　内分泌系　睡眠と脳波 まとめ	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木　裕一
4	医学総論①：少子高齢化問題と日本人の死因と要介護の要因	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木　裕一
5	医学総論②：医療安全と感染予防　健康管理と予防医学	関連資料を復習すること おおむね90分	鈴木　裕一
6	呼吸系の構造・機能・病態①：呼吸系の解剖	関連資料を復習すること おおむね90分	櫻庭　ゆかり
7	呼吸系の構造・機能・病態②：声帯と発声，検査全般	関連資料を復習すること おおむね90分	櫻庭　ゆかり
8	音声学：IPA全般	関連資料を復習すること おおむね90分	櫻庭　ゆかり
9	音声学：スペクトログラムを読む	関連資料を復習すること おおむね90分	櫻庭　ゆかり
10	言語学；言語構造，意味論など	関連資料を復習すること おおむね90分	櫻庭　ゆかり
11	耳鼻咽喉科系疾患	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
12	聴覚系の解剖生理と疾患の関係性	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
13	聴覚系の解剖生理と聴覚検査	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
14	聴覚の心理学的現象	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
15	聴覚検査と心理測定法の関係	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人

回	授業計画	準備学修	担当
16	中枢神経系、末梢神経系の構造・機能	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
17	中枢神経系、末梢神経系の病態、症状	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
18	大脳の血流領域	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
19	言語発達(前言語期・幼児前期)のまとめ①	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
20	言語発達(前言語期・幼児前期)のまとめ②	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
21	言語発達(幼児期後期)のまとめ	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
22	言語発達(学童期期)のまとめ	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
23	知的障害のまとめ	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	木村　有希
24	生涯発達心理学（新生児、乳幼児期）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
25	生涯発達心理学（児童期、青年期、老年期）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
26	認知・学習心理学(古典的条件付け、オペラント条件付け)	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
27	認知・学習心理学(視覚、記憶の効果)	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
28	各種評価法（FIM,BIなど）、リハビリテーション実施上のリスク、効果判定など	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
29	音響学	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川　芳夫
30	教育制度関連	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川　芳夫
教科書	『言語聴覚士国家試験必修ポイント2023ST基礎科目』　医歯薬出版		
参考文献			
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

学修成果	1 基礎力	2 実践力	3 人間関係力	4 生涯学習力	5 地域理解力
		●	●	●	●

科目ナンバリング
ST-3-SOC-15

科目名	言語聴覚学特別講義Ⅱ				単位認定者	櫻庭　ゆかり　鈴木　裕一 渡邊　弘人　鈴木　將太 木村　有希　中川　大介 須賀川　芳夫		評価の方法	試験(筆記)	100　%
対象学科 必修･選択 配当年次	言語聴覚学科	自由	３年	開講時期	通年	単位数	2　単位			
						授業時間数	60　時間			
				授業形態	講義	授業回数	30　回			

授業の概要	言語聴覚士が担当する言語・高次脳機能障害（失語症、高次脳機能障害、言語発達障害、発声発語の障害、聴覚障害）及び摂食嚥下障害について専門展開科目を基に総合的に復習するとともに、障害の評価や訓練についてとらえ直し、見落としがちなポイントや、理解するべき事柄を整理する。より良いリハビリテーションを提供し、対象児者の全人的復権に寄与するために知識面での補完を目指す。
到達目標	今まで学修した内容を振り返り、各科目の関係性の理解を深める。
学修者への期待等	専門展開科目を中心として言語聴覚療法を総合的に見直していく。３年間のまとめとして重要な内容となるため、積極的な受講を望む。

回	授業計画	準備学修	担当
1	運動障害性構音障害①：タイプ分類と特徴	資料を復習すること　おおむね60分	櫻庭　ゆかり
2	運動障害性構音障害②：タイプ分類と訓練法	資料を復習すること　おおむね60分	櫻庭　ゆかり
3	音声障害：タイプ分類と訓練法	資料を復習すること　おおむね60分	櫻庭　ゆかり
4	脳性麻痺：タイプ分類と訓練法	資料を復習すること　おおむね60分	櫻庭　ゆかり
5	臨床医学①　内科診断学　循環器疾患	資料を復習すること　おおむね60分	鈴木　裕一
6	臨床医学②　呼吸器疾患　膠原病・免疫疾患	資料を復習すること　おおむね60分	鈴木　裕一
7	臨床医学③　血液疾患　消化器疾患　内分泌疾患	資料を復習すること　おおむね60分	鈴木　裕一
8	臨床医学④　代謝疾患　老年病学　内科学まとめ	資料を復習すること　おおむね60分	鈴木　裕一
9	新生児から児童期までの聴覚発達 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
10	ライフステージごとの聴覚障害 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
11	ライフステージごとの聴覚障害への対応 適宜ディスカッションを行う	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	渡邊　弘人
12	高次脳機能障害　症状とメカニズム	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
13	失語症　症状とメカニズム	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
14	高次脳機能障害・失語症　検査、評価、訓練	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	鈴木　將太
15	言語発達障害　検査法(言語機能検査)	国家試験過去問題を復習しておくこと　約60分	木村　有希

回	授業計画	準備学修	担当
16	言語発達障害　検査法(発達検査・知能検査)	国家試験過去問題を復習しておくこと　約60分	木村　有希
17	言語発達障害　訓練法(ABA・インリアル)	国家試験過去問題を復習しておくこと　約60分	木村　有希
18	言語発達障害　訓練法(言語発達遅滞訓練)	国家試験過去問題を復習しておくこと　約60分	木村　有希
19	言語発達障害　訓練法(指導・支援)	国家試験過去問題を復習しておくこと　約60分	木村　有希
20	嚥下の解剖・生理。正常嚥下について	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
21	嚥下障害の評価について	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
22	摂食嚥下障害　外科的手術	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
23	摂食嚥下障害の訓練	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
24	拡大・代替コミュニケーションのツール、評価	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	中川　大介
25	機能性・器質性構音障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川　芳夫
26	吃音	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川　芳夫
27	発達障害（全般）	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川　芳夫
28	学習障害	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川　芳夫
29	ADHD	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川　芳夫
30	ASD	関連資料と国家試験問題を復習しておくこと。概ね90分	須賀川　芳夫
教科書	『言語聴覚士国家試験必修ポイント2023S専門科目』　医歯薬出版2023年版 『言語聴覚士国家試験過去３年分の問題と解説(最新版)』　大揚社		
参考文献			
備考			

※以下は該当者のみ記載する。

実務経験を有する教員による授業科目（実務経験の概要、実務経験と授業科目との関連性）

言語聴覚学科

- ナンバリング
- 学科教員一覧
- オフィスアワー
- 実務経験を有する教員の科目一覧

1. 言語聴覚学科のナンバリングの見方

【例】ST-1-○○○-01

ST	-	1	-	○○○	-	01
①	半角[-]	②	半角[-]	③	半角[-]	④

① 学科（専攻）識別番号

半角アルファベット（大文字）2 桁

全学共通教養教育科目：CO

言語聴覚学科：ST

② 科目レベル

教養科目：0（全学共通教養科目も学科独自教養科目も同じ）

専門支持科目：1

専門展開科目：2

専門独自科目：3

（学科によって専門科目の区分が若干異なるので、基礎的科目分類から順に 1 から番号を振る）

③ 科目分類

半角アルファベット（大文字）3 桁

教養教育分野	人間と文化		HCU	Human & Culture
	人間と社会		HSO	Human & Society
	人間と科学		HSC	Human & Science
専門教育分野	専門支持科目	基礎医学	BAM	Basic Medicine
		臨床医学	CLM	Clinical Medicine
		臨床歯科医学	CLD	Clinical Dentistry
		音声・言語・聴覚医学	SLH	Speech, Language, Hearing Medicine
		心理学	PCL	Psychology
		言語学	LGS	Linguistics
		音声学	PNT	Phonetics
		音響学	ACS	Acoustics
		言語発達学	LDS	Language Development Studies
		社会福祉・教育	SWE	Social Welfare and Education
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	LHD	Language Hearing Disability Studies General
		失語症・高次脳機能障害学	AHB	Aphasia, Higher Brain Function Disability Studies
		言語発達障害学	LDS	Language Development Disability Studies

専門教育分野	専門科目展開	発声発語・嚥下障害学	VDY	Vocalization and Dysphagia
		聴覚障害学	HDS	Hearing Disability Studies
		臨床実習	CLT	Clinical Training
	専門独自科目		SOC	Specialized Original Course

④ 連続番号

半角数字 2 桁

全学共通教養教育科目は全学科、以下のナンバリングを使用する。

科目名称	ナンバリング
日本語表現法	CO-0-HCU-01
英語Ⅰ	CO-0-HCU-02
歴史と文化	CO-0-HCU-03
大学生活論	CO-0-HSO-01
暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
現代の社会	CO-0-HSO-03
情報処理	CO-0-HSC-01

科目区分			授業科目の名称	ナンバリング
教養教育分野	人間と文化		日本語表現法	CO-0-HCU-01
			英語Ⅰ	CO-0-HCU-02
			英語Ⅱ	ST-0-HCU-01
			英文抄読	ST-0-HCU-02
			基礎英会話	ST-0-HCU-03
			歴史と文化	CO-0-HCU-03
	人間と社会		現代の社会	CO-0-HSO-03
			暮らしの中の法律	CO-0-HSO-02
			大学生活論	CO-0-HSO-01
	人間と科学		情報処理	CO-0-HSC-01
			統計学	ST-0-HSC-01
			健康スポーツ学Ⅰ	ST-0-HSC-02
			健康スポーツ学Ⅱ	ST-0-HSC-03
専門教育分野	専門支持科目	基礎医学	医学概論	ST-1-BAM-01
			病理学	ST-1-BAM-02
			解剖学	ST-1-BAM-03
			生理学	ST-1-BAM-04
		臨床医学	内科学	ST-1-CLM-01
			臨床神経学	ST-1-CLM-02
			小児科学	ST-1-CLM-03
			精神医学	ST-1-CLM-04
			リハビリテーション医学	ST-1-CLM-05

専門教育分野	専門支持科目	臨床医学	耳鼻咽喉科学	ST-1-CLM-06
			形成外科学	ST-1-CLM-07
		臨床歯科医学	臨床歯科医学・口腔外科学	ST-1-CLD-01
		音声・言語・聴覚医学	呼吸発声発語系の構造・機能・病態	ST-1-SLH-01
			聴覚系の構造・機能・病態	ST-1-SLH-02
			神経系の構造・機能・病態	ST-1-SLM-03
		心理学	臨床心理学	ST-1-PCL-01
			生涯発達心理学	ST-1-PCL-02
			神経心理学	ST-1-PCL-03
			心理測定法	ST-1-PCL-04
			福祉心理学	ST-1-PCL-05
			認知・学習心理学	ST-1-PCL-06
			心理学系総論	ST-1-PCL-07
		言語学	言語学	ST-1-LGS-01
			日本語文法学	ST-1-LGS-02
		音声学	音声学	ST-1-PNT-01
			音声表記・分析学	ST-1-PNT-02
		音響学	音響学	ST-1-ACS-01
			聴覚心理学	ST-1-ACS-02
		言語発達学	言語発達学	ST-1-LDS-01
		社会福祉・教育	社会保障制度・関係法規	ST-1-SWE-01
			リハビリテーション論	ST-1-SWE-02
	専門展開科目	言語聴覚障害学総論	言語聴覚障害学の基礎	ST-2-LSG-01
			言語聴覚障害診断学	ST-2-LSG-02
			言語聴覚障害学総論	ST-2-LSG-03
			言語聴覚障害学臨床応用	ST-2-LSG-04
		失語症・高次脳機能障害学	失語症概論	ST-2-AHB-01
			高次脳機能障害概論	ST-2-AHB-02
			失語症・高次脳機能障害Ⅰ	ST-2-AHB-03
			失語症・高次脳機能障害Ⅱ	ST-2-AHB-04
			高次脳機能系総論	ST-2-AHB-05
		言語発達障害学	言語発達障害Ⅰ	ST-2-LDS-01
			言語発達障害Ⅱ	ST-2-LDS-02
			脳性麻痺・運動発達の障害	ST-2-LDS-03
			学習障害・発達障害	ST-2-LDS-04
			拡大・代替コミュニケーション	ST-2-LDS-05

専門教育分野	専門展開科目	発声発語・嚥下障害学	音声障害	ST-2-VDY-01
			器質性・機能性構音障害	ST-2-VDY-02
			運動障害性構音障害Ⅰ	ST-2-VDY-03
			運動障害性構音障害Ⅱ	ST-2-VDY-04
		発声発語・嚥下障害学	吃音概論	ST-2-VDY-05
			摂食嚥下障害Ⅰ	ST-2-VDY-06
			摂食嚥下障害Ⅱ	ST-2-VDY-07
		聴覚障害学	成人・小児の聴覚障害	ST-2-HDS-01
			聴能・発語訓練演習	ST-2-HDS-02
			聴力検査	ST-2-HDS-03
			視覚聴覚二重障害・重複障害	ST-2-HDS-04
			補聴器・人工内耳	ST-2-HDS-05
			聴覚障害学総論	ST-2-HDS-06
			音と聴力	ST-2-HDS-07
		臨床実習	臨床実習Ⅰ（見学実習）	ST-2-CLT-01
			臨床実習Ⅱ（評価実習）	ST-2-CLT-02
			臨床実習Ⅲ（総合実習前期）	ST-2-CLT-03
			臨床実習Ⅳ（総合実習後期）	ST-2-CLT-04
	専門独自科目		自然科学概論	ST-3-SOC-01
			生命科学の基礎	ST-3-SOC-02
			口腔顔面の感覚・運動障害総論	ST-3-SOC-03
			地域リハビリテーション論	ST-3-SOC-04
			認知症のリハビリテーション	ST-3-SOC-05
			神経の診かた	ST-3-SOC-06
			動作分析の基礎	ST-3-SOC-07
			疾病論	ST-3-SOC-08
			口腔衛生論	ST-3-SOC-09
			リハビリテーション栄養学	ST-3-SOC-10
			保険診療・介護保険制度	ST-3-SOC-11
			視覚言語論	ST-3-SOC-12
			補綴・補装具論	ST-3-SOC-13
			言語聴覚学特別講義Ⅰ	ST-3-SOC-14
			言語聴覚学特別講義Ⅱ	ST-3-SOC-15

言語聴覚学科　教員一覧

	職位	氏名	研究室	電話番号	E-mail
1	教授 (学科長)	櫻庭（さくらば）　ゆかり	櫻庭 研究室	022-738-7715	y_sakuraba@seiyogakuin.ac.jp
2	教授	鈴木（すずき）　裕一（ゆういち）	鈴木 研究室	022-302-5480	yi_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
3	講師	渡邊（わたなべ）　弘人（ひろと）	共同 研究室	022-738-7738	h_watanabe@seiyogakuin.ac.jp
4	助教	中川（なかがわ）　大介（だいすけ）		022-738-7798	d_nakagawa@seiyogakuin.ac.jp
5	助教	鈴木（すずき）　將太（まさひろ）	共同 研究室	022-738-7836	ms_suzuki@seiyogakuin.ac.jp
6	助教	木村（きむら）　有希（ゆき）		022-738-7815	yu_kimura@seiyogakuin.ac.jp
7	助教	江畑（えばた）　綾（あや）			

言語聴覚学科　オフィスアワー

オフィスアワーとは、教員が学生の皆さんとのコミュニケーションを充実させ、個別に相談を受けるために研究室に在室する時間を設ける制度のことです。

相談を希望する教員のオフィスアワーの時間帯は、掲示などによりお知らせします。指定時間に教員が研究室で待機していますが、臨時の会議や出張などにより不在の場合もありますので、電話・メールなどで事前に連絡をとることをおすすめします。

非常勤の先生には、非常勤講師控室（１階事務室内にあります）または授業後の教室で相談をすることができます。

言語聴覚学科　実務経験を有する教員の科目一覧

科目名	単位	実務教員	実務の概要
聴覚系の構造・機能・病態	1	渡邊　弘人	言語聴覚士。病院・高齢者施設における臨床の実務経験を有する。
言語聴覚障害学の基礎	1	渡邊　弘人	言語聴覚士。病院・高齢者施設における臨床の実務経験を有する。
		木村　有希	言語聴覚士。成人・小児の臨床の実務経験を有する。
失語症概論	1	鈴木　將太	言語聴覚士。病院において、失語症・高次脳機能障害の臨床の実務経験を有する。
高次脳機能障害概論	1	鈴木　將太	言語聴覚士。病院において、失語症・高次脳機能障害の臨床の実務経験を有する。
言語発達障害Ⅰ	1	木村　有希	言語聴覚士。小児に関連する施設における臨床の実務経験を有する。
運動障害性構音障害Ⅰ	1	櫻庭　ゆかり	言語聴覚士。運動障害性構音障害に関する臨床の実務経験を有する。
摂食嚥下障害Ⅰ	1	中川　大介	言語聴覚士。嚥下障害の臨床の実務経験を有する。
成人・小児の聴覚障害	1	渡邊　弘人	言語聴覚士。病院・施設における臨床の実務経験を有する。
聴力検査	1	渡邊　弘人	言語聴覚士。病院・施設における臨床の実務経験を有する。
臨床実習Ⅰ（見学実習）	1	櫻庭　ゆかり	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		渡邊　弘人	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		鈴木　將太	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		木村　有希	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		中川　大介	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
言語発達障害Ⅱ	2	木村　有希	言語聴覚士。小児に関連する施設における臨床の実務経験を有する。
運動障害性構音障害Ⅱ	2	櫻庭　ゆかり	言語聴覚士。運動障害性構音障害に関する臨床の実務経験を有する。
摂食嚥下障害Ⅱ	2	中川　大介	言語聴覚士。嚥下障害の臨床の実務経験を有する。
臨床実習Ⅱ（評価実習）	1	櫻庭　ゆかり	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		渡邊　弘人	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		鈴木　將太	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		木村　有希	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
		中川　大介	言語聴覚士。5年以上の実務経験を有する。
	17	実務経験を有する教員が担当する科目の単位	
	93	設置基準上の標準単位数	